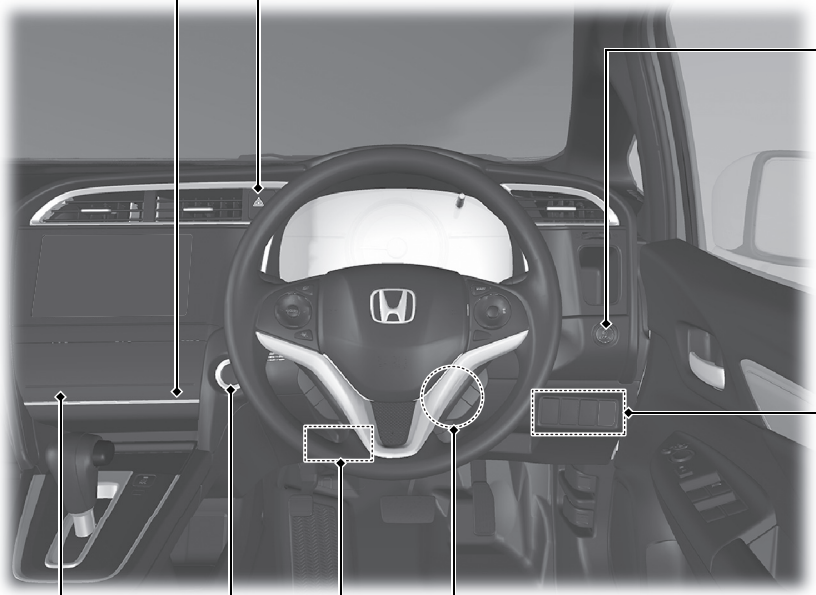
HONDA

Shuttle

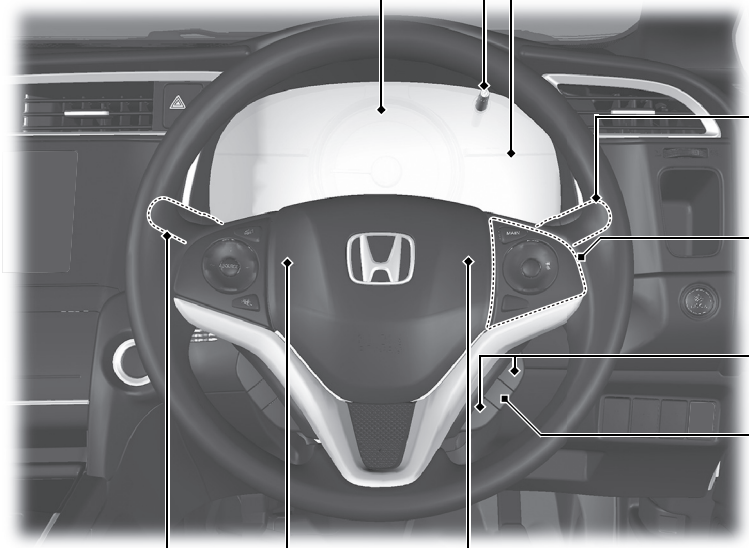
オーナーズマニュアル

クイックガイド
安全なドライブ
計器の見かた
各部の操作
オーディオ
運転
メンテナンス
万一の場合には
資料
索引

ビジュアル目次



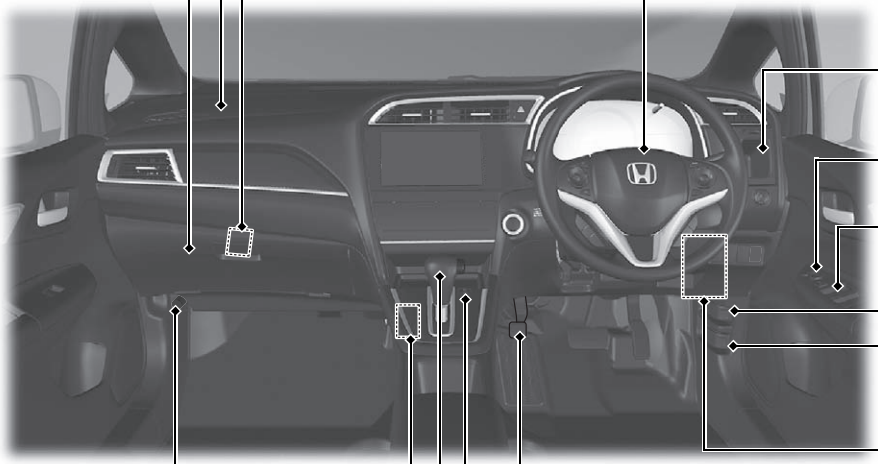
- オートエアコン P. 186
- 非常点滅表示灯スイッチ（ハザードスイッチ）
- ECON スイッチ P. 211
- (CMBS OFF) スイッチ* P. 218
- (路外逸脱抑制)スイッチ* P. 256
- (VSA OFF) スイッチ P. 213
- オートリトラミラーOFF スイッチ* P. 163
- フロントガラス熱線スイッチ* P. 157
- ヘッドライトレベリングダイヤル* P. 154
- Honda スマートキーシステム非装備車
  エンジンスイッチ P. 145
- ハンドル位置調節レバー P. 160
- Honda スマートキーシステム装備車
  ENGINE START/STOP スイッチ P. 146
- リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー* P. 157



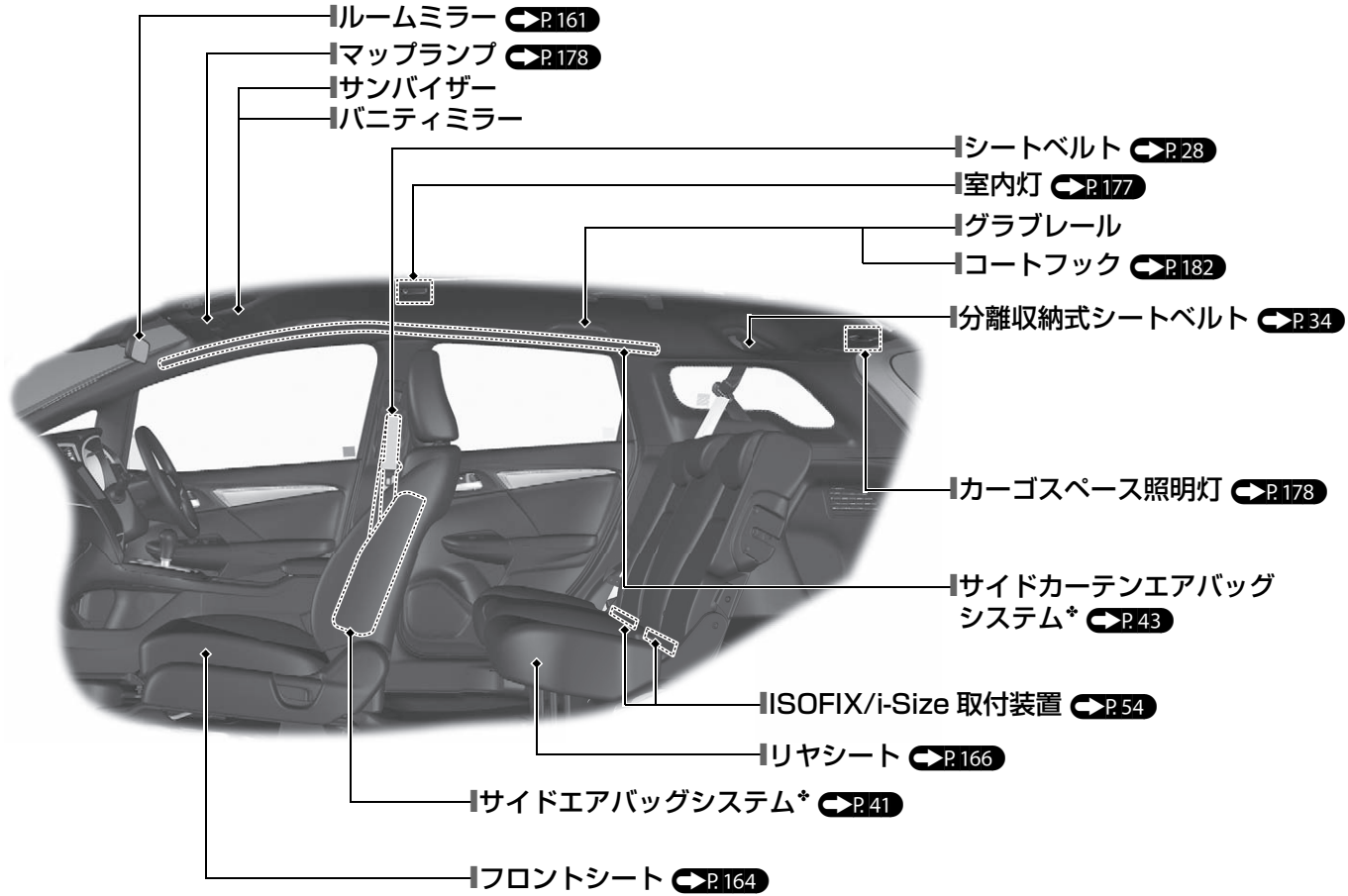
- メーター P. 96
- 警告灯 P. 62
- 表示灯 P. 76
- 時計 P. 122
- セレクト / リセットノブ P. 98, 122, 158
- インフォメーションディスプレイ* P. 98
- マルチインフォメーションディスプレイ* P. 101
- ライト / 方向指示器(ウィンカー)スイッチ P. 150, 151
- フォグライトスイッチ* P. 153
- MAIN スイッチ* P. 231
- ディスタンススイッチ* P. 239
- (LKAS)スイッチ* P. 245
- インフォメーション( )スイッチ(▲ / ▼)* P. 102
- SEL/RESET スイッチ* P. 103
- ホーンスイッチ(周辺)
- ワイパー/ ウォッシャースイッチ P. 155

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次

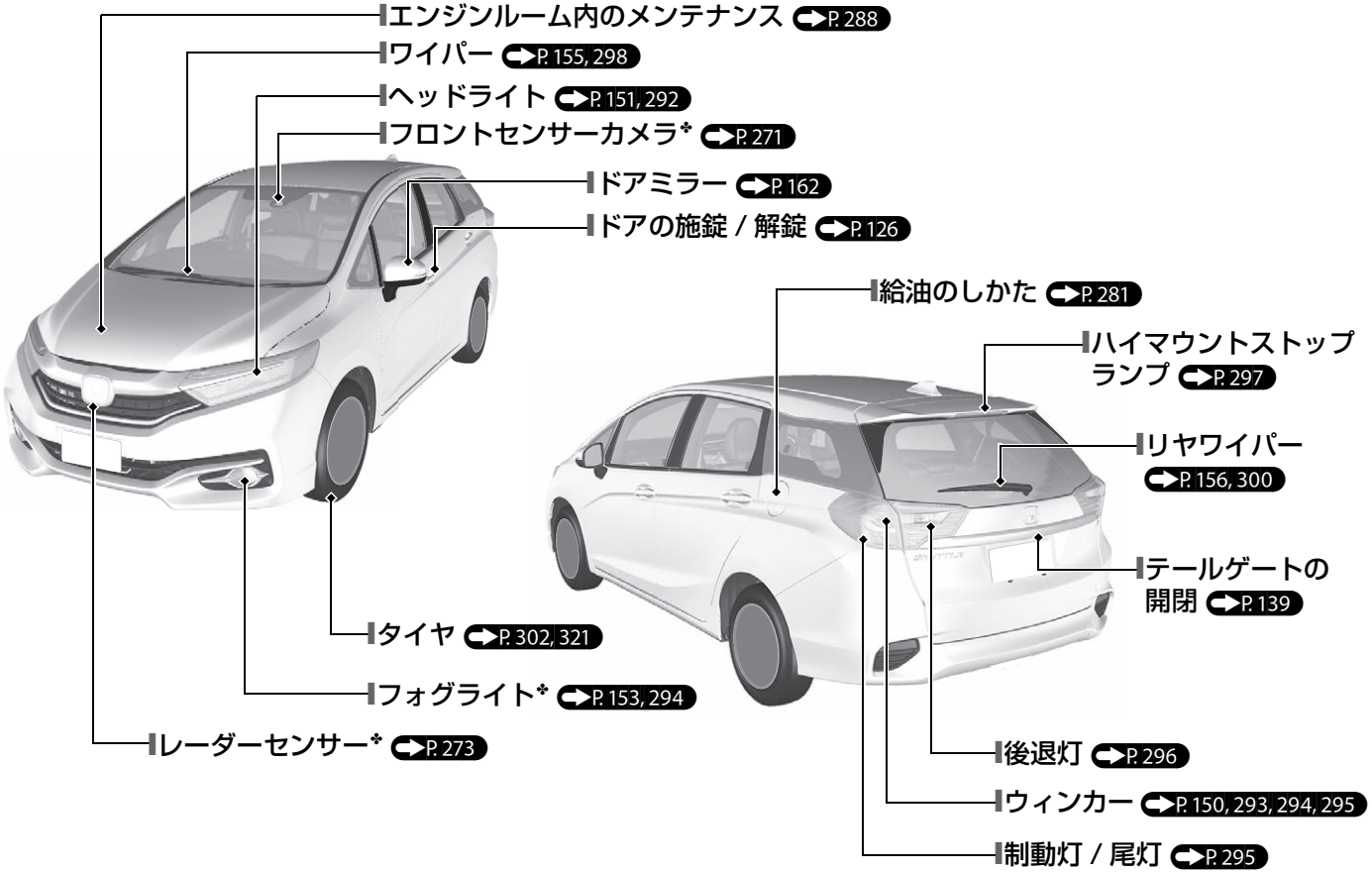


- グローブボックス P. 179
- SRS エアバッグシステム（助手席用） P. 38
- 室内助手席側ヒューズボックス* P. 353
- SRS エアバッグシステム（運転席用） P. 38
- 小物入れ
- ドアミラー調節スイッチ P. 162
- パワーウィンドースイッチ P. 143
- フューエルリッドオープナー P. 281
- ボンネット解除ノブ P. 289
- 室内運転席側ヒューズボックス P. 349
- パーキングブレーキ P. 274
- アイドリングストップシステム OFF スイッチ P. 207
- セレクトレバー P. 205
- アクセサリーソケット P. 181
- 発炎筒 P. 320



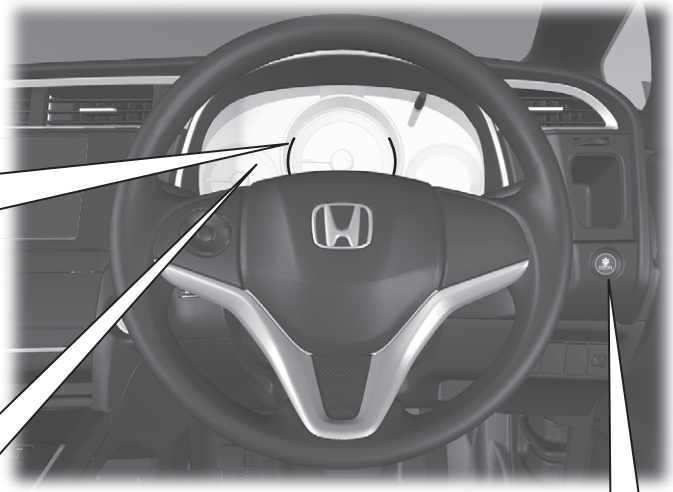
この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次


エンジンルーム内のメンテナンス P. 288
ワイパー P. 155, 298
ヘッドライト P. 151, 292
フロントセンサーカメラ* P. 271
ドアミラー P. 162
ドアの施錠 / 解錠 P. 126
給油のしかた P. 281
ハイマウントストップランプ P. 297
リヤワイパー P. 156, 300
テールゲートの開閉 P. 139
タイヤ P. 302, 321
フォグライト* P. 153, 294
レーダーセンサー* P. 273
後退灯 P. 296
ウィンカー P. 150, 293, 294, 295
制動灯 / 尾灯 P. 295

エコアシストシステム

インフォメーションディスプレイ装備車



アンビエントメーター

●運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

ECON 表示灯 P. 78

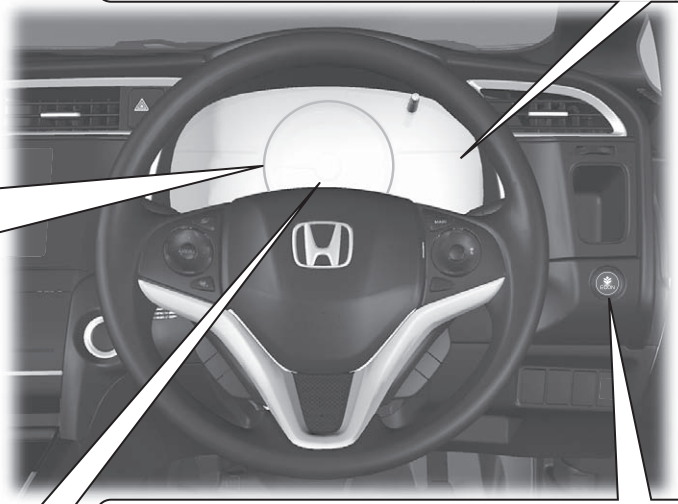
●ECON モードが ON のときに点灯します。

ECON スイッチ P. 211

●スイッチを押すと、ECON モードが ON になり、運転の状況に応じて省燃費制御します。

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ECON スイッチを押すと、メッセージを数秒間表示します。



アンビエントメーター

●運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

ECON 表示灯

●ECON モードが ON のときに点灯します。

ECON スイッチ P. 211

●スイッチを押すと、ECON モードが ON になり、運転の状況に応じて省燃費制御します。

アイドリングストップシステム

燃費向上のために、下記の手順によりアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。
アイドリングストップしているときは、メーター内のアイドリングストップ表示灯（グリーン）が点灯します。P. 207

走行状態	操作	操作後のエンジンの状態
減速	停車してブレーキペダルを踏む。	エンジン作動中
停車	ブレーキペダルを踏み続ける。	アイドリングストップ中
発進	ブレーキペダルを離す。	エンジンが自動的に再始動

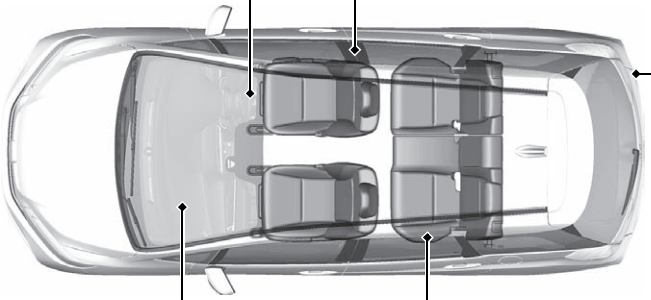
安全なドライブ P. 26

●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認 P. 27

●運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。

シートベルト P. 28

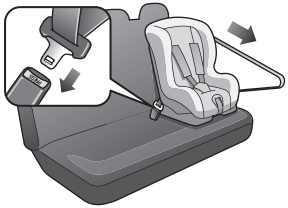


排気ガスについて P. 60

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンを始動しないでください。

お子さまの安全 P. 47

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



エアバッグ P. 38

●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

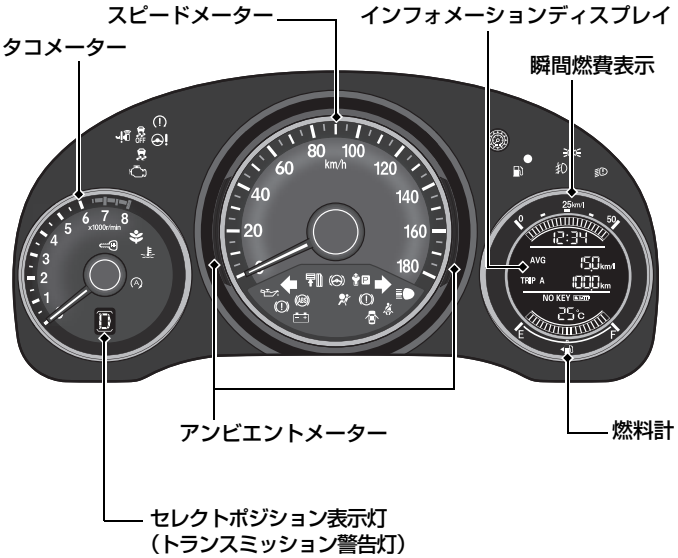
計器の見かた P.61

インフォメーションディスプレイ装備車

警告灯 P.62 表示灯 P.76 メーター P.96 インフォメーションディスプレイ P.98

警告灯 / 表示灯

- EPS システム警告灯
- セキュリティアラーム システム作動表示灯
- Honda スマートキー システム警告灯✤
- VSA OFF 警告灯
- VSA 警告灯
- オートライト コントロール警告灯✤
- ECON 表示灯
- PGM-FI 警告灯
- 高水温警告灯(レッド)/ 低水温表示灯(ブルー)
- 油圧警告灯
- 充電警告灯
- アイドリングストップ表示灯(グリーン)/ アイドリングストップシステム OFF 表示灯(オレンジ点灯)/ アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ点滅)
- スターターシステム警告灯
- セレクトポジション P 移動警告灯



ライト表示灯

- ハイビーム表示灯
- ライト点灯表示灯
- フォグライト点灯表示灯✤

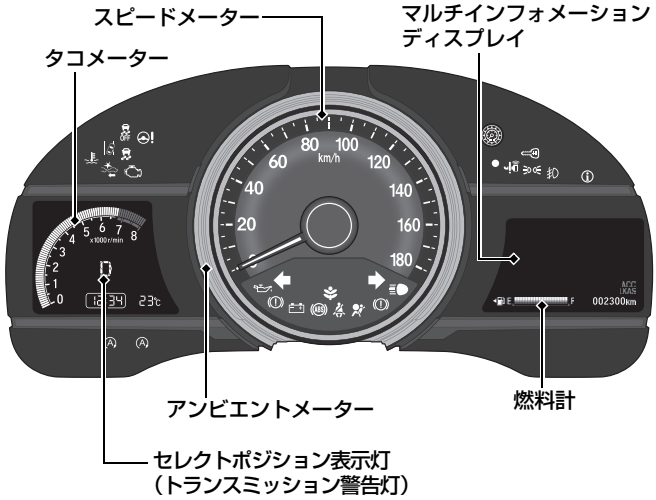
警告灯 / 表示灯

- 方向指示器 / 非常点滅表示灯
- エアバッグシステム警告灯
- イモビライザーシステム表示灯
- シートベルト非着用警告灯
- ドア / テールゲート開閉警告灯
- 燃料残量警告灯
- ABS 警告灯
- ブレーキ警告灯(レッド)
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
- KEY BATT Honda スマートキー電池消耗警告灯✤
- NO KEY Honda スマートキー持ち去り警告灯✤
- ブレーキ踏み込み不足表示灯
- ハンドル操作表示灯✤

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

警告灯 P.62 表示灯 P.76 メーター P.96 マルチインフォメーションディスプレイ P.101



警告灯 / 表示灯

- EPS システム警告灯
- セキュリティアラーム システム作動表示灯
- Honda スマートキー システム警告灯*
- VSA OFF 警告灯
- VSA 警告灯
- ECON 表示灯
- PGM-FI 警告灯
- 高水温警告灯（レッド）/ 低水温表示灯（ブルー）
- 油圧警告灯
- 充電警告灯

ライト表示灯

- ハイビーム表示灯
- フォグライト点灯表示灯*
- ライト点灯表示灯

警告灯 / 表示灯

- アイドリングストップ表示灯（グリーン）/ アイドリングストップシステム OFF 表示灯（オレンジ点灯）/ アイドリングストップシステム警告灯（オレンジ点滅）

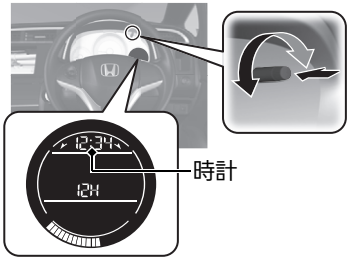
警告灯 / 表示灯

- ACC　ACC 警告灯*（オレンジ）/ ACC 表示灯*（グリーン）
- LKAS　LKAS 警告灯*（オレンジ）/ LKAS 表示灯*（グリーン）
- 路外逸脱抑制機能警告灯
- インフォメーション表示灯
- CMBS 警告灯
- 方向指示器 / 非常点滅表示灯
- エアバッグシステム警告灯
- イモビライザーシステム表示灯
- シートベルト非着用警告灯
- ABS 警告灯
- ブレーキ警告灯（レッド）
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）

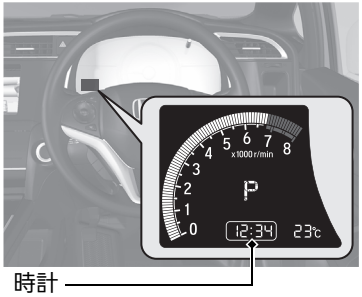
各部の操作 P. 121

時刻を合わせる P. 122

インフォメーションディスプレイ装備車



マルチインフォメーションディスプレイ装備車

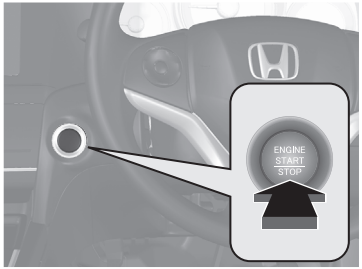


Honda インターナビシステム装備車

Honda インターナビシステム装備車の時計は、人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

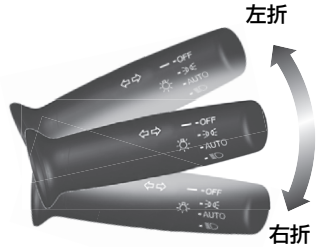
ENGINE START/STOP スイッチ✤ P. 146

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



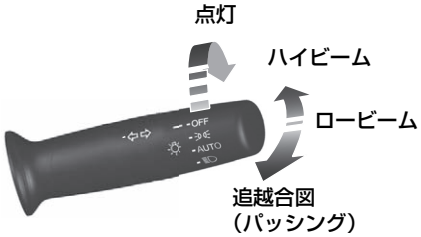
ウィンカー P. 150

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



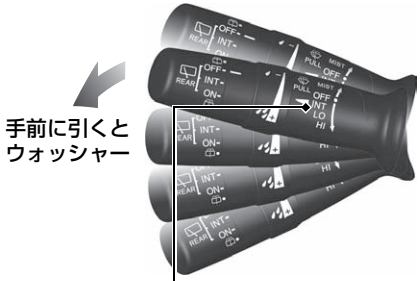
ライト P. 151

ライトスイッチ



ワイパー P. 155

ワイパー/ ウォッシャースイッチ

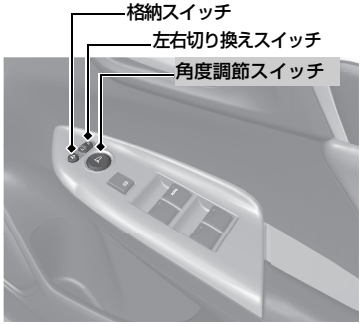


- MIST(レバーを操作している間作動)
- OFF 停止
- INT 間欠(雨量が少ないとき)
- LO 低速(普通の雨量のとき)
- HI 高速(雨量の多いとき)

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

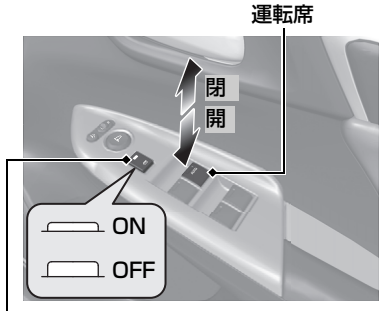
ドアミラー P.162

●エンジンスイッチが II ※1 のとき、ドアミラーの格納または角度の調節ができます。



パワーウィンドー P.143

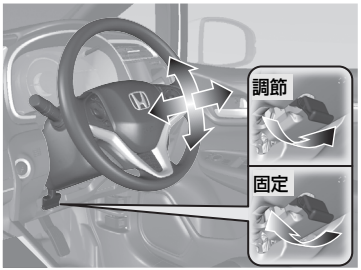
●エンジンスイッチが II ※1 のとき、ウィンドーの開閉ができます。



パワーウィンドーロックボタン
- ON　運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF　全てのウィンドーが作動

ハンドル位置の調節 P.160

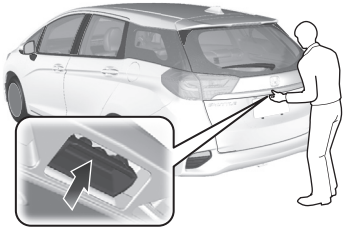
●ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



テールゲート P.139

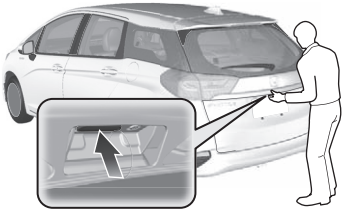
Honda スマートキーシステム非装備車

●テールゲートは、テールゲートハンドルを引いて開きます。



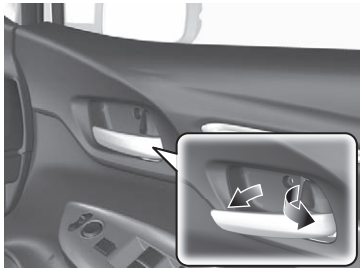
Honda スマートキーシステム装備車

●テールゲートは、テールゲートオープンスイッチを押して開きます。



運転席ドアハンドルでの解錠 P.137

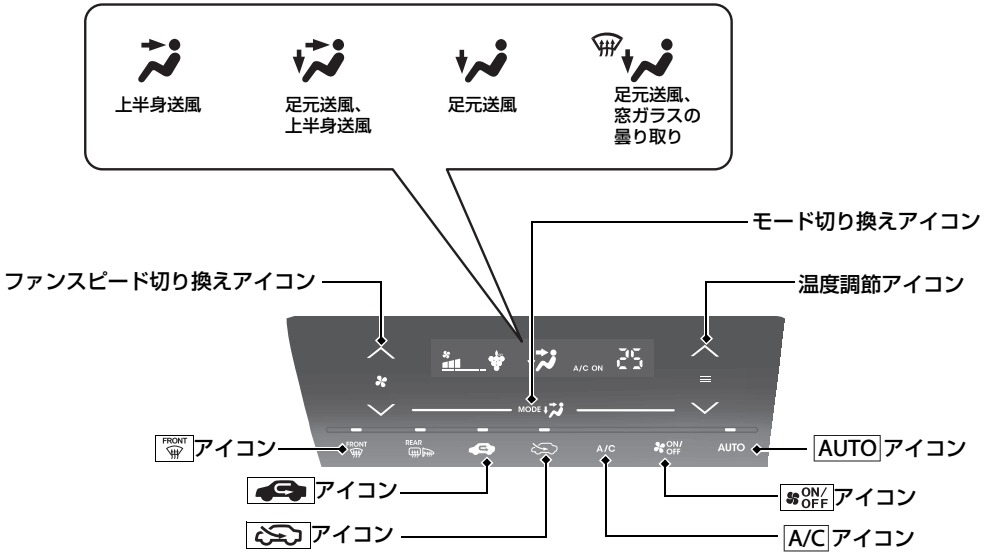
●運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。



※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

エアコン P.185

- AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
- ON/OFF を押すと、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、FRONT を押します。



運転 P.195

無段変速オートマチック車 P.204

●セレクトレバーを P に入れ、ブレーキを踏みながらエンジンを始動します。

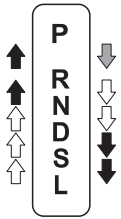
セレクトレバー

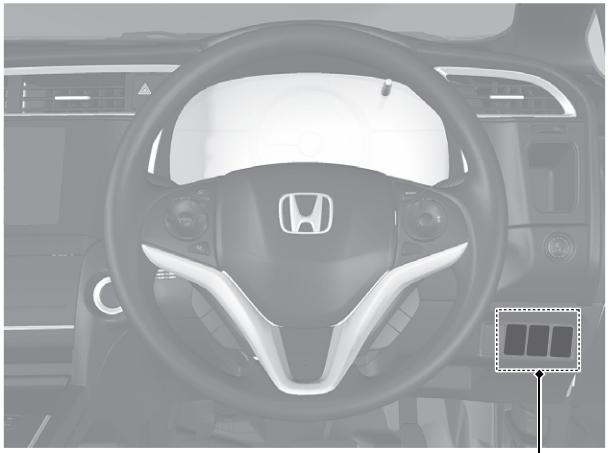
セレクトレバーの操作

ブレーキペダルを右足で踏み、ボタンを押して操作

ボタンを押して操作

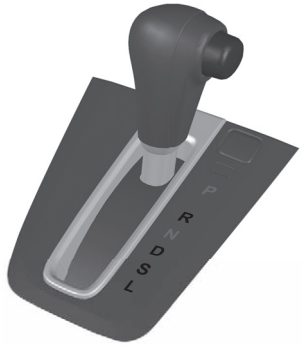
ボタンを押さずそのまま操作





(VSA OFF) スイッチ

(CMBS OFF) スイッチ*



P	パーキング 駐車またはエンジンの始動
R	リバース 車を後退
N	ニュートラル アイドリング状態
D	ドライブ 通常走行
S	ドライブ(S) • 高回転領域を有効に使用 • 上り坂や下り坂を走行するとき
L	ロー • 強いエンジンブレーキが必要なとき • 上り坂や下り坂を走行するとき

VSA の ON と OFF P. 213

●VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
●エンジンを始動すると自動的に VSA は ON になります。
●VSA を停止（OFF）状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用（ON）するにはを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

CMBS の ON と OFF✤

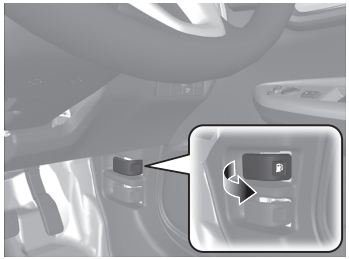
P. 218

●CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝突の衝撃を軽減する装置です。
●エンジンを始動すると自動的に CMBS は ON になります。
●CMBS を停止（OFF）状態にするには、を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用（ON）するにはを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。

ガソリンを入れる P. 281

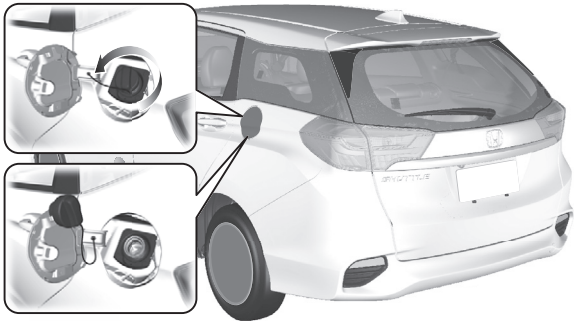
指定燃料：	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）
タンク容量：	40 リットル

❶ フューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開ける。



❷ ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。

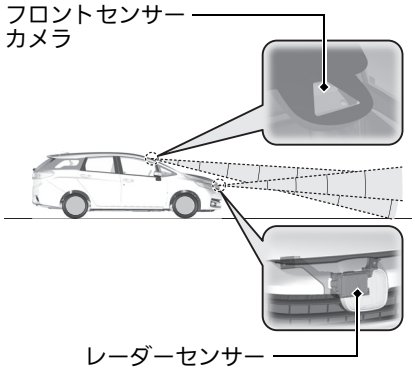
❸ キャップをホルダーにかける。



この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ホンダセンシング✤ P. 214

フロントグリル内に設置されたレーダーセンサーと、フロントウィンドー内上部に設置されたフロントセンサーカメラの、特性の異なる 2 種類のセンサーで構成された運転支援システムです。
ホンダセンシングは、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。



衝突軽減ブレーキ（CMBS）

P. 215

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

誤発進抑制機能 P. 222

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面の近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

歩行者事故低減ステアリング P. 224

歩行者と白線（黄線）を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

ACC（アダプティブクルーズコントロール）

P. 229

先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。

LKAS（車線維持支援システム） P. 242

左右の白線（黄線）をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

路外逸脱抑制機能 P. 253

車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

先行車発進お知らせ機能

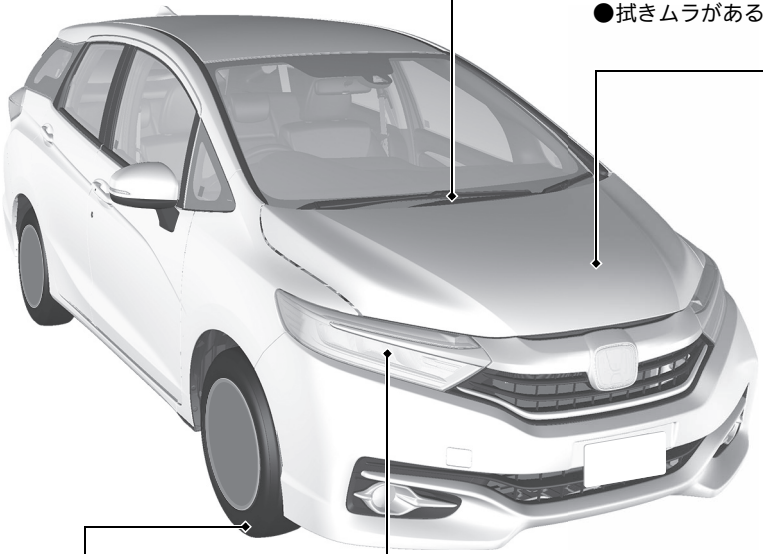
P. 260

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

標識認識機能 P. 264

走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

メンテナンス P. 284



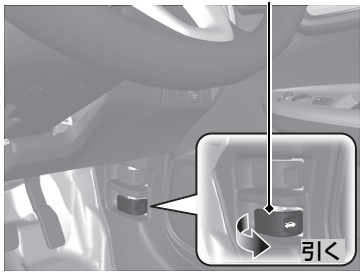
ワイパーブレード P. 298

●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

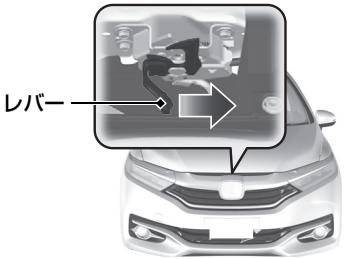
エンジンルーム P. 288, 291, 340

●冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
●バッテリーを点検します。

❶ 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



❷ レバーを押してボンネットを開ける。



タイヤ P. 302

●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

ライト P. 292, 317

●ヘッドライト、後退灯電球などの点検または交換を行います。
●電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。P. 355

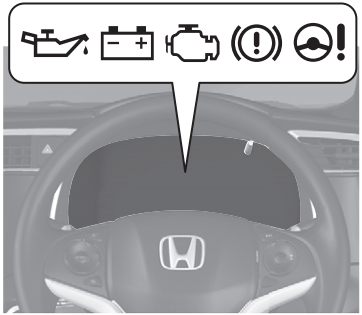
万一の場合には P. 319

パンクした P. 321

●安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。

警告灯が点灯した P. 342

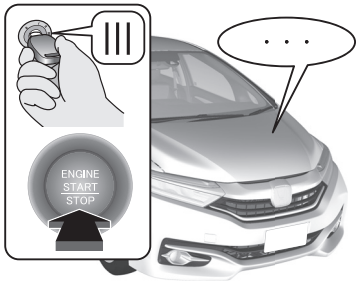
●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



エンジンが始動しない

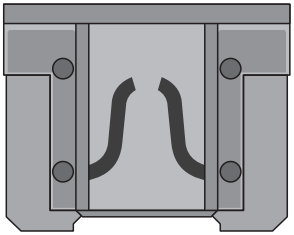
P. 334

●バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。



ヒューズが切れた P. 346

●室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



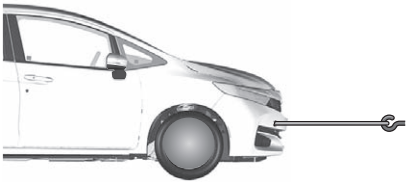
オーバーヒートした P. 340

●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。

けん引してもらいたい

P. 356

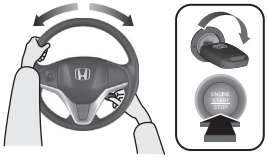
●必ず専門業者に依頼してください。やむをえず 4 輪を接地したままけん引される場合は、取扱説明書にしたがってください。



こんなときは

Q Honda スマートキーシステム装備車
ENGINE START/STOP **のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードにならない**
Honda スマートキーシステム非装備車
キーが 0 から I に回らない

A
- ハンドルがロックされていませんか？
  ハンドルを左右に回しながら、キーを回してください。Honda スマートキー装備車は、ENGINE START/STOP を押してください。



Q Honda スマートキーシステム装備車
ENGINE START/STOP **のパワーモードが OFF モードにならない**
Honda スマートキーシステム非装備車
キーが I から 0 に回らない（キーが抜けない）

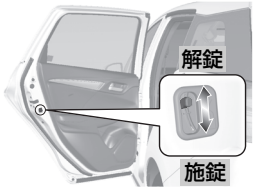
A
- セレクトレバーが P 以外の位置になっていませんか？

Q **ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した**

A
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
  これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
  そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。
  ➡ ABS（アンチロックブレーキシステム） P. 276

Q **後席ドアが車内から開けられない**

A
- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？
  後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのツマミを解錠の位置にしてください。



Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A
- キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステム✤ で解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。

Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A

Honda スマートキーシステム非装備車
- キーをエンジンスイッチに差し込んでいませんか？

Honda スマートキーシステム装備車
- パワーモードを OFF モード以外にしていませんか？

共通
- ライトを消し忘れていませんか？
- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けていませんか？

Q Honda スマートキーシステム装備車
ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴る

A
- ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？

➡ 施錠するには（降車時オートドアロック機能） P. 132

Q 走行するとブザーが鳴る

A
- 運転席または助手席✤ シートベルトを着用していますか？
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

A
- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム（ハイオク）ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

A
- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

HondaおよびHondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

安全なドライブ P.26

安全なドライブのために 27
シートベルト 28
エアバッグ 38
お子さまの安全 47
排気ガスの危険性 60

計器の見かた P.61

警告灯と表示灯 62
メーターとインフォメーションディスプレイ 96

各部の操作 P.121

時刻の設定 122
ドアロック 126
テールゲート 139
セキュリティシステム 141
ウィンドー 143
ハンドルまわりのスイッチ 145
ミラー類 161
シート 164
室内灯 / 室内装備品 177
エアコン 185

オーディオ P.193

運転 P.195

運転の前に 196
運転 198
ホンダセンシング 214
ブレーキ 274
駐停車 279
給油 281

メンテナンス P.284

メンテナンスの前に 285
エンジンルーム内 288
電球 292
ワイパー 298
タイヤ 302
キーレスエントリー一体キー/Honda スマートキー 309
エアコンのお手入れ 311
清掃 313
アクセサリーと改造 318

万一の場合には P.319

工具、発炎筒 320
パンク 321
ジャッキ 332
エンジンが始動しない 334
ジャンプスタート 337
セレクトレバーが動かない 339
オーバーヒート 340
警告灯が点灯 / 点滅した 342
ヒューズ 346
けん引 356
テールゲートが開かない 359

資料 P.361

仕様 362

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために 27
シートベルト
シートベルトについて 28
シートベルトの着用 31
シートベルトの点検 37
エアバッグ
エアバッグの種類 38
SRS エアバッグ 38
サイドエアバッグ✤ 41
サイドカーテンエアバッグ✤ 43
エアバッグシステム警告灯 45
エアバッグのお手入れ 46
お子さまの安全 47
乳幼児の安全 48
大きなお子さまの安全 58
排気ガスの危険性
一酸化炭素について 60

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
  ▶ すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  ➡ **車内での施錠 / 解錠** P.137
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  ➡ **フロントシート** P.164
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  ➡ **フロントシート** P.164
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➡ **シートベルトの着用** P.31
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  ➡ **エアバッグ** P.38
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➡ **お子さまの安全** P.47
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P にしているか？
  ▶ さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
  ➡ **シフト操作** P.205
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
  ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

≫安全のための確認事項

ドア / テールゲート開閉警告灯✤ が点灯している場合は、完全に閉まっていないドア、テールゲートがあります。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。「ドア / テールゲート開閉警告灯✤」は消灯し、正常な状態に戻ります。

➡ **ドア / テールゲート開閉警告灯✤** P.67

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

シートベルトについて

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■シートベルトリマインダー

エンジンスイッチを II ※1 にしたときや走行したとき、運転席または助手席✤ のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

シートベルトリマインダー

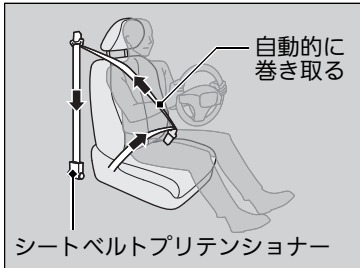
- 運転席または助手席✤ のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーを R に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

助手席シートベルトリマインダー装備車

- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面✤ からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



シートベルトプリテンショナー

⚠注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

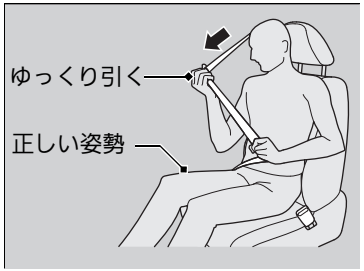
シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

サイドカーテンエアバッグ装備車
側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。

3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

次ページに続く

シートベルトの着用

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

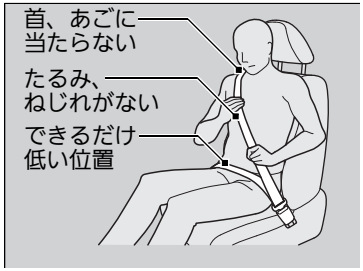
⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。

▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。

▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。

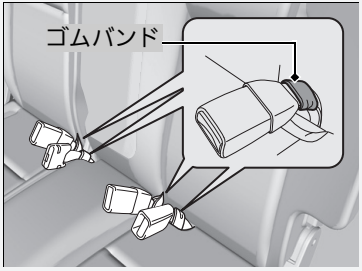
▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

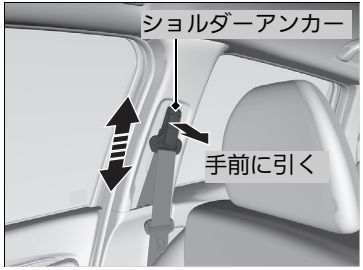
シートベルトの着用

リヤシートのシートベルトのバックルをゴムバンドから外さないでください。

シートアレンジなどのときにバックルがシートクッションの下に落ちることがあります。



■ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンをつまんで手前に引きながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

次ページに続く

≫ショルダーアンカーの高さ調節

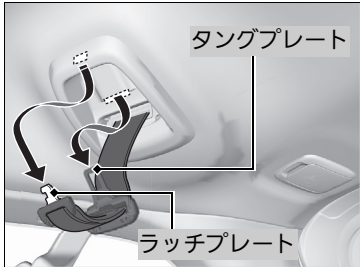
⚠注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

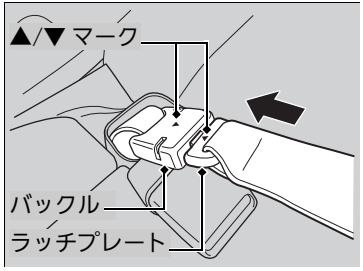
安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

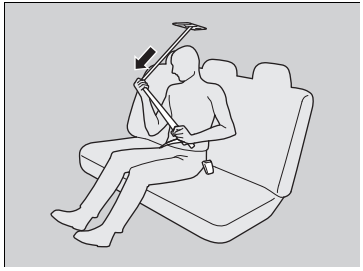
■分離収納式シートベルト



1. 天井の固定部からシートベルトのラッチプレートを外す。



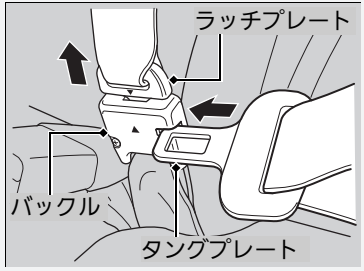
2. ラッチプレートを引き出し、▲ マークがついているバックルに差し込む。
▶ ラッチプレートの ▼ マークとバックルの ▲ マークを合わせて差し込みます。

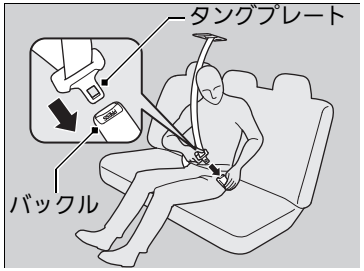


3. 正しい姿勢でシートにすわる。
4. タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出す。

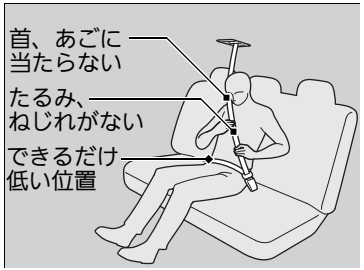
分離収納式シートベルト

シートベルトを分離・収納するときは、タングプレートを ▲ マークがついているバックルの溝に差し込み、ラッチプレートを外してください。





5. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。



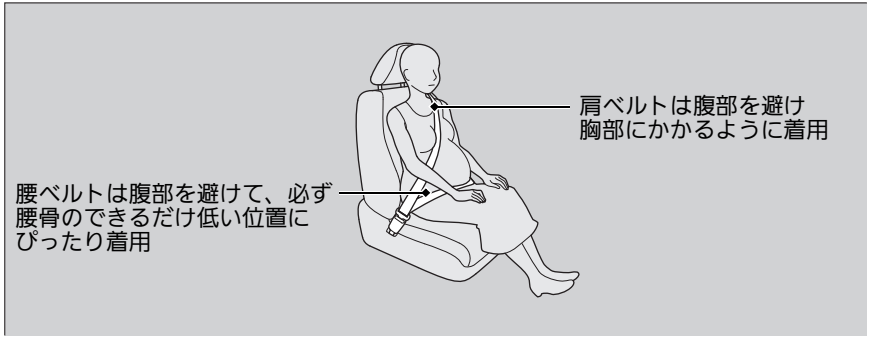
6. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

7. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

次ページに続く

■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

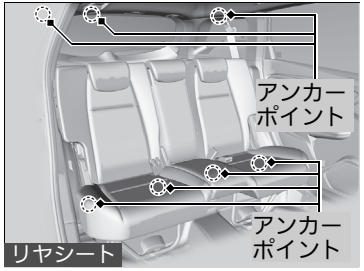
シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント

シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、エンジンスイッチが II ※1 のときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ：**フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ✤：**フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ✤：**窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エアバッグの種類

⚠警告

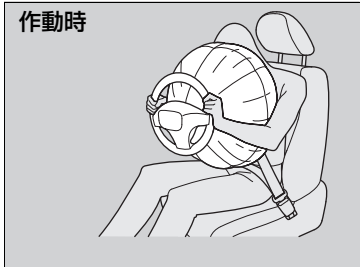
エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h 以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次ページに続く

SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

⚠注意

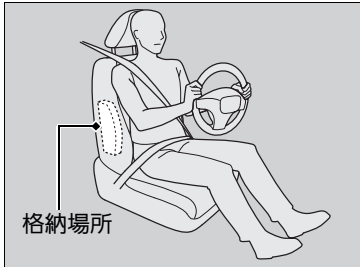
SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ✤

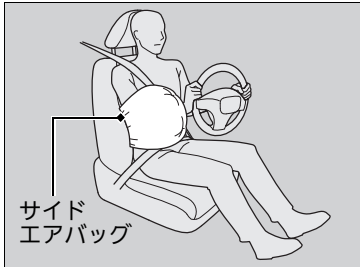
フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

サイドエアバッグ✤

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドエアバッグ*

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

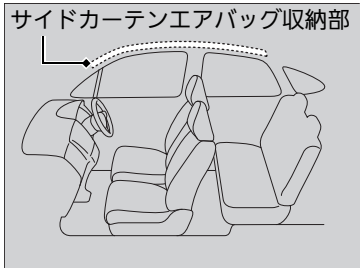
エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

サイドカーテンエアバッグ✤

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

サイドカーテンエアバッグ✤

⚠注意

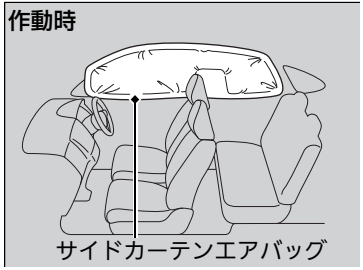
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

■作動のしくみ



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

➲ 作動条件 P.42

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

⇒サイドカーテンエアバッグ✤

⚠注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイ✤ で知らせます。

■エアバッグシステム警告灯

■エンジンスイッチを II ※1 にしたとき

エンジンスイッチを II ※1 にすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

≫エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
エンジンスイッチを II ※1 にしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

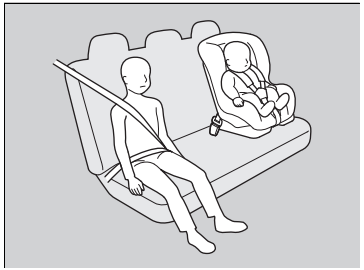
一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグのお手入れ

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまの安全を守るために

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告

シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

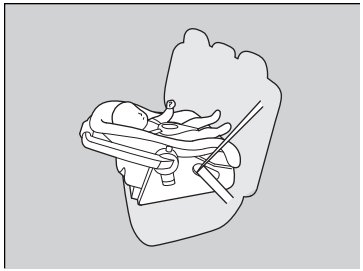
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- サイドエアバッグシステム装備車は、お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

▶ 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

⇒乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

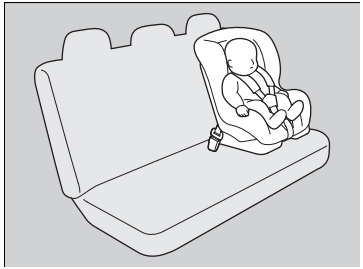
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

次ページに続く

幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属しているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジまたはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

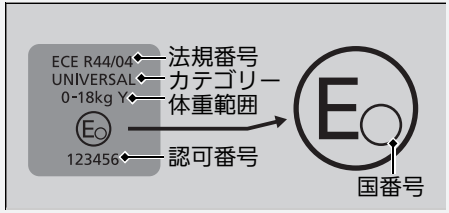
UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

⟫チャイルドシートの選びかた

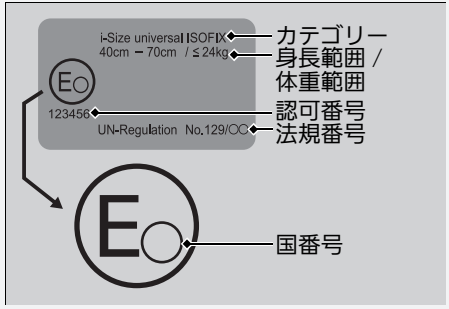
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けが簡単です。
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

UN R44 認可表示（例）



UN R129 認可表示（例）



■シート位置別チャイルドシート情報

U	車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサルチャイルドシート に適している。
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサルチャイルドシートに適している。
i	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している。
	前向きチャイルドシートのみに適している。
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止。
	トップテザーアンカレッジを装備している座席。

※1：チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節し、シートバックを最も前のロック位置に調節すること。

次ページに続く

シートの位置番号	シートの位置			
	❶ 助手席	❷ 後席（左側）	❸ 後席（中央）	❹ 後席（右側）
ベルト固定の汎用チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	有※1 前向き搭載のみ	有	有	有
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	無	有	無	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	有	有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具（L1/L2）	無	無	無	無
搭載可能な最大の後ろ向きチャイルドシート固定具（R1/R2X/R2/R3）	無	R3	無	R3
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具（F2X/F2/F3）	無	F3	無	F3
搭載可能な最大の前向きブースターシート固定具（B2/B3）	B3	B3	B3	B3

※1 ：チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節し、シートバックを最も前のロック位置に調節すること。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。

シート位置別チャイルドシート情報

⚠警告

シートベルトは必ず正しく着用する

シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	―
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

■推奨チャイルドシート

UN R44 適合チャイルドシート

質量グループ	チャイルドシート	カテゴリー
0 10kg 未満 (0 ～ 9ヶ月)	Honda ISOFIX Neo Honda スタンダード	準汎用 ISOFIX(後向き) 汎用シートベルト固定(後向き)
0 + 13kg 未満 (0 ～ 2 歳)	Honda ISOFIX Neo Honda スタンダード	準汎用 ISOFIX(後向き) 汎用シートベルト固定(後向き)
I 9 ～ 18kg (9ヶ月～ 4 歳)	Honda ISOFIX Neo Honda スタンダード	準汎用 ISOFIX(前向き) 汎用シートベルト固定(前向き)
II、III 15 ～ 36kg (4 ～ 12 歳)	Honda ジュニアシート	汎用シートベルト固定

UN R129 適合チャイルドシート

適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size ユニバーサル ISOFIX (後向き)
身長71cm 以上かつ月齢 15ヶ月以上～身長 100cm 以下		i-Size ユニバーサル ISOFIX (前向き)

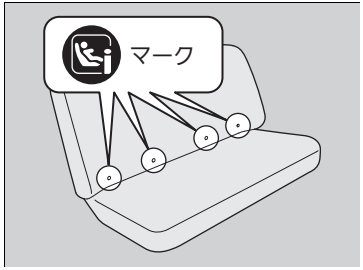
次ページに続く

推奨チャイルドシート

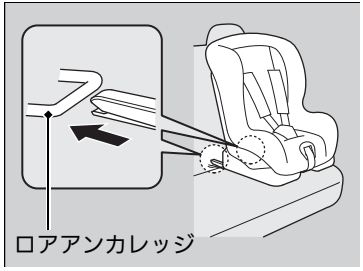
推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

■ ISOFIX/i-Size 対応アンカレッジでの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジまたはサポートレッグで固定します。



1. マークの下にあるシートの切れ目からロアアンカレッジを確認する。



2. リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。

➡ **背もたれの調節** P.166

3. ノブを押しながら、ヘッドレストを一番下まで下げる。

4. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。

▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。

ISOFIX/i-Size 対応アンカレッジでの取り付け

⚠注意

ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

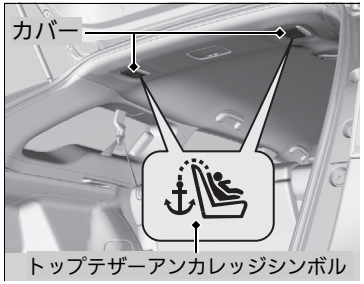
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

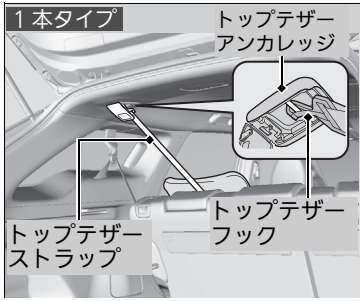
リヤシートが確実に固定されているか確認する。

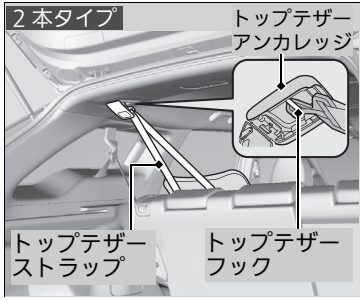
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。







トップテザーストラップ付きチャイルドシート

5. カバーを開ける。

6. トップテザーフックをトップテザーアンカレッジに引っかけ、ストラップを締める。
▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

7. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

次ページに続く

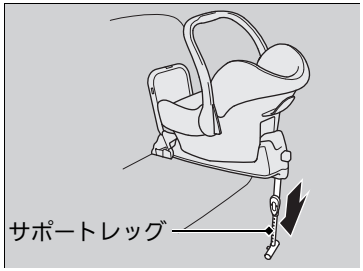
ISOFIX/i-Size 対応アンカレッジでの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

トップテザーアンカレッジシンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。



サポートレッグ付きチャイルドシート

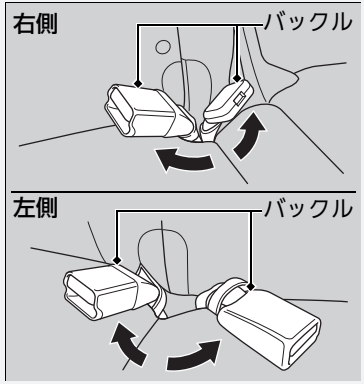
5. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。

▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。

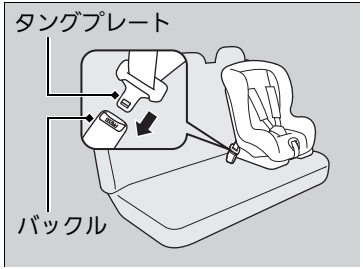
▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

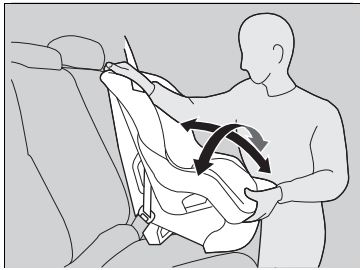
ISOFIX/i-Size 対応アンカレッジでの取り付け

チャイルドシートを取り付けるときは、シートベルトのバックルを図のように動かしてください。



■シートベルトでの取り付け





1. リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。
   ➡ **背もたれの調節** P.166
2. チャイルドシートを座席に置く。
3. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。
4. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

シートベルトでの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

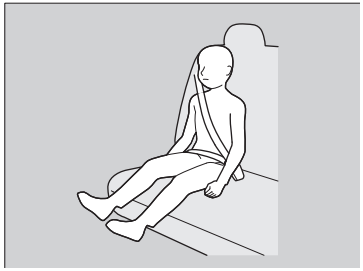
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

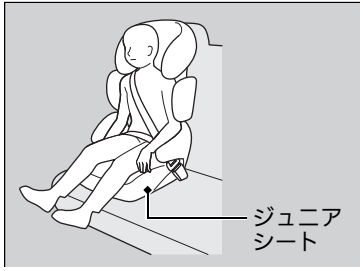
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

大きなお子さまの安全

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

一酸化炭素について

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯と表示灯

警告灯 62

表示灯 76

マルチインフォメーションディスプレイ✤のメッセージ 82

メーターとインフォメーションディスプレイ

メーター 96

インフォメーションディスプレイ✤..... 98

マルチインフォメーションディスプレイ✤... 101

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

警告灯

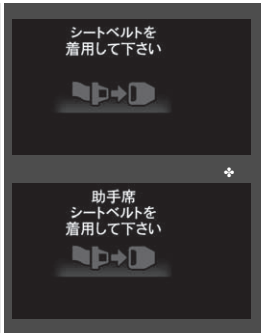
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	ブレーキ警告灯(レッド)	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯) • パーキングブレーキをかけると点灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ABS警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **➡ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した** P.344	パーキング ブレーキを 解除して下さい ブレーキ液量 低下 ブレーキ システム点検
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 走行中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。	ブレーキ システム点検

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	油圧警告灯	• エンジンスイッチを II ※1 にすると点灯し、エンジン始動で消灯 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	• **走行中に点灯**＝ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 ➔ **油圧警告灯が点灯した** P.342	エンジン油圧 異常
	PGM-FI 警告灯	• エンジンスイッチを II ※1 にすると点灯し、エンジン始動で消灯 エンジンを始動していないときは数十秒後消灯 • エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	➔ **PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した** P.343	エンジンシステム 点検
	充電警告灯	• エンジンスイッチを II ※1 にすると点灯し、エンジン始動で消灯 • バッテリーが充電されていないと点灯	• **走行中に点灯**＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどをOFFにし、対処してください。 ➔ **充電警告灯が点灯した** P.342	12V充電 システム点検

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	トランスミッション警告灯	• トランスミッションが異常のときに点滅	• 運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席または助手席✤ のシートベルトを着用しないと点灯 • エンジンスイッチを II ※1 にしたときに、運転席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 • 走行中に運転席または助手席✤ のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➡ **シートベルトリマインダー** P.29	

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	Honda スマートキーシステム警告灯✤	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯	• 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯した • エンジン始動後も消灯しない • パワーモードが OFF モードのときに数秒間点灯した • パワーモードを OFF モードにしたときに数秒間点灯した	Honda スマートキー システム点検
	燃料残量警告灯✤	• 燃料の残量が少なくなると点灯 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 5.3 リットルになったときです。 • 燃料計に異常があるときは点滅	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	—
	ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • ABS が異常のときに点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 ➡ **ABS（アンチロックブレーキシステム）** P.276	アンチロック ブレーキ点検

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車

	エアバッグシステム警告灯	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯
		• 下記の異常を検知すると点灯
		  • エアバッグシステムの異常
		  • プリテンショナーシステムの異常
			• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	エアバッグ
				システム点検

	VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA が作動しているときは点滅 • ブレーキアシストシステム、ヒルスタートアシストシステム、発進補助ブレーキ機能、VSAシステムのいずれかが異常のときに点灯	• 運転中に点灯した時は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ➔ **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.212	VSAシステム 点検 ヒルスタート アシストシステム 点検
OFF	VSA OFF 警告灯	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA を OFF にすると点灯	➔ **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.212	—

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	オートライトコントロール警告灯✤	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートライトコントロールシステムが異常のとき点灯 • ロービームヘッドライトの機能に異常があると点灯	• 運転中に点灯した場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	—
	ドア / テールゲート開閉警告灯✤	• ドア、テールゲートが閉まっているときは、エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • ドア、テールゲートが完全に閉まっていないとき点灯	• ドア、テールゲートを完全に閉めると、警告灯が消灯します。	—
	EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯	• エンジンスイッチを II ※1 にすると点灯し、エンジン始動で消灯 • EPS（電動パワーステアリング）システムの機能に異常があると点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **➡ EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した** P.345	パワーステアリングシステム点検

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	高水温警告灯（レッド）	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • エンジンの冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯	• エンジン冷却水の温度が低いときは、消灯後ブルーで点灯します。 ➡ **低水温表示灯（ブルー）** P.76	—
			• **走行中に点滅**＝ゆっくり走行してください。	エンジン 冷却水温上昇中
			• **走行中に点灯**＝ただちに安全な場所に停車し、エンジンを冷やしてください。 ➡ **オーバーヒート** P.340	エンジン 冷却水高温

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	スターターシステム警告灯✤	• エンジンスイッチを II ※1 にすると点灯し、エンジン始動で消灯 • スターターシステムが異常のときに点灯	Honda スマートキーシステム装備車 • ブレーキを踏んだまま、ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまで約 15 秒間押し続けてください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 Honda スマートキーシステム非装備車 • ブレーキを踏んだままエンジンスイッチを III にして、エンジンが始動するまで約 15 秒間待ってください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	—
KEY BATT	Honda スマートキー電池消耗警告灯✤	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、ブザーと同時に点灯	➡ **電池交換のしかた** P.309	—

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：**タイプやオプションなどにより、装備が異なります。**

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
Ⓐ	アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • アイドリングストップシステムに異常があるときに点滅	• 点滅したときは、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	アイドリング ストップ システム点検 Ⓐ!
P	セレクトポジション P 移動警告灯✤	• アイドリングストップ中に、ボンネットなどを開けると点灯 Honda スマートキーシステム装備車 • セレクトレバーが P 以外のときに、パワーモードが ON モードからアクセサリーモードになると点灯	• エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 ➔ **エンジンの始動** P.198 Honda スマートキーシステム装備車 • パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを P にして、ブレーキを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回押してください。	—
NO KEY	Honda スマートキー持ち去り警告灯✤	• Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に点滅	• Honda スマートキーを車内に戻してドアを閉めると消灯します。 ➔ **Hondaスマートキー持ち去り警告** P.148	—

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
ACC	ACC（アダプティブクルーズコントロール）警告灯✤（オレンジ）	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
LKAS	LKAS（車線維持支援システム）警告灯✤（オレンジ）	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • LKAS が異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯✤	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • CMBS を OFF にしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯	• OFF にしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.215	CMBS OFF CMBS システム点検
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	運転支援システムの 一部が使用できません カメラが高温です

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯✤	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.271 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.215	運転支援システムの 一部が使用できません フロントウインドウが 汚れています
		• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **レーダーセンサー** P.273 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.215	運転支援システムの 一部が使用できません レーダーが 汚れています RADAR

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	路外逸脱抑制機能警告灯✤	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • 路外逸脱抑制機能に異常があるとき点灯	• 点灯したときは、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。	

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	路外逸脱抑制機能警告灯✤	• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **レーダーセンサー** P.273 ➔ **路外逸脱抑制機能** P.253	運転支援システムの 一部が使用できません レーダーが 汚れています

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅 • 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➡ **電球の交換** P.293, 294, 295 ➡ **エマージェンシーストップシグナル** P.278	—
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—	—
	ライト点灯表示灯	• ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯（AUTO✤ のときは車幅灯点灯時に点灯）	• ライトを点灯したままキーを抜いたり、Honda スマートキーシステム装備車はパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。	—
	フォグライト点灯表示灯✤	• フォグライトを点灯させると点灯	—	—
	低水温表示灯（ブルー）	• エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	• 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。	—

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	イモビライザーシステム表示灯	• エンジンスイッチを II ※1 にすると一瞬点灯し、すぐに消灯 • イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• 一瞬の点灯は異常ではありません。 • 点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。 Honda スマートキーシステム装備車 パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 Honda スマートキーシステム非装備車 エンジンスイッチをいったん 0 へ回しキーを抜いてから、もう一度エンジンスイッチに差し込み II にしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますのでHonda販売店で点検を受けてください。 • ENGINE START/STOP スイッチ・エンジンスイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。	—

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
インフォメーションディスプレイ装備車 表示灯（レッド点滅） マルチインフォメーションディスプレイ装備車 表示灯（レッド点滅）	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	**セキュリティアラームシステム** P.141	—
	ECON 表示灯	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • ECON スイッチを押して、ECON を ON にすると点灯	**ECON スイッチ** P.211	ECON ON

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	セレクトポジション表示灯	• 現在のポジションを表示	• 外気温が低い場合には、セレクトポジションの表示が遅れます。 ➡ **セレクトレバーの操作** P.206	—
	アイドリングストップ表示灯(グリーン)	• アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯	➡ **アイドリングストップシステム** P.207	アイドリング ストップしました
	アイドリングストップシステム OFF 表示灯(オレンジ)	• アイドリングストップシステム OFF スイッチでシステムを OFF にすると点灯	➡ **アイドリングストップシステムの ON/OFF** P.207	—
	ブレーキ踏み込み不足表示灯✤	• ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに点灯	• ブレーキペダルを踏み込んでください。	—

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：**タイプやオプションなどにより、装備が異なります。**

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
	ハンドル操作表示灯✤	• ハンドルのロックが解除されていないときに点灯	• ENGINE START/STOP を押しながら、ハンドルを左右に動かします。	—
ACC	ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯✤(グリーン)	• MAIN スイッチを押して、ACC を ON にすると点灯	➡ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.229	—
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)表示灯✤(グリーン)	• MAIN スイッチを押して、LKAS を ON にすると点灯	➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.242	—

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーションディスプレイ装備車
ⓘ	インフォメーション表示灯✤	• エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • 異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に警告音も鳴り、点灯	• メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 • メッセージは警告が解除されるか、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにインフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押すと、メッセージを再表示させることができます。	—

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

マルチインフォメーションディスプレイ✤ のメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• エンジンスイッチが II ※1 のときに、外気温が 3 ℃以下になると 1 回のみ表示	—
	• 何らかの理由により、アイドリングストップできないときに表示 • エンジンが自動的に再始動したときに表示 • バッテリーの内部温度が 5 ℃以下のときに表示	➔ アイドリングストップシステム P.207
	• バッテリーの充電量が少ない状態でアイドリングストップができないときに表示	➔ アイドリングストップシステム P.207

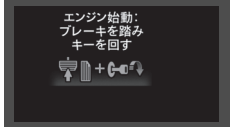
※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きくて、アイドリングストップできないときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.207
	• エンジン冷却水の水温が低いとき、または高くてアイドリングストップできないときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.207
	• ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに表示	• ブレーキペダルを踏み込んでください。
	• セレクトレバーが P 以外のときにエンジンが停止して、自動的に再始動しないときに表示 • アイドリングストップ中に、ボンネットなどを開けると表示	• エンジンスイッチを 0 ※1 にしたいときは、セレクトレバーを P にしてください。 • エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 ➔ **エンジンの始動** P.198

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	アイドリングストップ中に、以下の状態となったときに表示 • バッテリーの充電量が少なくなったとき • バッテリーの内部温度が5℃以下になったとき	• 数秒後にエンジンが自動的に再始動します。
	アイドリングストップ中に、以下の状態となったときに表示 • エアコンを使用中で、設定温度と車内の温度差が大きい • 車内の湿度が高い	• 数秒後にエンジンが自動的に再始動します。
Honda スマートキーシステム装備車 Honda スマートキーシステム非装備車 	アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動しないときに表示 • ボンネットが開いている • アイドリングストップを続けることができないシステムの異常	• エンジンを再始動してください。 ➔ **エンジンの始動** P.198

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• スターティングシステムが異常のときに表示	**Honda スマートキーシステム装備車** • ブレーキを踏んだまま、ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまで約 15 秒間押し続けてください。表示が消えないときや再び表示した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **Honda スマートキーシステム非装備車** • ブレーキを踏んだままエンジンスイッチを III にして、エンジンが始動するまで約 15 秒間待ってください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• 燃料の残量が少なくなると表示 • 表示するのは、タンクに残っている残量がおよそ 5.3 リットルになったときです	• 表示されたときは、早めに給油してください。 • 燃料計の燃料残量警告が表示されます。 ➡ **燃料計** P.100
	• 燃料計に異常があるときに表示	• 表示されたときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

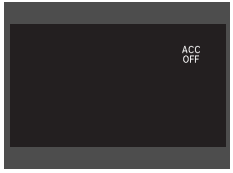
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• セレクトレバーが P 以外のときに、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズをすると表示	➔ **カスタマイズのしかた** P.109
	• ボンネットが完全に閉まっていないときに表示	• ボンネットを完全に閉めてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
CMBSがOFF中は 切り換えられません	• CMBS を OFF にしているときに CMBS の車両設定をすると表示	• CMBS を ON にしてください。 ➔ **CMBS の ON と OFF** P.218
オートライト システム点検	オートライトコントロール装備車 • オートライトコントロールシステムに異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **ライトスイッチ** P.151
ヘッドライト点検	オートライトコントロール装備車 • ロービームヘッドライトの機能に異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
ライトが 点灯しています	• ライトを点灯したままエンジンスイッチを 0 ※1 にして、運転席のドアを開けると表示	• ライトスイッチをOFFにしてください。 ➔ **ライトスイッチ** P.151
ECON OFF	• ECON スイッチを押して、ECON モードを OFF にすると表示	➔ **ECON スイッチ** P.211

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 充電システムに異常があると表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • **バッテリー充電警告灯が同時に点灯しているとき** = 電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 ➡ **充電警告灯が点灯した** P.342
	• ドアとテールゲートが完全に閉まっていないときに表示 • 走行中、ドアを開けるとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告メッセージが表示	• ドアとテールゲートを完全に閉めると、表示が消えます。
	• シートベルトを着用しないで、エンジンスイッチを II ※1 にすると表示	• 運転するときは、シートベルトを正しく着用してください。
	• ACC の作動が自動的に解除されたとき	• ACC が自動解除になった原因が解決された場合、 RES/+ を押すことにより、元の設定速度に戻すことができます。 ➡ **ACC（アダプティブクルーズコントロール）** P.229

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.229 ➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.215
	• フロントグリルに遮蔽物があり前の車両等が検知しにくくなり、ACC、先行車発進お知らせ機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	• 安全な場所でフロントグリルの遮蔽物を拭き取ってください。 ➔ **レーダーセンサー** P.273 ➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.229 ➔ **先行車発進お知らせ機能** P.260 ➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.224
	• フロントセンサーカメラの温度が異常に上がり、ACC、LKAS、標識認識機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	• エアコンを使用して車内の温度を下げてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.271 ➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.229 ➔ **LKAS(車線維持支援システム)** P.242 ➔ **標識認識機能** P.264 ➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.224

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• フロントガラスに遮蔽物があるとき、ACC、LKAS、標識認識機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	• 安全な場所でフロントガラスの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.271 ➔ **ACC（アダプティブクルーズコントロール）** P.229 ➔ **LKAS（車線維持支援システム）** P.242 ➔ **標識認識機能** P.264 ➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.224
	• 車線を越えそうになると、ハンドルの振動による警告と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➔ **LKAS（車線維持支援システム）** P.242 ➔ **路外逸脱抑制機能** P.253
	• 車線からはみ出るような走行をすると、ハンドル制御と同時に表示	—

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ハンドルから手を放したまま走行すると、警告音と同時に点滅	• ハンドル操作をすると、警告メッセージが消えます。 ➔ **路外逸脱抑制機能** P.253
	• LKAS システムに異常が起こり LKAS の作動が解除されたとき、または LKAS システムに異常がある場合に LKAS スイッチを押したときに警告音と同時に表示	• VSA 警告灯、ABS 警告灯、ブレーキシステム警告灯と同時に点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **LKAS(車線維持支援システム)** P.242
	• 先行車発進お知らせ機能が作動すると表示	➔ **先行車発進お知らせ機能** P.260

次ページに続く

Honda スマートキーシステム非装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• エンジンスイッチが I であり、運転席のドアを開けていないときに表示	—
	• エンジンスイッチが I のときに運転席のドアを開けると表示	• エンジンスイッチを 0 にしてキーをエンジンスイッチから抜いてください。 ➔ **エンジンスイッチ** P.145
	• エンジンスイッチが 0 のときに運転席のドアを開けると表示	• キーをエンジンスイッチから抜いてください。 ➔ **ハンドルまわりのスイッチ操作** P.145

Honda スマートキーシステム装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードが ON モードで、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	• パワーモードONの作動範囲内にHonda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。 ➔ **Honda スマートキー持ち去り警告** P.148
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	➔ **電池交換のしかた** P.309
	• パワーモードがアクセサリーモードまたはONモードのときに表示	➔ **エンジンの始動** P.198
	• ハンドルのロックが解除されていないときに表示	• ハンドルを左右に動かしながら ENGINE START/STOP を押してください。

次ページに続く

Honda スマートキーシステム装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに運転席のドアを開けると表示	• ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回押して、パワーモードをOFFモードにしてください。 ➡ **ENGINE START/STOP スイッチ** P.146
	• パワーモードが ON モードでセレクトレバーが P 以外のとき、 ENGINE START/STOP を押すと表示	• パワーモードをOFFモードにしたいときは、セレクトレバーを P にして、ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回押してください。
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに表示	—
	• Hondaスマートキーの電池残量が少なくなったときやHondaスマートキーが車内にないときに ENGINE START/STOP を押すと、警告音と同時に表示	➡ **Honda スマートキー* の微弱電波** P.128 ➡ **ENGINE START/STOP スイッチ** P.146 ➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.335

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda スマートキーシステム装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 走行中に ENGINE START/STOP を押したときに表示	➔ **緊急時のエンジン停止方法** P.336

メーター

メーターには、スピードメーター、タコメーターなどの種類があります。
エンジンスイッチが II ※1 のとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

≫タコメーター

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

セレクトレバーが R のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

■時計

時刻を表示します。

Honda インターナビシステム非装備車

時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示（24 h / 12h）を変えたり時刻調整をすることができます。

➡ **時刻の設定** P.122

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3 ℃の範囲で補正することができます。

補正するには、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用します。

➡ **カスタマイズ機能** P.107

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

≫時計

Honda インターナビシステム装備車

カスタマイズの詳細は、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

≫外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。

また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

エンジンスイッチを II ※1 にしたとき、外気温が 3 ℃以下の場合は、外気温低下メッセージが表示されます。

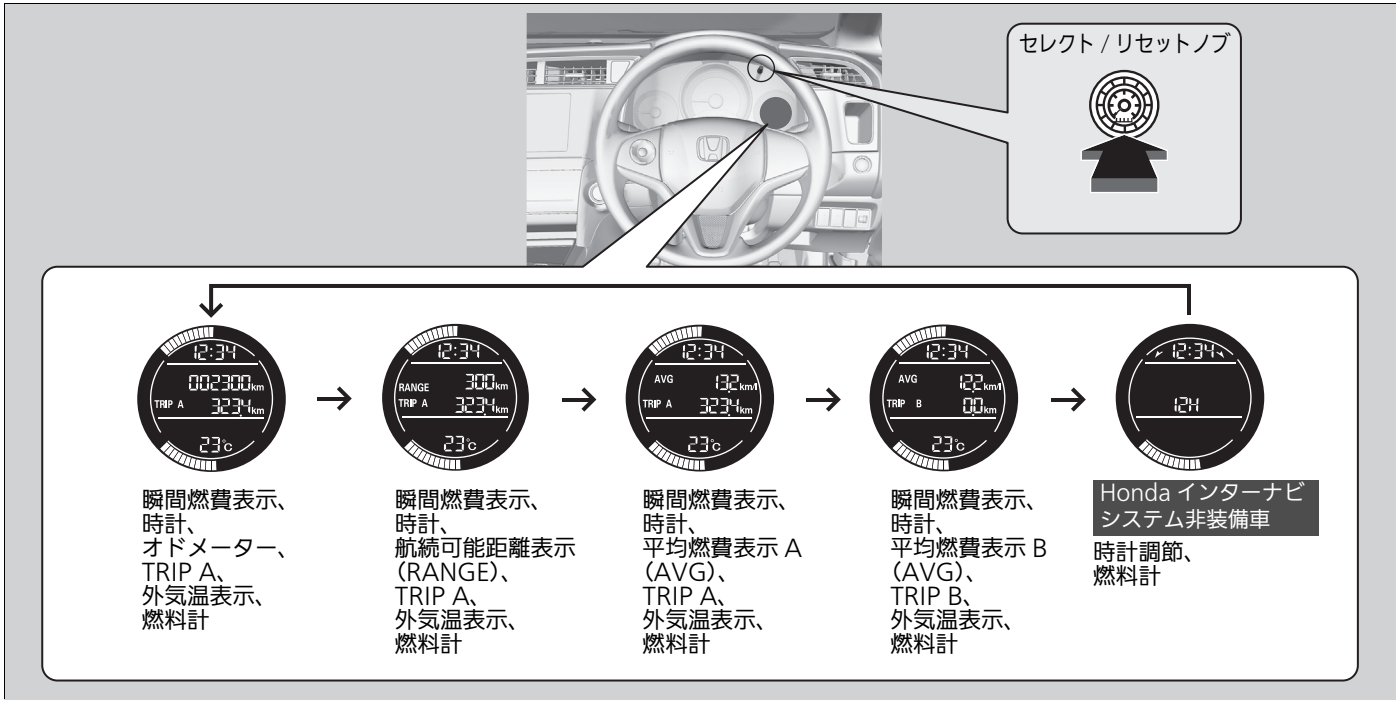
インフォメーションディスプレイ✤

インフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示などが表示されます。

表示の切り換えかた
Honda インターナビシステム非装備車
時計の時刻を合わせる P.122

■表示の切り換えかた

セレクト / リセットノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、セレクト/リセットノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

■平均燃費表示(AVG)

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。
トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■航続可能距離表示(RANGE)

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

トリップメーター

トリップメーターA とトリップメーターBは、セレクト / リセットノブを押して切り換えます。

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

平均燃費表示(AVG)

表示される平均燃費は、実際に走行した燃費とは異なる場合があります。
停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

航続可能距離表示(RANGE)

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

次ページに続く

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とインフォメーションディスプレイの表示温度に差がある場合、±3 ℃の範囲で補正することができます。
補正するには、セレクト / リセットノブを押し続け、設定したい補正値が表示されたら指を離します。

■燃料計

燃料タンクに残っている燃料の量を表示します。
エンジンスイッチが II ※1 のとき表示されます。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。
速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。
また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。
エンジンスイッチを II ※1 にしたとき、外気温が 3 ℃以下の場合は、外気温表示が数秒点滅します。

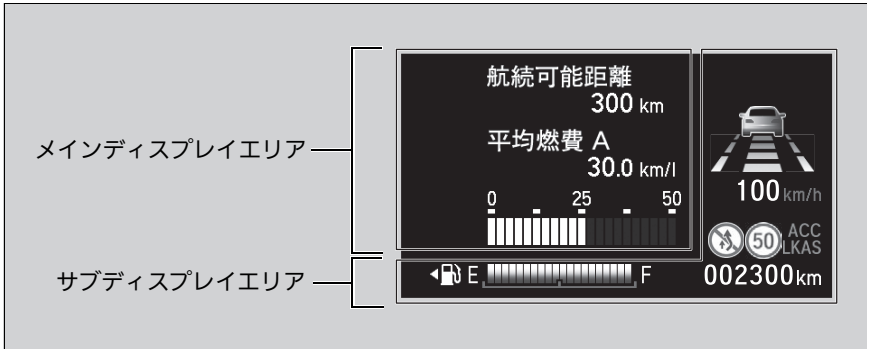
燃料計

燃料計が「E」に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、インフォメーションディスプレイに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

マルチインフォメーションディスプレイ✤

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、燃料計、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。



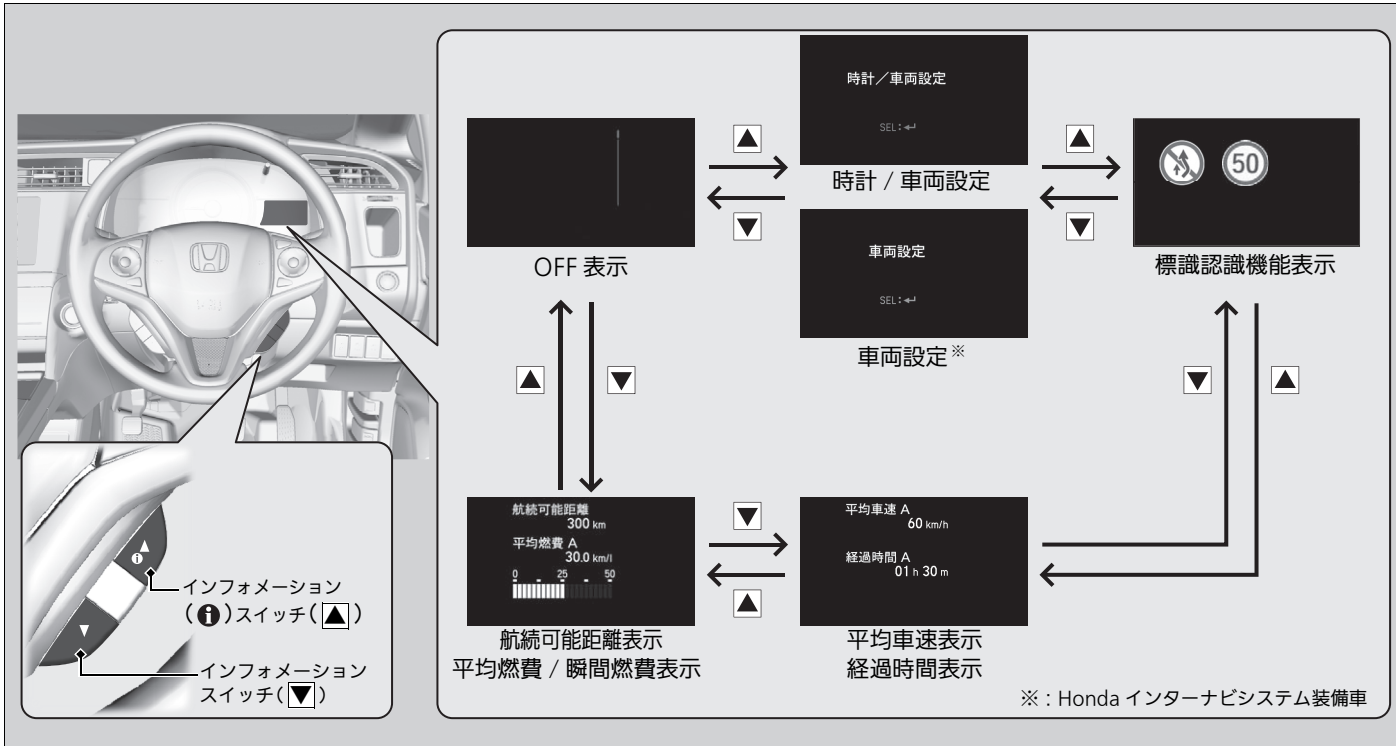
次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■表示の切り換えかた

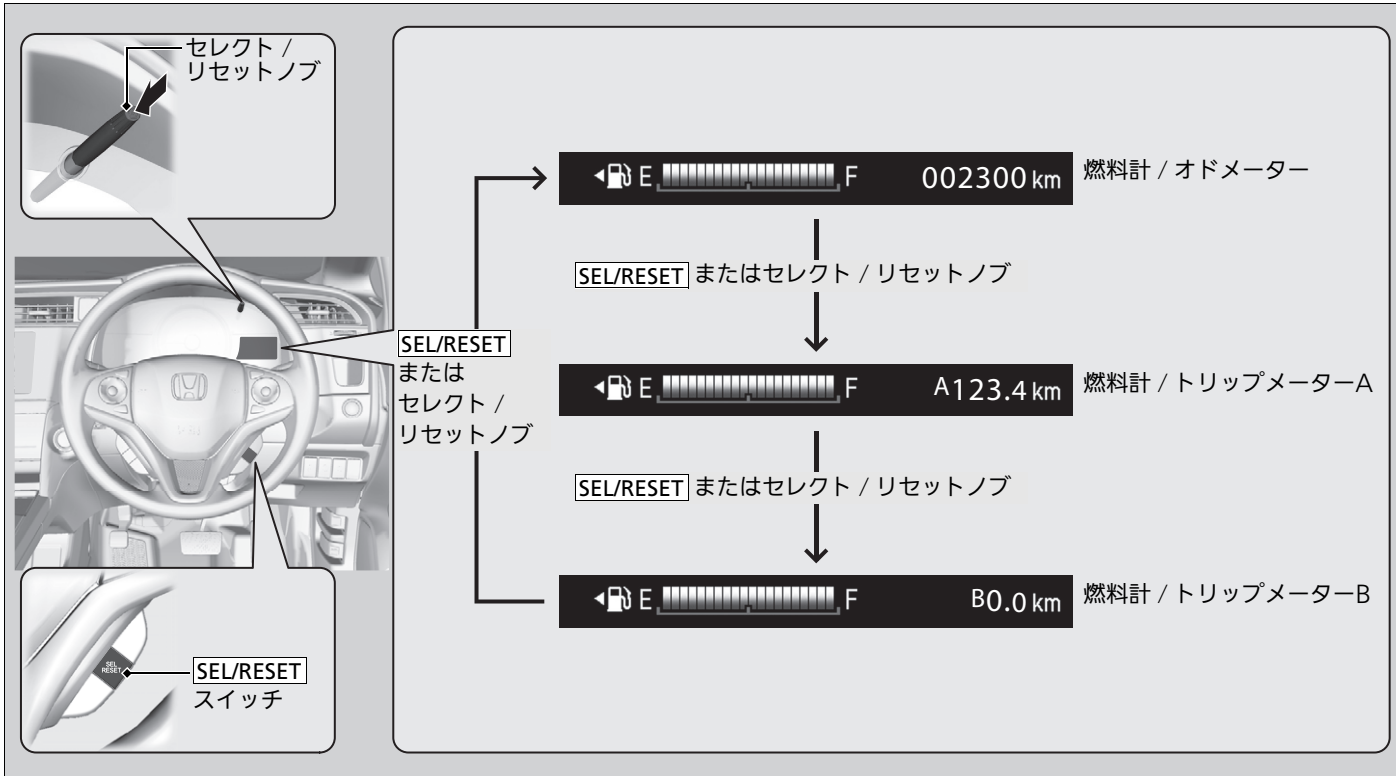
■メインディスプレイエリア

インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



■サブディスプレイエリア

SEL/RESET または、セレクト / リセットノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



次ページに続く

■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

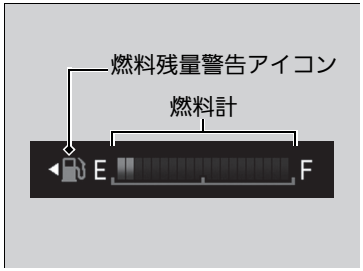
リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、SEL/RESET またはセレクト / リセットノブを押し続けてください。トリップメーターが0.0にリセットされます。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。
エンジンスイッチが II ※1 のとき表示されます。



■燃料残量警告

燃料の残量が少なくなると表示がオレンジ色になります。表示がオレンジ色になったら早めに給油してください。
燃料計に異常があるときは、燃料残量警告アイコンが点滅します。

➡ マルチインフォメーションディスプレイ✤ のメッセージ P.82

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

燃料計

アドバイス

燃料計が「E」に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

■平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

■平均燃費

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。
トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■瞬間燃費

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

■航続可能距離表示

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

■経過時間表示

トリップメーターA、B と連動し、エンジンを始動してから停止するまでの時間を表示します。

■平均車速表示

トリップメーターA、B と連動し、それぞれのトリップメーターをリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

次ページに続く

平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
➡ **カスタマイズ機能** P.107

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

経過時間表示

経過時間表示は99時間59分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
➡ **カスタマイズ機能** P.107

平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
➡ **カスタマイズ機能** P.107

■ ACC(アダプティブクルーズコントロール)/LKAS 表示

ACC/LKAS の現在の状態を表示します。

➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.229
➔ **LKAS(車線維持支援システム)** P.242

■標識認識機能表示

走行中に認識した最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識情報を表示します。

➔ **標識認識機能** P.264

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
時計設定✤	時刻調整	時間(00 ～ 23)、分(00 ～ 59)
	時計表示	24h、12h※、非表示
運転支援システム設定	CMBS 警報距離	Far、Normal※、Near
	ACC 先行車検知音	有り、無し※
	先行車発進お知らせ設定	標準※、早め、OFF
	路外逸脱抑制システム設定	アシストタイミング早め、アシストタイミング標準※、アシストタイミング遅め、操舵アシストなし警報のみ
	レーンキープアシストシステム制御解除警報音	ON、OFF※
	標識認識機能	常駐表示 ON※、 常駐表示 OFF
メーター設定	外気温表示補正	−3 ℃～ ±0 ℃※～ +3 ℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ※
	TRIP B 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ※
	アンビエントメーター照明色変化設定	ON※、OFF
	アイドリングストップ状態表示	ON※、OFF
Honda スマートキーシステム設定✤	アンサーバックブザー音量	大※、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動※、非作動

※：工場出荷時の設定

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

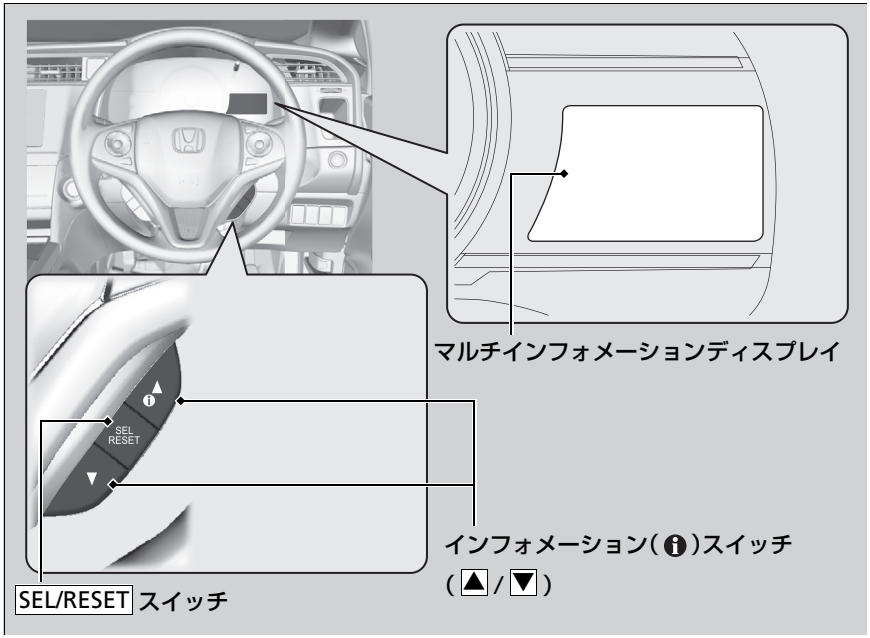
カスタマイズ機能		選択できる設定内容
ライティング設定	インテリアライト点灯時間	60 秒、30 秒※、15 秒
	オートライト感度✤	MAX、HIGH、MID※、LOW、MIN
ドア設定	降車時オートドアロック✤	作動、非作動※
	キーレスアンサーバック	作動※、非作動
	キーレスリロック時間	90 秒、60 秒、30 秒※
	セキュリティー機能	作動※、非作動
	オートリトラミラー格納	キーレス連動※、手動のみ
初期化設定		中止、実行

※：工場出荷時の設定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■カスタマイズのしかた

エンジンスイッチが II ※1 で、セレクトレバーが P のときに、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押して「時計✤/ 車両設定」を選択します。そして SEL/RESET を押すと、カスタマイズを行なうことのできる「グループ」画面に切り換わります。



※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

次ページに続く

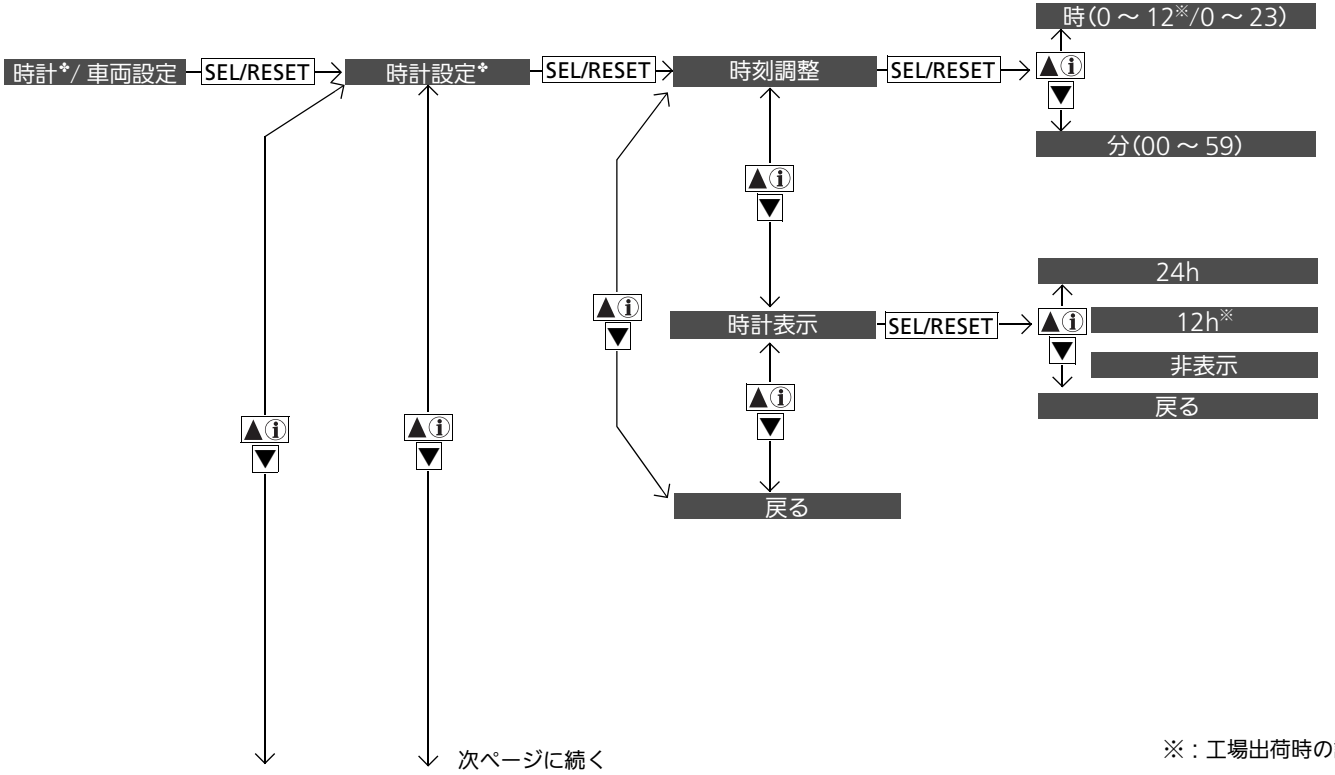
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

カスタマイズのしかた

➡ カスタマイズ操作一覧 P.110
➡ カスタマイズ設定の例 P.118

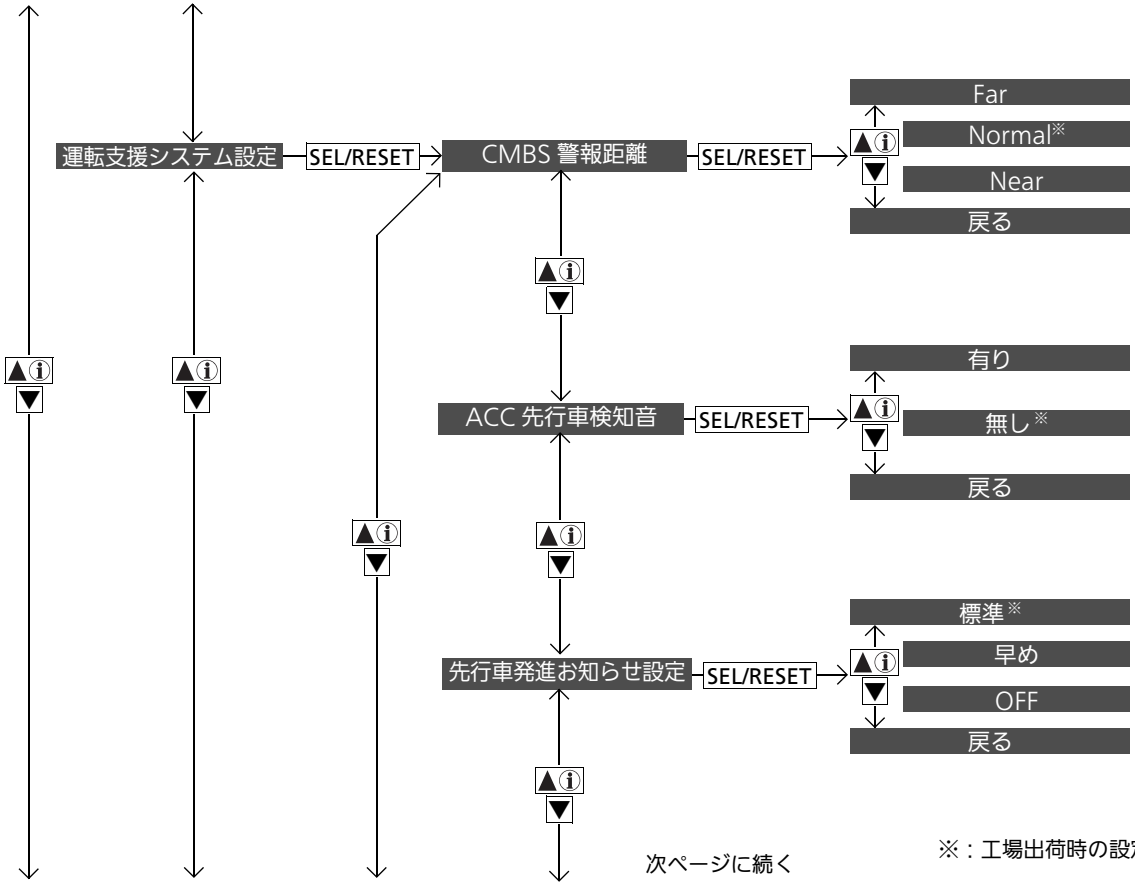
■カスタマイズ操作一覧

インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)でメニューまたは設定値を切り換え、 SEL/RESET スイッチで決定します。



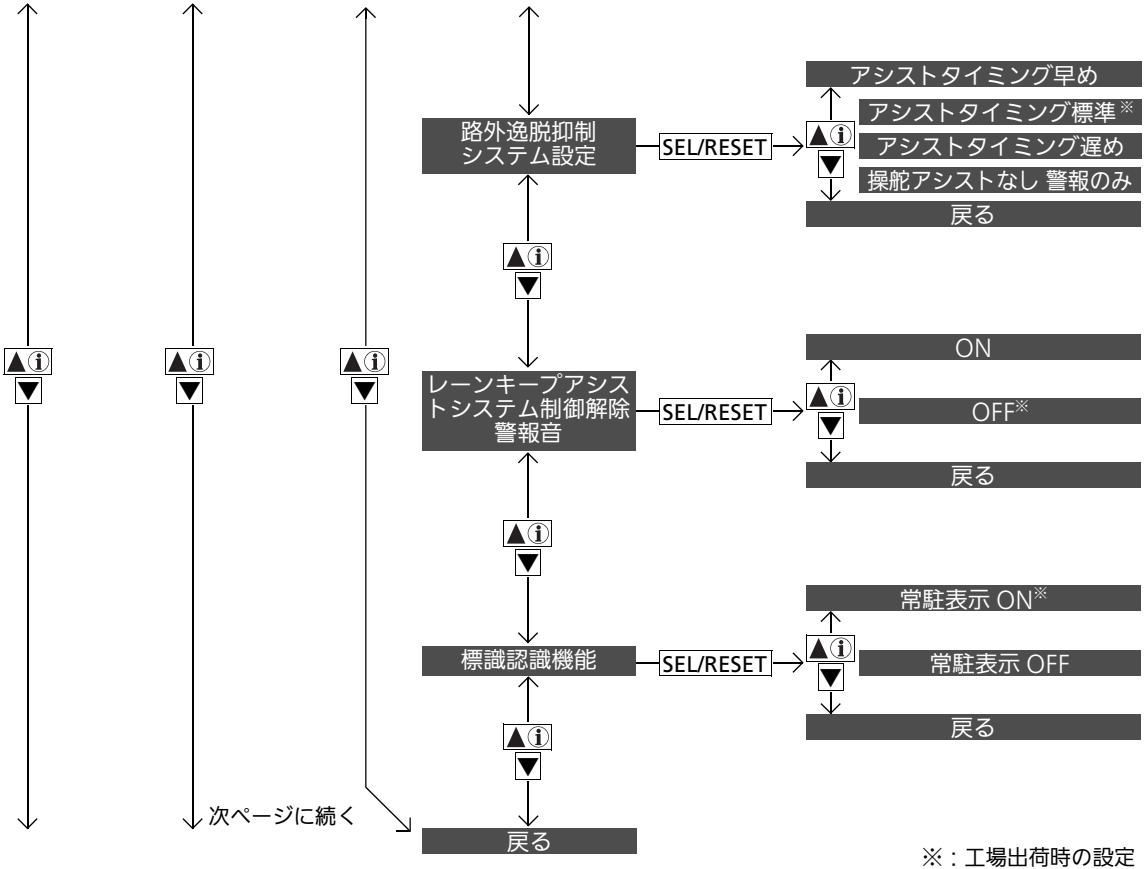
※：工場出荷時の設定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

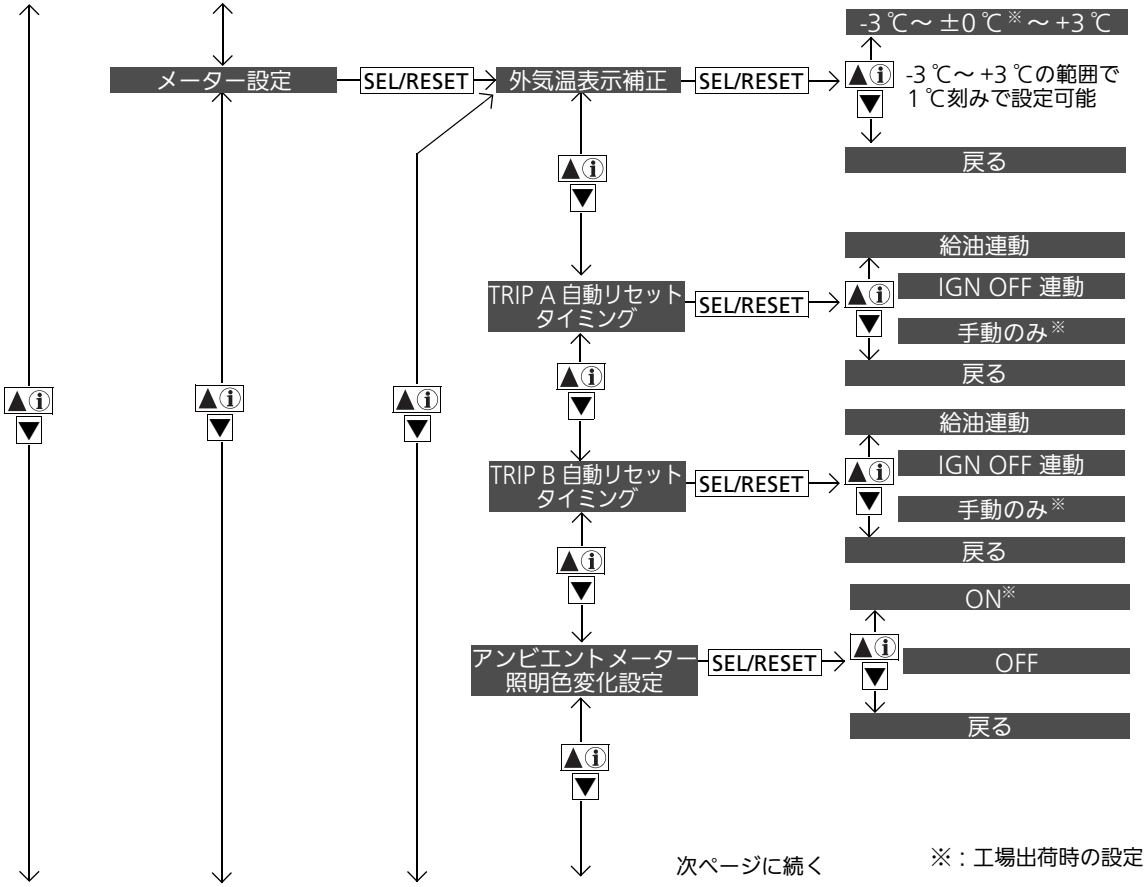


※：工場出荷時の設定

次ページに続く

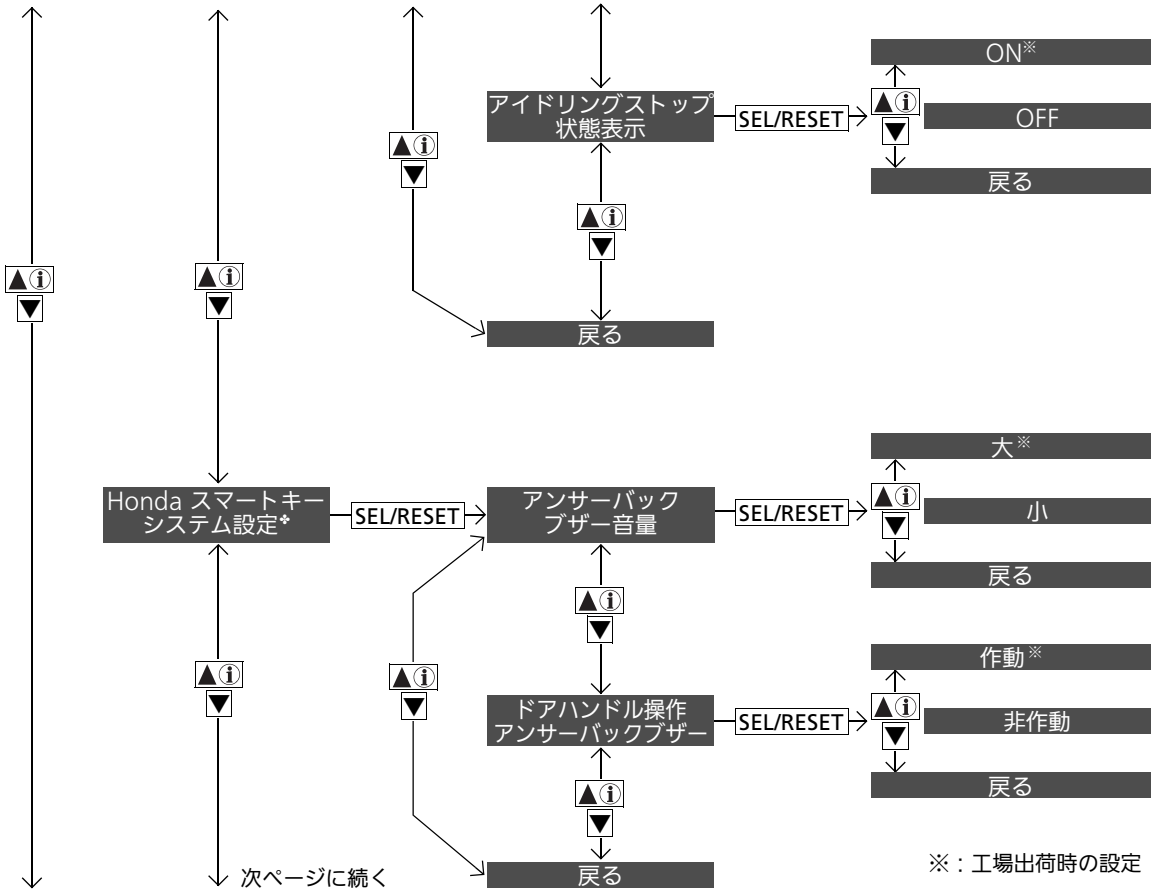

路外逸脱抑制システム設定
SEL/RESET
アシストタイミング早め
アシストタイミング標準※
アシストタイミング遅め
操舵アシストなし 警報のみ
戻る
レーンキープアシストシステム制御解除警報音
SEL/RESET
ON
OFF※
戻る
標識認識機能
SEL/RESET
常駐表示 ON※
常駐表示 OFF
戻る
次ページに続く
戻る

※：工場出荷時の設定

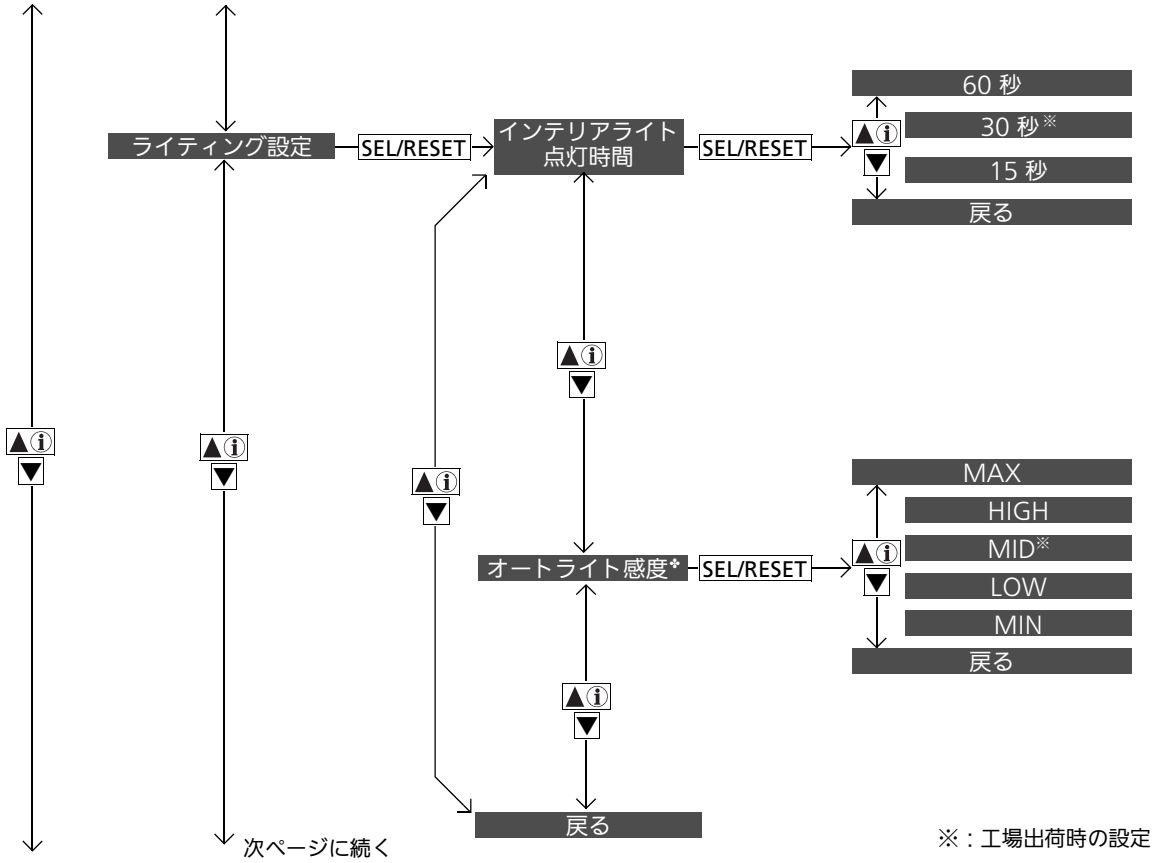


※：工場出荷時の設定

次ページに続く

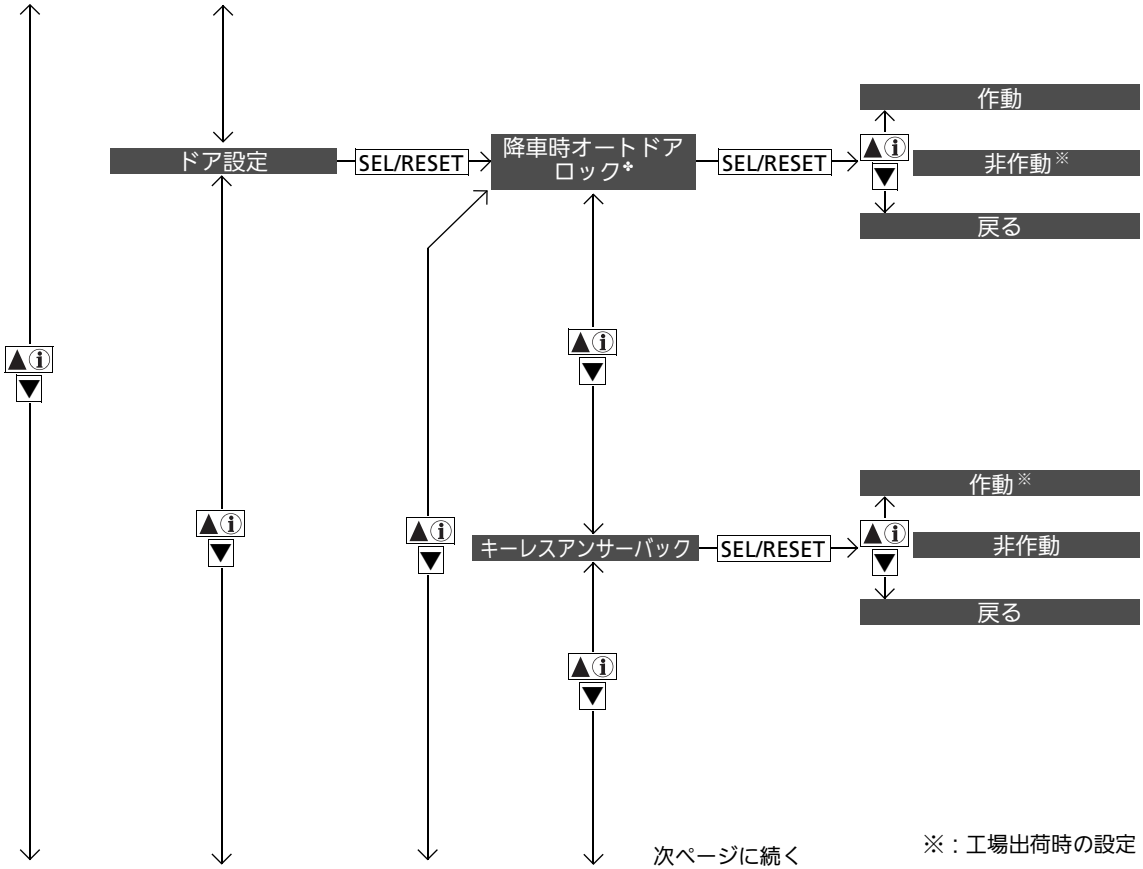


✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



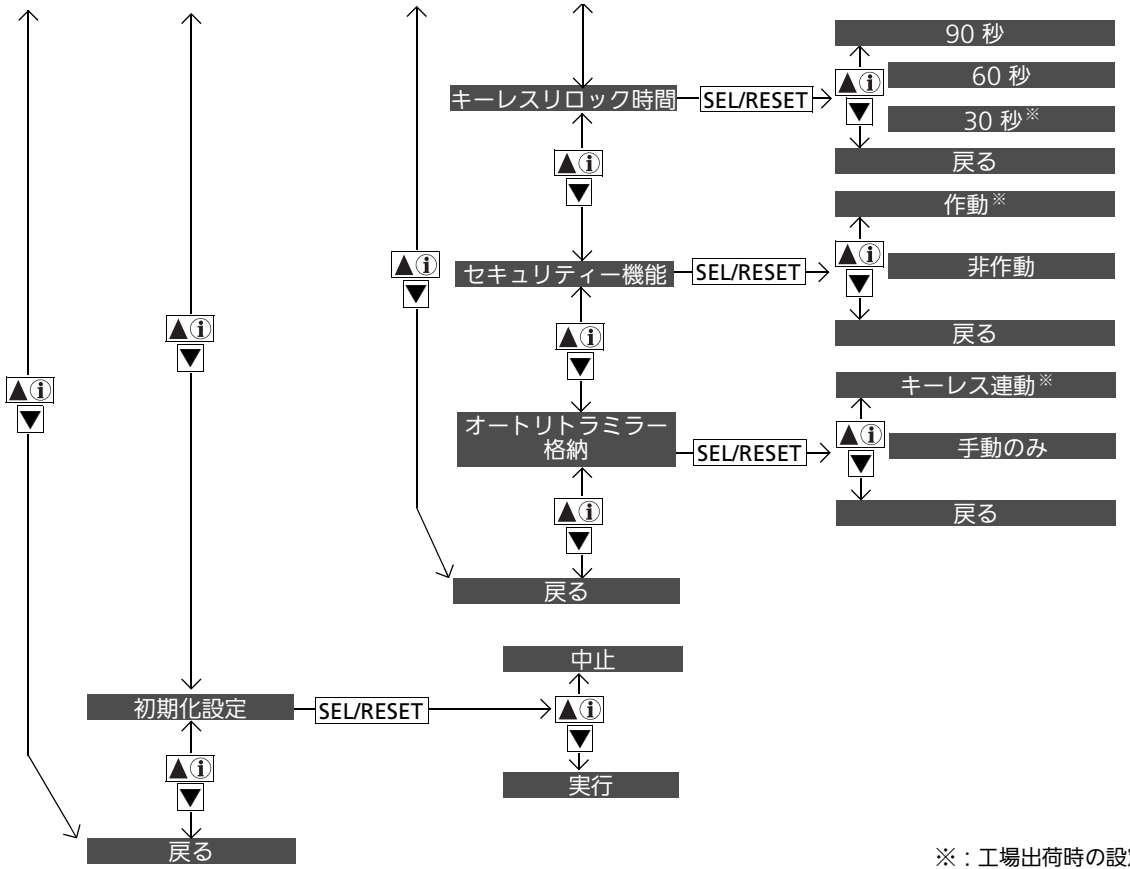
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く



※：工場出荷時の設定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



※：工場出荷時の設定

次ページに続く

■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A 自動リセットタイミング」を「給油連動」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A 自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。

1. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計✤/車両設定」が表示されたら、SEL/RESET を押す。

Honda インターナビシステム非装備車

▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。

Honda インターナビシステム装備車

▶「グループ」画面に切り換わり、「運転支援システム設定」が表示されます。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

カスタマイズのしかた

カスタマイズ操作の途中で以下の操作を行うと、設定は変更されず元の設定のままとなります。

- エンジンスイッチを I ※1 または 0 ※1 にする
- セレクトレバーを P 以外にする

2. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「メーター設定」を表示する。

3. SEL/RESET を押す。

▶「メニュー」画面に切り換わり、最初に「外気温表示補正」が表示されます。

4. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「TRIP A 自動リセットタイミング」が表示されたら、SEL/RESET を押す。

▶「セットアップ」画面に切り換わり、「手動のみ」が表示されます。

5. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「給油連動」を表示する。

6.「給油連動」が選択されていることを確認し、SEL/RESET を押す。

▶「給油連動に設定しました」という画面が表示された後、「メニュー」画面に戻ります。

次ページに続く

7. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「戻る」が表示されたら、SEL/RESET を押す。

8. 手順 **7** の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻の設定 122
ドアの施錠と解錠
キーの種類と機能 126
車外でのドアの施錠 / 解錠 129
車内での施錠 / 解錠 137
チャイルドプルーフ 138
テールゲートの開閉 139
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 141
セキュリティアラームシステム 141
ウィンドーの開閉 143
ハンドルまわりのスイッチ操作
Honda スマートキーシステム非装備車
エンジンスイッチ 145
Honda スマートキーシステム装備車
ENGINE START/STOP スイッチ 146
方向指示器(ウィンカースイッチ) 150
ライトスイッチ 151
フォグライト✤ 153
ヘッドライトレベリングダイヤル✤ 154
ワイパー/ ウォッシャー 155
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー✤ 157
フロントガラス熱線スイッチ✤ 157
イルミネーションコントロール 158
ハンドルの調節 160
ミラー類の調節 161
シートの調節 164
フロントシート 164
リヤシート 166
フラットシート 171
ヘッドレスト 173
アームレスト 176
室内灯 / 室内装備品 177
エアコン
エアコンの吹き出し口 185
オートエアコンの使いかた 186
オートエアコンのセンサー 192

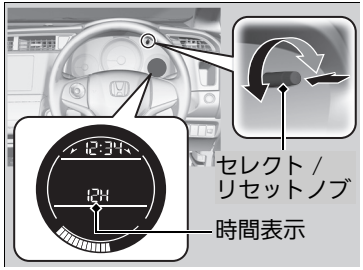
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda インターナビシステム非装備車

時計の時刻を合わせる

インフォメーションディスプレイ装備車

時計はメーターに表示されます。



1. セレクト / リセットノブを押して、時計調節表示にする。
▶「時」、「分」が点滅します。

2. セレクト / リセットノブを回して、時間を合わせる。
右に回す：「分」が進みます。
▶「59」を超えると「時」が1時間進みます。
左に回す：「分」が戻ります。
▶「00」を超えると「時」が 1 時間戻ります。

3. セレクト / リセットノブを押す。

時間設定が完了しました。画面に設定した時間が表示されます。

■時間表示の選択

1. セレクト / リセットノブを押して、時計調節表示にする。
▶「時」、「分」が点滅します。

2. セレクト / リセットノブを長押しする。
▶ 長押しを繰り返すたびに、12H/24H/OFF に切り換わります。
▶「12h」または「24h」を選択すると時計の時間表示が12時間または24時間に切り換わります。
▶「OFF」を選択すると時計が非表示となります。

3. セレクト / リセットノブを押す。

時間表示設定が完了し、画面に表示されます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

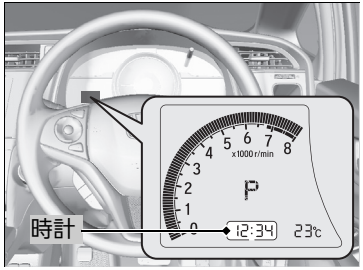
≫時刻の設定

Honda インターナビシステム装備車

セレクト / リセットノブ、インフォメーション（ⓘ）スイッチ（▲ / ▼）✤ を押しても時計調節表示に切り替わりません。時刻は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

時計はメーターに表示されます。



1. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、SEL/RESET を押す。

▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。

2. SEL/RESET を押す。

▶「メニュー」画面に切り換わり、「時刻調整」が表示されます。

次ページに続く

3. SEL/RESET を押す。
▶「セットアップ」画面に切り換わり、「時」の調整ができます。

4. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、希望の数値が表示されたら、SEL/RESET を押す。
▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。

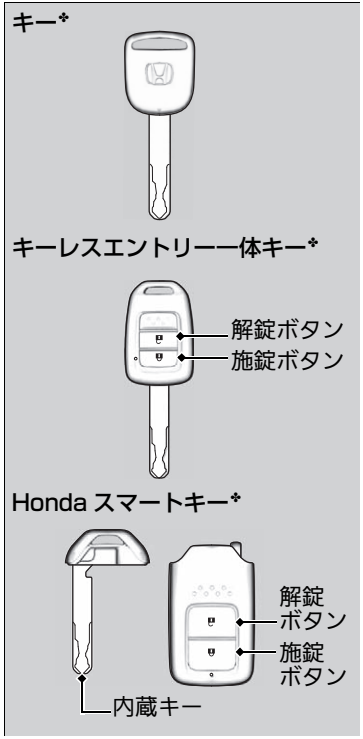
5. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、希望の数値が表示されたら、SEL/RESET を押す。
▶「分」が設定され、通常画面に戻ります。

■時間表示の選択

1. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、SEL/RESET を押す。
   ▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。
2. SEL/RESET を押す。
   ▶「メニュー」画面に切り換わり、最初に「時刻調整」が表示されますので、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計表示」を選択します。
3. SEL/RESET を押す。
   ▶「セットアップ」画面に切り換わり時計表示設定ができます。
4. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押す。
   ▶ 24h/12h/非表示に切り換えることができます。
   ▶「12h」または「24h」を選択すると時計の時間表示が 12 時間または 24 時間に切り換わります。
   ▶「非表示」を選択すると時計が非表示となります。
5. SEL/RESET を押す。
   ▶ 時計表示設定が完了し、通常画面に戻ります。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。キーの組み合わせは、車両のタイプにより異なります。



エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠に使用できます。
また、キーについているボタンで、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠の操作ができます。

キーの種類と機能

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。
イモビライザーシステム P.141

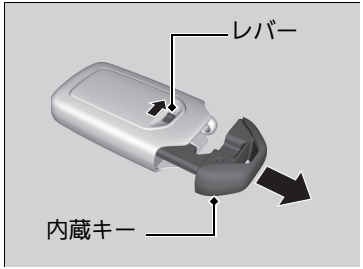
キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、エンジンの始動やリモート発信が作動しなくなることがあります。
キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■内蔵キー✤

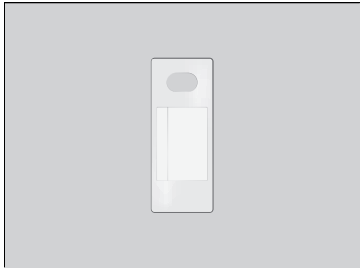


Hondaスマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Hondaスマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納しておいてください。

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

キーの種類と機能

キーレスエントリー一体キー✤およびHondaスマートキー✤ は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

➡ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.335

キーナンバータグ

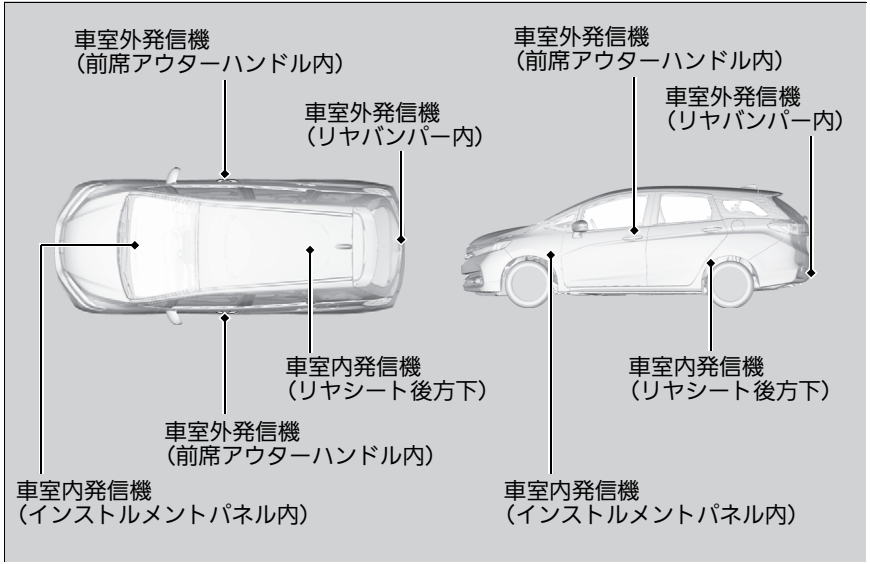
キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda スマートキー✤ の微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda スマートキー✤ の微弱電波

⚠注意

植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

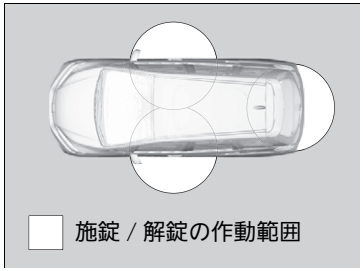
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステム✤ での施錠 / 解錠



Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチを操作することでドア、テールゲートの施錠や解錠ができます。
施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

車外でのドアの施錠 / 解錠

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。
約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にドア、テールゲート施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。
➔ **室内灯** P.177

Honda スマートキーシステム✤ での施錠 / 解錠

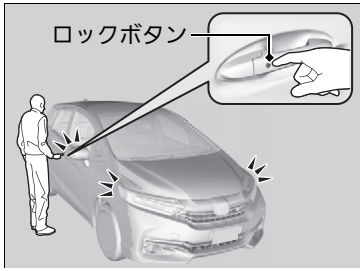
30 秒以内にドア、テールゲートを開けてください。
Hondaスマートキーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

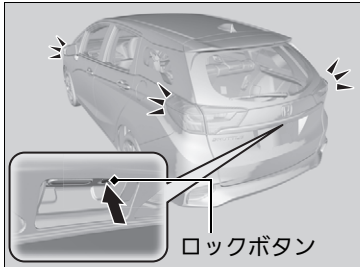
パワーモードがOFFモード以外のときはHondaスマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

- Hondaスマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲にHondaスマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドル、テールゲートオープンスイッチで施錠/解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。





■施錠するには

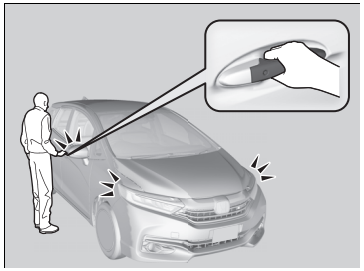
運転席ドア、助手席ドアまたはテールゲートハンドルのロックボタンを押します。

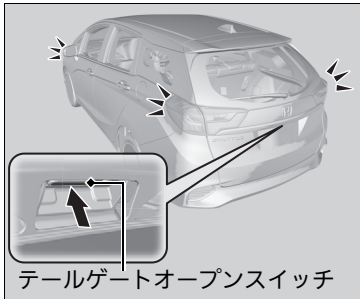
▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

Honda スマートキーシステム✤ での施錠 / 解錠

- 施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後、もしくはテールゲートオープンスイッチを押した直後はドア、テールゲートが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおすか、テールゲートオープンスイッチを押しなおして解錠されていることを確認してから開けてください。
- ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。





■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

Honda スマートキーシステム✤ での施錠 / 解錠

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

➡ **カスタマイズ機能** P.107

インフォメーションディスプレイ装備車

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

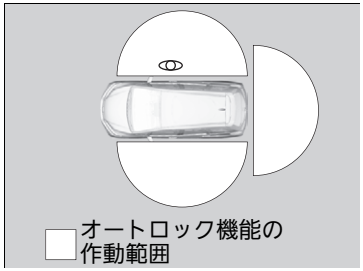
カスタマイズ機能の詳細は Honda 販売店にご相談ください。

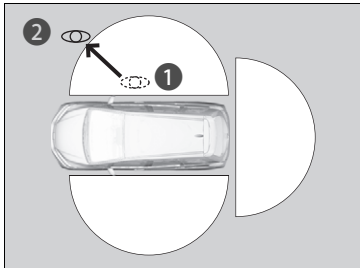
カスタマイズ機能	選択できる設定内容
アンサーバック音量	大※、小
アンサーバック音作動	作動※、非作動

※：工場出荷時の設定

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。





マルチインフォメーションディスプレイ装備車

■施錠するには（降車時オートドアロック機能）

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドアが自動的に施錠します。
このオートロック機能は、すべてのドア、テールゲートが閉まっている状態で、Honda スマートキーが運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。
Honda スマートキーを携帯し、降車してドアを閉めてください。

1. そのまま約 1.5m 以内で待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。

2. Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

施錠するには（降車時オートドアロック機能）

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。
ON にするときは、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能で設定を変更してください。
カスタマイズ機能 P.107

オートロック機能が起動し、作動範囲内にいるときはドアが施錠されるまで、Honda スマートキーのインジケーターが点滅します。

オートロック機能が起動し、車から離れずに作動範囲内にいた場合は、アンサーバック音が鳴ってから、約 30 秒後に自動で施錠されます。

オートロック機能が起動してからドアを開けた場合、オートロック機能は中断されますが、再度ドアを閉めるとオートロック機能は再開されます。

以下のときオートロック機能は起動しません。
- Honda スマートキーが車内にあるとき
▶ ブザーは鳴りません。
- Honda スマートキーが作動範囲に無いとき
▶ ブザーが鳴ります。

一時的にオートロック機能を OFF にするとき：

1. パワーモードを OFF モードにする。
2. 運転席ドアを開ける。
3. マスタードアロックスイッチを施錠→解錠→施錠→解錠の順番で押す。
▶ オートロック機能が OFF になり、アンサーバック音が鳴ります。

以下のいずれかの操作をした場合、オートロック機能が ON に戻ります。

- パワーモードを ON モードにする
- 内蔵キー、キーレスエントリーシステムもしくは Honda スマートキーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠する
- Honda スマートキーを携帯したままオートロック機能の作動範囲内から離れる
- いずれかのドアを開ける

施錠するには（降車時オートドアロック機能）

次のような場合は、オートロック機能は作動しません。

- Honda スマートキーが車内に置いてあるとき
- ドア、ボンネットが完全に閉まっていないとき
- パワーモードが OFF モード以外のとき
- 降車時にすでに Honda スマートキーが作動範囲内にないとき

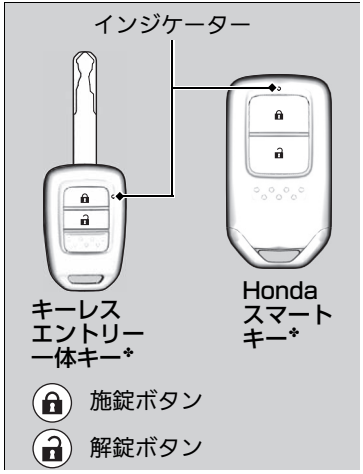
オートロック機能の起動後に、次のような場合は、オートロック作動中止警告ブザーが約 2 秒間鳴ります。

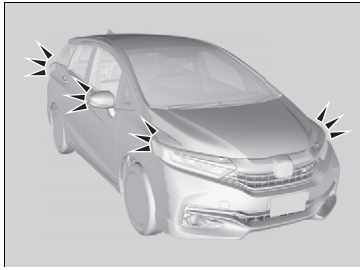
- Honda スマートキーを窓から車内に置いたとき
- 車に近づきすぎているとき

オートロック作動中止警告ブザーが鳴ったときは、車から離れても自動で施錠されません。Honda スマートキーを携帯していることを確認し、再度ドアを開閉してオートロック起動ブザーが鳴ることを確認してください。

次ページに続く

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠





■施錠

施錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

≫キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドア、テールゲートを開けてください。
キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車
マルチインフォメーションディスプレイを使ってキーレスリロック時間をカスタマイズすることができます。
➔ **カスタマイズ機能** P.107

エンジンスイッチにキーが差し込まれている✤または、パワーモードがOFFモード以外✤のときはキーレスエントリーシステムは作動しません。

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。
➔ **電池交換のしかた** P.309

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠

キーレスエントリー一体キー✤、Honda スマートキー✤ のボタンで施錠 / 解錠できない場合はキーを使用してください。

➔ **電池交換のしかた** P.309

キーを確実に差し込んで、回します。

キーを差し込んでの施錠 / 解錠

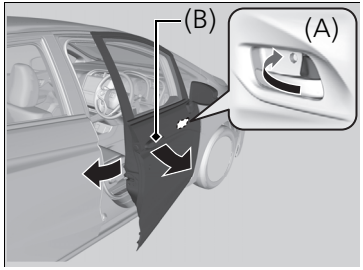
運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■キーを使わない施錠

キーが正常に作動しなくなったときや、キーを所持していないときに、キーを使わずに施錠することができます。



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込み、外側のドアハンドル(B)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーシステム装備車

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

Honda スマートキーシステム非装備車

キーがエンジンスイッチに差し込まれていると施錠できません。

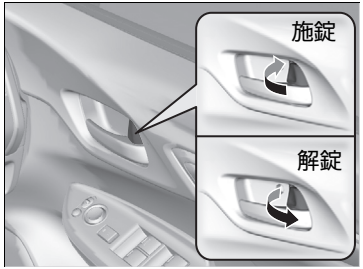
キーを使わない施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠されます。

施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

車内での施錠 / 解錠

■ノブでの施錠 / 解錠



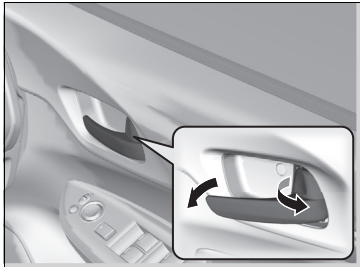
■施錠するには

ノブを押し込みます。

■解錠するには

ノブを引き出します。

■運転席ドアハンドルでの解錠



運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

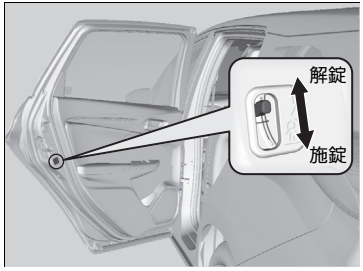
運転席ドアハンドルでの解錠

走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが解錠します。走行中はドアハンドルを操作しないでください。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲートを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグ装備車の場合で、サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

テールゲート開閉時の注意

テールゲート開閉をするときは、下記の点に注意してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
  ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ▶ テールゲートが破損するおそれがあります。
  ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
  ➡ **一酸化炭素について** P.60

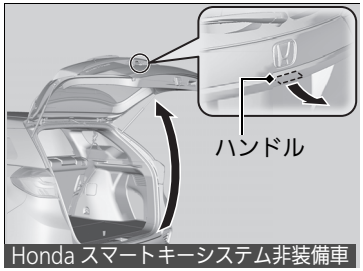
テールゲート開閉時の注意

⚠注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

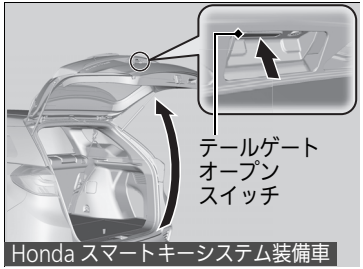
テールゲートを開ける



Honda スマートキーシステム非装備車

Honda スマートキーシステム非装備車

解錠されているときに、ハンドルを引き上げます。



Honda スマートキーシステム装備車

Honda スマートキーシステム装備車

解錠されているときに、テールゲートオープンスイッチを押して引き上げます。

施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートオープンスイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

➡ **Honda スマートキーシステム✤ での施錠 / 解錠**
P.129

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。 ENGINE START/STOP を押すときや、エンジンスイッチにキーを差し込むときは、下記の点に注意してください。

- ENGINE START/STOP またはエンジンスイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、キー✤、キーレスエントリーシステムまたはHonda スマートキーシステム✤、または内蔵キー✤ を使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには

キー✤、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステム✤、または内蔵キー✤ で解錠するか、エンジンスイッチを II ※1 にしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5 分間以上作動する場合があります。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

Honda スマートキーシステム装備車

- パワーモードが OFF モードになっている

Honda スマートキーシステム非装備車

- エンジンスイッチを 0 にして、キーを抜く

共通

- ボンネットが閉まっている
- キー✤、キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステム✤、または内蔵キー✤ で車外からすべてのドアとテールゲートが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

キー✤、キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステム✤、または内蔵キー✤ で解錠するか、エンジンスイッチを II ※1 にすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

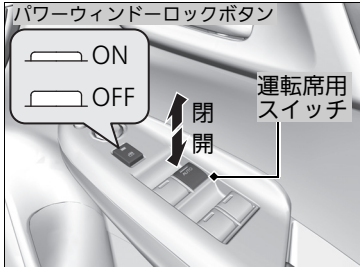
そのときは、キー✤、キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステム✤、または内蔵キー✤ でドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

パワーウィンドーの開閉

エンジンスイッチが II ※1 のときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFF にしてから行います。
パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。
パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

■自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■手動開閉
開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉
開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

次ページに続く

パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

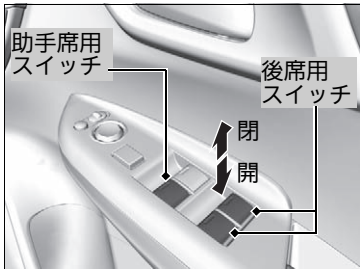
指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

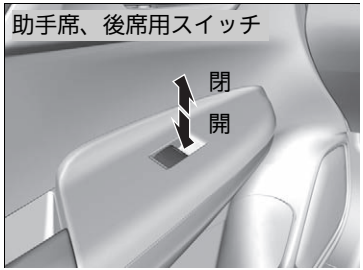
お子さまだけを車内に残さない。
必ずエンジンスイッチからキーを抜き ※1 ドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

エンジンスイッチをOFF※1にしても、約10分間は自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

■自動開閉機能なしのウィンドーの開閉





開けるとき：スイッチを押す
閉めるとき：スイッチを引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

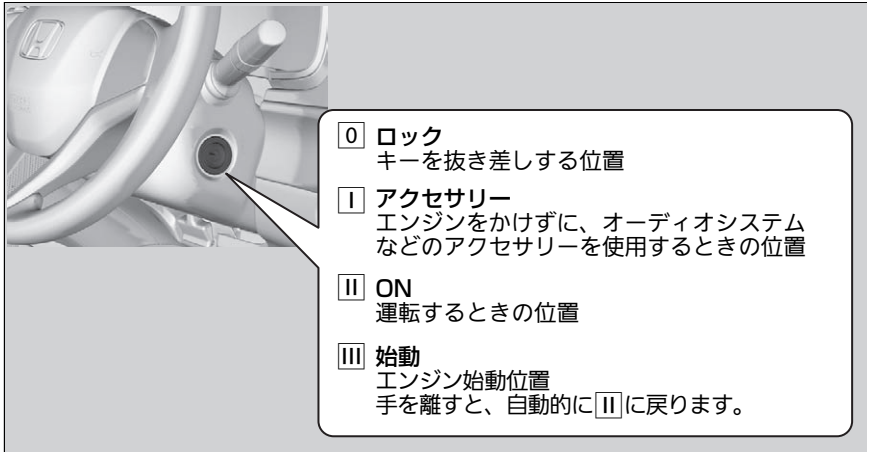
パワーウィンドーの開閉

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

後席（左、右）のウィンドーは、全開しません。

Honda スマートキーシステム非装備車

エンジンスイッチ



エンジンスイッチ

エンジンスイッチが 0 または I のときにキーを差し込んだまま運転席ドアを開けると、キー抜き忘れ警告ブザーが鳴ります。
キーを抜いてください。ブザー音が止まります。

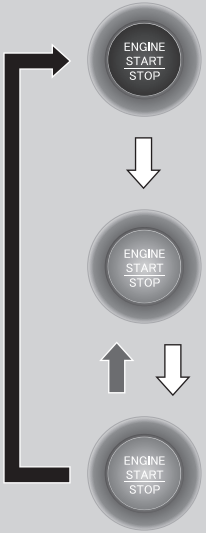
エンジンスイッチが 0 から I に回らないときは、ハンドルロックを解除します。
ハンドルを左右に回しながらキーを回してください。ハンドルロックが解除され、キーが回ります。

セレクトレバーを P に入れないとキーを抜くことができません。

Honda スマートキーシステム装備車

ENGINE START/STOP スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



OFF モード
- スイッチが消灯
- ハンドルがロックされ、全ての電源が OFF になります

アクセサリーモード
- スイッチが赤色で点滅
- エンジンを始動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置

ON モード
- スイッチが赤色で点滅
- すべてのアクセサリーが使用可能

（ブレーキペダルを踏んでいない状態）

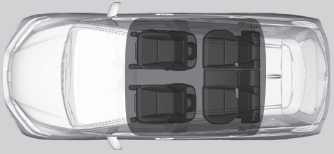
⇨ スイッチを押す

➡ セレクトレバーが P 以外のときに、スイッチを押す

➡ セレクトレバーが P のときに、スイッチを押す

ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合パワーモードをONモードにできます。パワーモードのON機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れを除く車内です。



■ パワーモード ON の作動範囲

キーバッテリーが低下した状態で ENGINE START/STOP を押してもエンジンがかからない場合があります。その時は、下記リンク先を参照ください。

➡ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.335

Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーモードをONモードにできることがあります。

■パワーモードオートオフ機能

セレクトレバーが P でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～ 60 分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。
このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠ができなくなります。
ENGINE START/STOP を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリーモードのとき

次ページに続く

ENGINE START/STOP スイッチ

ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。
ハンドルを左右に回しながら、
ENGINE START/STOP を押してください。ハンドルロックが解除されます。

■ Honda スマートキー持ち去り警告

警告ブザーには、車内警告ブザー(ピーッピーッピーッピーッピーッピーッ)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の 2 種類があります。警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

»Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

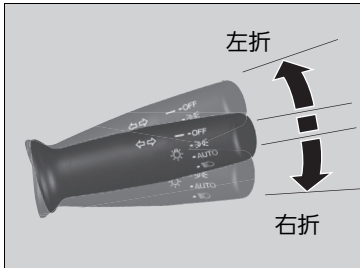
Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーがパワーモード ON の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

エンジンスイッチとパワーモードの比較

エンジンスイッチ位置	0 ロック	I アクセサリー	II ON	III 始動
Honda スマートキーシステム非装備車	• キーを抜き差しする位置 • ハンドルがロックされる位置 • アクセサリー使用不可	• エンジンを始動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置	• 運転するときの位置 • すべてのアクセサリーが使用可能	• エンジンの始動位置 手を離すと自動的に II に戻り、エンジン始動
パワーモード	OFF モード	アクセサリーモード	ON モード スイッチ　点滅　点灯	始動
Honda スマートキーシステム装備車	スイッチ：消灯 • エンジン OFF • ハンドルがロックされる位置 • アクセサリー使用不可	スイッチ：点滅 • エンジンを始動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置	スイッチ： 点滅 - エンジン OFF 点灯 - エンジン始動中 • すべてのアクセサリーが使用可能	スイッチ：点灯 • エンジンの始動位置 始動したら ON モードに自動的に戻ります。

方向指示器（ウィンカースイッチ）



エンジンスイッチが II ※1 のときに使用できます。

■ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が3回点滅します。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

ライトスイッチ

車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

AUTO ✤ パワーモードが ON モードのとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯 / 消灯

スイッチを回すとパワーモードやエンジンスイッチの位置に関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図（パッシング）

レバーを手前に引き、離します。

ライトスイッチ

ライトを点灯したままエンジンスイッチからキーを抜く、またはパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

➡ **表示灯** P.76

エンジンが止まっているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ヘッドライトオートオフ機能

エンジンスイッチを 0 ※1 にして、キーレスエントリー一体キー✤/Hondaスマートキー✤ ですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、フォグライト✤、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライトスイッチを AUTO ✤にしているときはパワーモードをOFFモードにすると消灯します。

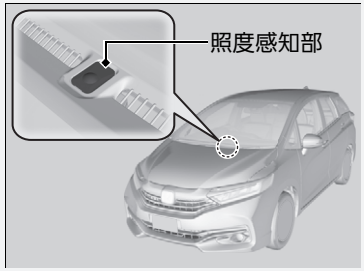
※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ライトスイッチ

オートライトコントロール装備車

照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。



感度設定	車外の明るさに応じてライトが点灯します。
MAX	明るい
HIGH	
MID	
LOW	
MIN	暗い

オートライトコントロールシステムの感度設定を、変更することができます。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

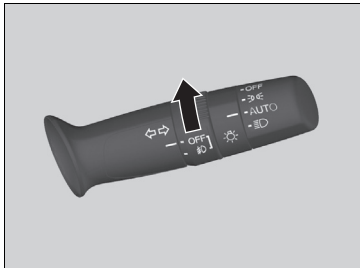
マルチインフォメーションディスプレイを使って変更することができます。

カスタマイズ機能 P.107

インフォメーションディスプレイ装備車

カスタマイズ機能の詳細は Honda 販売店にご相談ください。

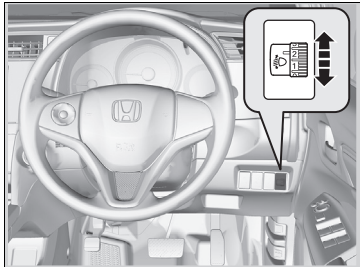
フォグライト✤



ライトスイッチが OFF 以外のとき（AUTO にしているときは、車幅灯が点灯しているとき）に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ヘッドライトレベリングダイヤル✤



エンジンスイッチが II ※1 のとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。

光軸の調節はダイヤルを回して行います。ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時 運転席と助手席に乗車時	0
5 名乗車時	1
5 名乗車でカーゴスペース満載時	2
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

≫ヘッドライトレベリングダイヤル✤

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを 0 の位置に戻してから行ってください。

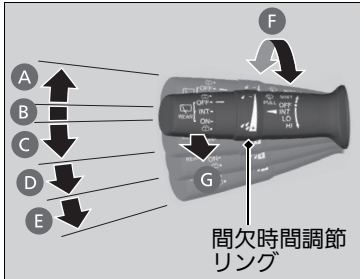
LED ヘッドライト装備車

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

ワイパー/ ウォッシャー

■フロントワイパー/ ウォッシャー



Ⓐ MIST: (レバーを操作している間作動)
Ⓑ OFF: 停止
Ⓒ INT: 間欠(雨量が少ないとき)
Ⓓ LO: 低速(普通の雨量のとき)
Ⓔ HI: 高速(雨量が多いとき)
Ⓕ 間欠時間の調節
Ⓖ ウォッシャー

エンジンスイッチが II ※1 のときに使用できます。

■MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ(OFF、INT、LO、HI)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■間欠時間の調節

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。

間欠間隔が長い

間欠間隔が短い

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

次ページに続く

ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス
ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス
ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。
数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。
間欠時間を短いほうにいっぱいに回っている状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

■リヤワイパー/ ウォッシャー

エンジンスイッチが II ※1 のときに使用できます。

■リヤワイパースイッチ (OFF、INT、ON)

雨量に応じてワイパースイッチを切り替えて使用します。

■ウォッシャースイッチ

スイッチを まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。
スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■リバース連動モード

フロントワイパー作動中にセレクトレバーを R に入れるとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーのレバー位置と作動モード	リヤワイパーの作動モード
INT（間欠）	間欠作動
LO（低速） HI（高速）	連続作動

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

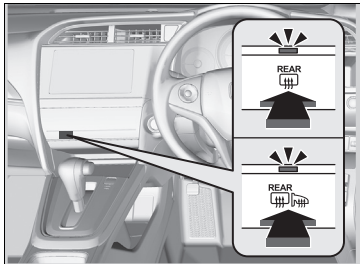
ワイパー/ ウォッシャー

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターやフロントガラス熱線✤でフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。
ワイパースイッチを OFF、エンジンスイッチを I または 0 ※1 にしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

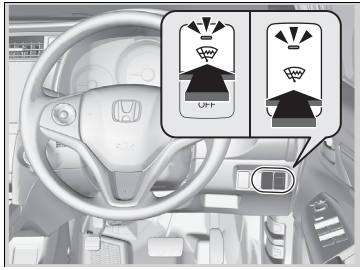
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー✤



エンジンスイッチが II ※1 のときにアイコンを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0 ℃以下のときは自動的に停止しません。

フロントガラス熱線スイッチ✤



エンジンスイッチが II ※1 のときに、フロントガラスの下端を暖め、雪の固着や凍結によるワイパーブレードラバーの損傷を防ぐことができます。

スイッチを押すと、フロントガラス熱線が ON になります。

約 15 分経過後、自動的に停止します。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー✤

アドバイス

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。
必ず、デフロスターの電熱線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

フロントガラス熱線スイッチ✤

この装置は消費電力が大きいので、長時間使わないでください。
また、エンジンの回転数が低いときに長時間使用するとバッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

イルミネーションコントロール

インフォメーションディスプレイ装備車

エンジンスイッチが II ※1 で、ライトスイッチが OFF 以外のとき(オートライトコントロール装備車は、ライトスイッチが OFF 以外で周囲が暗いとき)、セレクト/リセットノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

エンジンスイッチが II ※1 のとき、セレクト / リセットノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：ノブを右に回す

暗くする：ノブを左に回す

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

イルミネーションコントロール

オートライトコントロール非装備車

ライトスイッチが OFF 以外のとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

オートライトコントロール装備車

ライトスイッチが OFF 以外で周囲が暗いとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

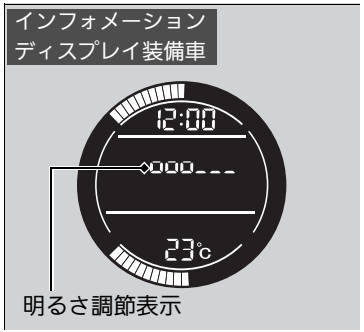
インフォメーションディスプレイ装備車

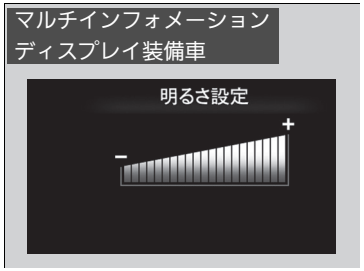
インストルメントパネル照明が減光していないときは、明るさ調節できません。

減光時に目盛が全て表示されるまで、セレクト / リセットノブを右に回すと、「ピッ」という音がして減光が解除されます。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

車幅灯が消灯しているときに目盛が全て表示されなくなるまでセレクト / リセットノブを左に回すと、耀表示が最小になります。このとき、走行したり、車幅灯を点灯させると明るさ最小の状態が解除され、元の明るさに戻ります。





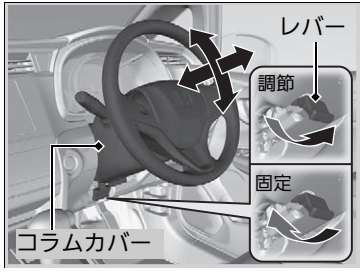
明るさが最大 / 最小になると電子音が鳴ります。
また、明るさの調節後、数秒経過するとディスプレイが元の表示に戻ります。

■明るさ調節表示

セレクト / リセットノブを回すとディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。
目盛が右に増えていくほど、インストルメントパネル照明が明るくなります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。

2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。

3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。
▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ハンドルの調節

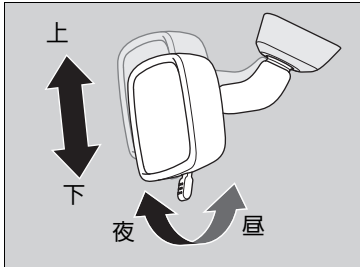
⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■手動式防眩ミラー

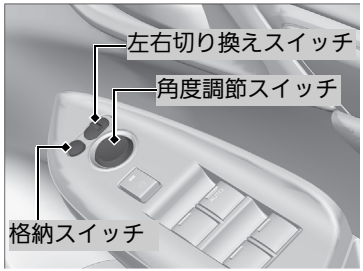


夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

ミラー類の調節

ミラー類の調節は、走行前に行ってください。

ドアミラー



	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

ドアミラーの操作は、エンジンスイッチが II ※1 のときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

■オートリトラミラー

キーレスエントリーシステムやHondaスマートキーシステム✤でのドアの施錠や解錠に連動して、エンジンスイッチが 0 ※1 の状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するとき：

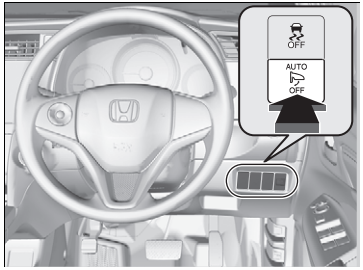
- キーレスエントリー一体キー✤またはHondaスマートキー✤の施錠ボタンを押す。
- Honda スマートキー✤ を携帯し、ドアハンドルやテールゲートのロックボタンを押す。

元の位置に戻すとき：

- キーレスエントリー一体キー✤またはHondaスマートキー✤の解錠ボタンを押す。
- Honda スマートキー✤ を携帯し、ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押す。
- エンジンスイッチを II ※1 にする。

インフォメーションディスプレイ装備車

■オートリトラミラーOFF スイッチ



オートリトラミラー機能をOFFにするには、AUTO OFF スイッチを押してください。
機能を ON にもどすには、再度スイッチを押してください。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

オートリトラミラー

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

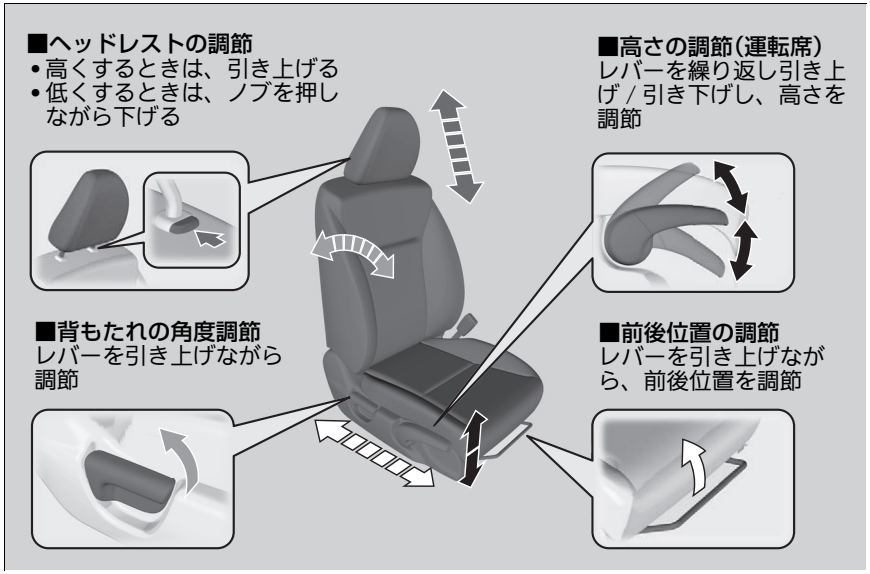
オートリトラミラーの機能は、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能でON/OFF を切り替えることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.107

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくブレーキペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■シートの動かしかた



シートの動かしかた

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

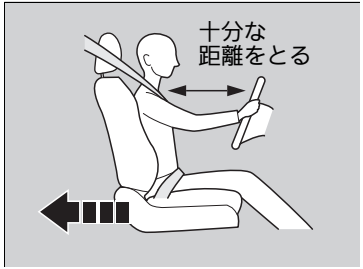
フロントシートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

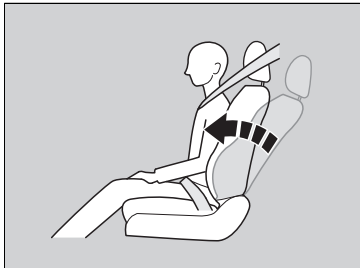
フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。

■フロントシートの調節



■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

≫フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

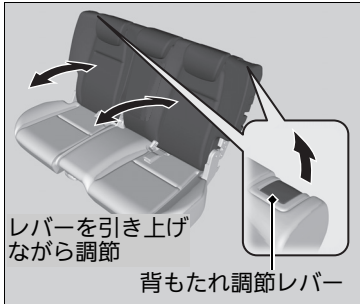
背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート

■背もたれの調節



背もたれは、左右別々に操作することができます。背もたれ調節レバーを引いて、背もたれの角度を調節します。

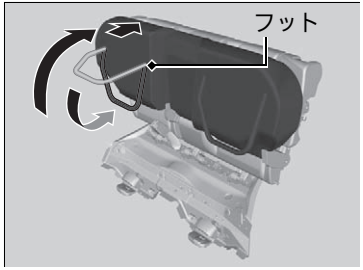
≫リヤシート

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手などをはさまないように十分注意する。

■座面をはね上げて固定する（チップアップ）



座面は、左右別々にはね上げることができます。

■座面のはね上げかた

1. 座面を引き上げる。
2. 座面を背もたれに押しつけながらフットを格納して、固定する。

次ページに続く

≫座面をはね上げて固定する（チップアップ）

⚠注意

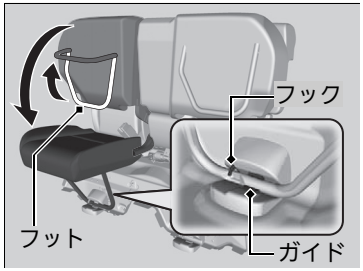
座面をはね上げたときや戻したときは、座面を前後にゆすって確実に固定されていることを確認する。

固定されていないと、座面が前に倒れるおそれがあります。

座面を戻すときは、以下のことを確認する。

- ガイド周辺に異物がないか
- フロアマットがズレて、ガイドに乗り上げていないか
- 座面の下にものやシートベルトを置いていないか

異物をかみ込んだり、フットがガイドにきちんと入っていないと座面が確実に固定されず、走行中に座面がはね上がり思わぬ事故につながるおそれがあります。



■戻しかた

1. 座面を押さえながら、フットをいっぱいに開く。
▶ 座面が前に倒れ込むので必ず手を添えて操作してください。

2. 座面を静かに前方に倒して、フットをガイドに入れる。
▶ ガイドからフックが出ていることを確認してください。

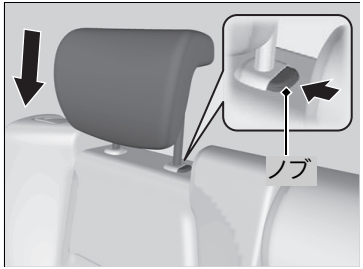
≫座面をはね上げて固定する（チップアップ）

フットを格納した状態で座面を倒さないでください。

アドバイス

座席を戻すときは、シートベルトやバックルをはさみ込まないように注意してください。
はさまれると正しく着用できません。
シートベルトやバックルが破損することがあります。

■背もたれの倒しかた



リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。
片側ずつ独立して行えます。

■倒しかた

1. 中央の三点式シートベルトを分離・収納する。
➡ **分離収納式シートベルト** P.34

2. ヘッドレストを下げる。

次ページに続く

≫背もたれの倒しかた

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

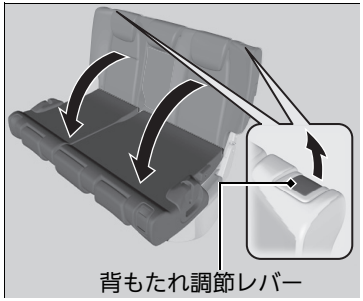
シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

以下のような場合、ヘッドレストがシートバックポケットに引っかかりやすいので注意してください。
- フロントシートの背もたれを後ろに倒したとき
- シートバックポケットにものが入ったままリヤシートを格納するとき

アドバイス

シートを格納する前にシートの周りを確認してください。シートの上にものやシートベルトやバックルを置いたまま操作しないでください。
シートベルトやバックルが破損することがあります。

シートの座面や収納される場所の荷物等はあらかじめどけてから操作してください。



3. 背もたれ調節レバーを引き、前方に倒す。

■戻しかた

背もたれを起こして固定します。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

背もたれの倒しかた

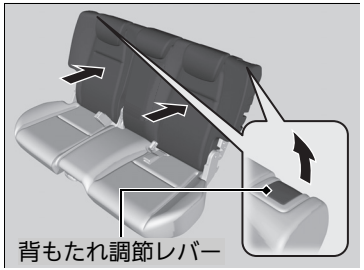
背もたれを倒すときは、カーゴスペースの荷物等を固定してください。
急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。

シートを格納するときは、シートの下にものやシートベルトを置いたまま操作しないでください。

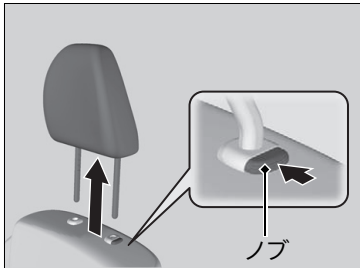
背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないように注意してください。
はさまれると正しく着用できません。
シートベルトが破損することがあります。

フラットシート

フロントシート（運転席、助手席）の背もたれを倒すと、リヤシートとフラットな状態にできます。



1. リヤシートの背もたれ調節レバーを引き上げながら、背もたれを後ろへ倒して固定する。



2. ノブを押したままフロントシートのヘッドレストを外す。

次ページに続く

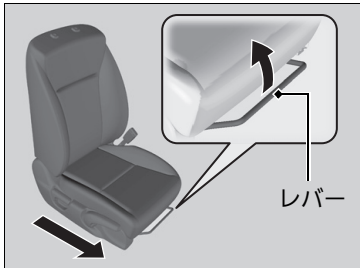
フラットシート

⚠注意

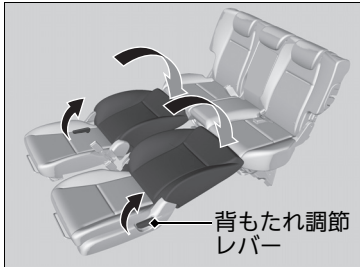
フラットな状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しない。
ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フラットな状態で、シートの上を走り回らない。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動する。
シートの端を踏むと足を踏み外すおそれがあります。

背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作する。
背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。



3. レバーを引き上げながらフロントシートを前方いっぱいに動かす。



4. 背もたれ調節レバーを引き上げながら背もたれを後ろに倒して固定する。

■フラットシートを元に戻すとき

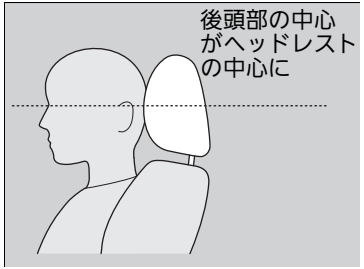
元に戻すときは逆の手順で行います。

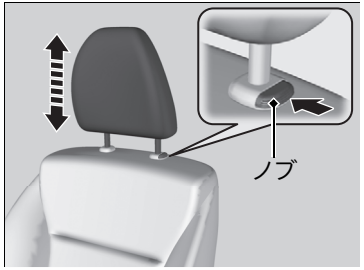
フラットシート

シートを操作したら、シートを前後にゆすって固定されていることを確認してください。

ヘッドレスト

■フロントシートヘッドレストの調節





後頭部の中心が、ヘッドレストの中心にくるようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げる
低くするとき：ノブを押しながら下げる

次ページに続く

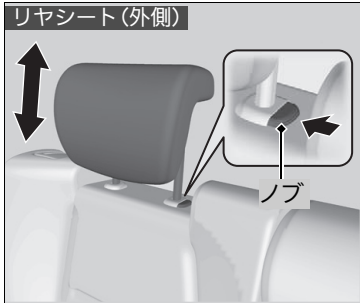
ヘッドレスト

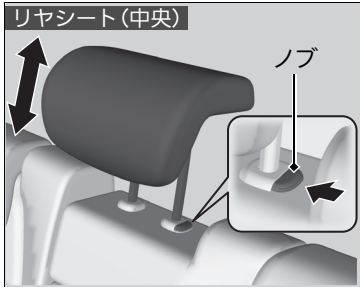
⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■リヤシートヘッドレストの位置変更





乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げる
低くするとき：ノブを押しながら下げる

リヤシートヘッドレストの位置変更

⚠警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ヘッドレストの取り外しと取り付け

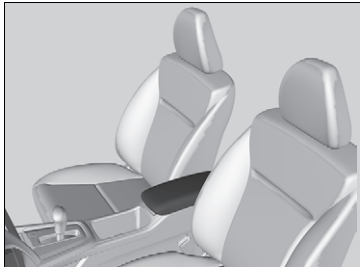
ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト

■フロントシートアームレスト



アームレスト

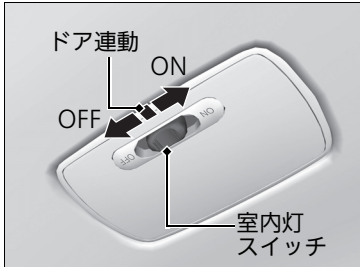
⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

■室内灯スイッチ



■ON
ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動
以下のときに室内灯が点灯。
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき

Honda スマートキーシステム装備車
- パワーモードを OFF モードにしたとき

Honda スマートキーシステム非装備車
- エンジンスイッチからキーを抜いたとき

■OFF
ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

≫室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に減光しながら消灯します。

以下の場合も約 30 秒後に消灯します。
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき

Honda スマートキーシステム装備車
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

Honda スマートキーシステム非装備車
- キーを抜いてドアを開けなかったとき

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

室内灯の消灯する時間をカスタマイズすることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.107

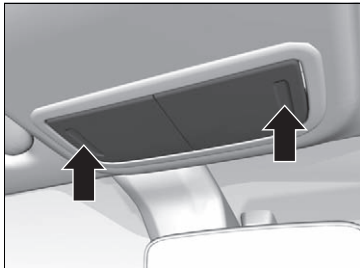
また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席のドアを施錠したとき

Honda スマートキーシステム装備車
- パワーモードが OFF モード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

Honda スマートキーシステム非装備車
- エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉めたとき
- エンジンスイッチを II にしたとき

次ページに続く

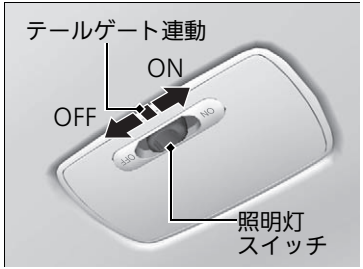
■マップランプ



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

■カーゴスペース照明灯



■ON

テールゲートの開閉に関係なく点灯。

■テールゲート連動

テールゲートを開けると点灯し、閉めると消灯。

■OFF

テールゲートの開閉に関係なく消灯。

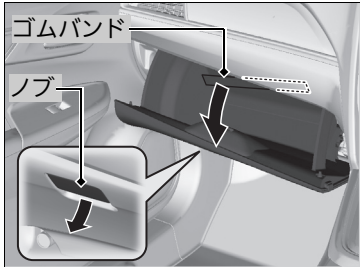
室内灯

エンジンスイッチにキーが差し込まれていない状態、またはパワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に室内灯は消灯します。

バッテリーが上がる恐れがあるため、エンジンが停止しているときは室内灯を長時間点灯させないでください。

室内装備品

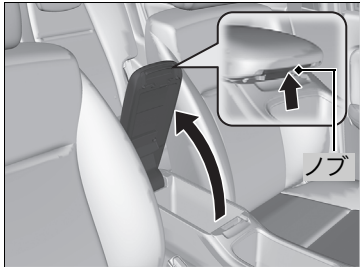
■グローブボックス



ノブを引くと開きます。

内側にゴムバンドが付いています。

■センターコンソールボックス



ノブを引くと開きます。

次ページに続く

グローブボックス

⚠警告

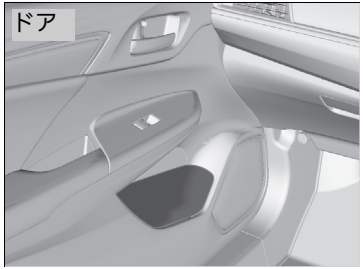
走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

センターコンソールボックス

⚠警告

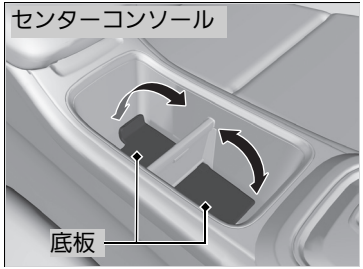
走行中は必ずセンターコンソールボックスを閉める。
センターコンソールボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ドリンクホルダー



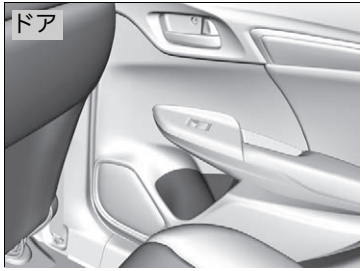
■フロントシート用ドリンクホルダー

ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。



■センターコンソールドリンクホルダー

浅くする：底板を倒す。
深くする：底板を引き上げる。



■リヤシート用ドリンクホルダー

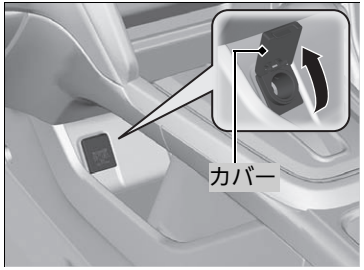
運転席側と助手席側にあります。

ドリンクホルダー

⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。
スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■アクセサリーソケット



エンジンスイッチが I または II ※1 のときに使用できます。

カバーを開けて使います。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

次ページに続く

≫アクセサリーソケット

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

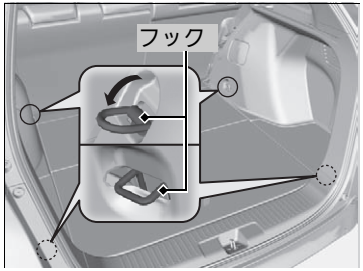
消費電力 180W（15A）以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。

■コートフック

リヤシート右側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。

■タイダウンフック



荷物を固定するときに使います。

≫コートフック

サイドカーテンエアバッグ装備車

⚠注意

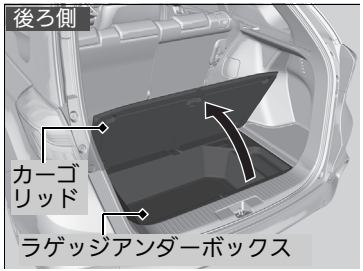
グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

≫タイダウンフック

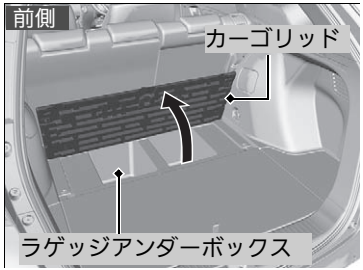
⚠注意

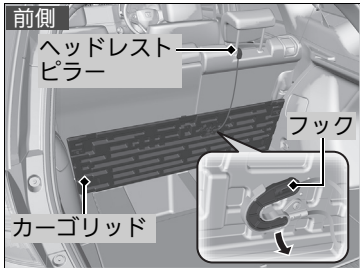
走行中は荷物の出し入れをしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ラゲッジアンダーボックス



カーゴリッドを開けると、ラゲッジアンダーボックスがあります。





前側

■カーゴリッドを固定するときは

1. 後席右側のヘッドレストを引き上げます。
2. カーゴリッドを開けます。
3. フックをヘッドレストピラーにかけます。

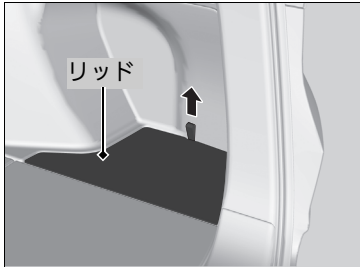
次ページに続く

≫ラゲッジアンダーボックス

⚠注意

走行中は荷物の出し入れはしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

■サイドコンソールボックス



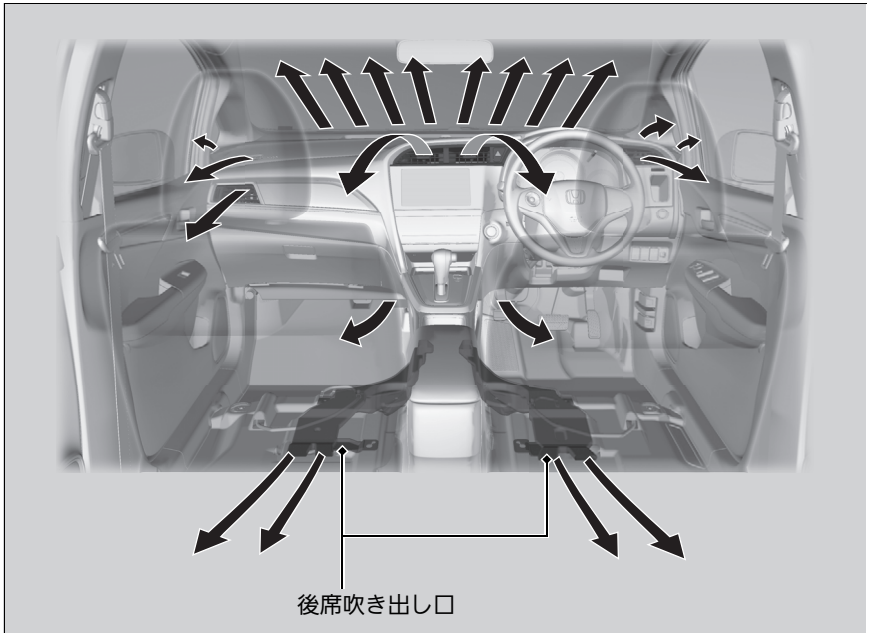
カーゴスペース両側にあります。
リッドを外して使います。

サイドコンソールボックス

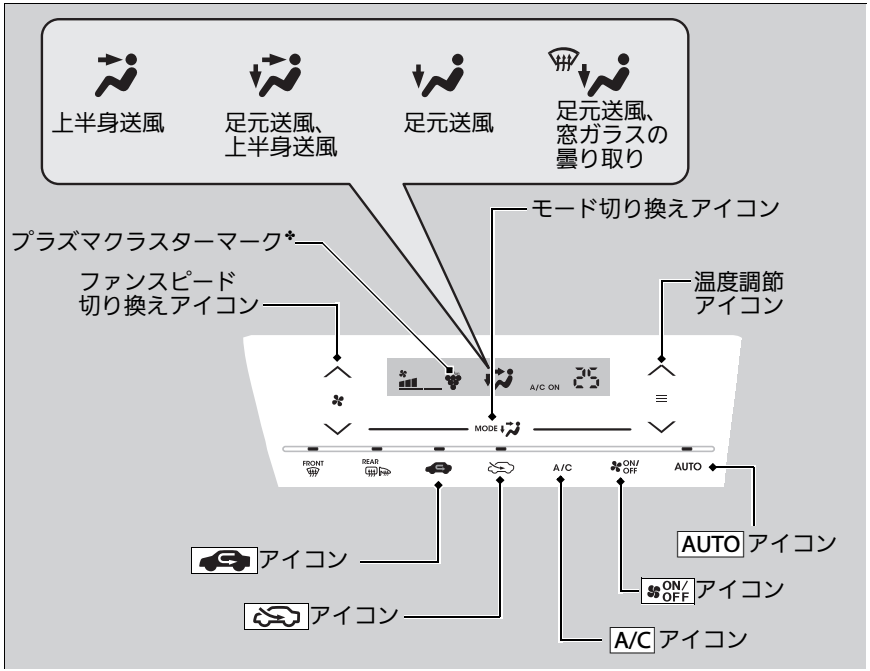
⚠注意

走行中は荷物の出し入れはしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

エアコンの吹き出し口



オートエアコンの使いかた



エンジンを始動してから使用します。

1. AUTO を押す。

2. 温度調節アイコン(∧/∨)を押して温度を調節する。

3. 停止するときは、ON/OFF を押す。

オートエアコンの使いかた

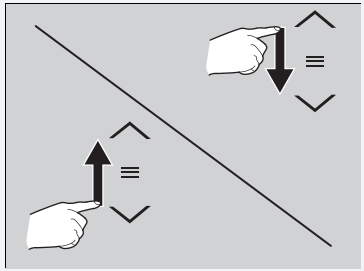
オート(AUTO)で使用中いずれかのアイコンを押すと、そのアイコンの機能が優先されます。
このとき AUTO の表示灯は消灯しますが、選択したアイコン以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

温度調節アイコンやファンスピード切り換えアイコン部分を指でスライドさせると、設定値を変更できます。



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて、を押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯)：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯点灯)：換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に A/C を押すと、除湿暖房となります。

オートエアコンの使いかた

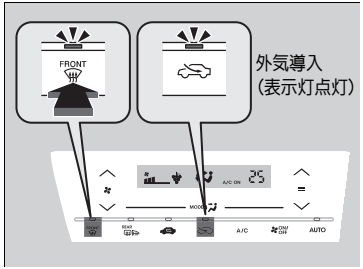
ON/OFF を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

アイドリングストップ中は冷暖房機能が停止し、送風機能のみが作動します。
冷暖房機能を停止させたくないときは、アイドリングストップシステム OFF スイッチを押してアイドリングストップ機能を OFF にしてください。

急な上り坂などでは、走行性能を優先させるため、エアコンが作動しないことがあります。

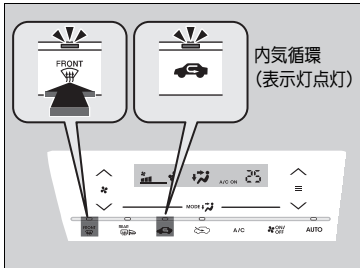
次ページに続く

■前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



FRONT を押すと曇り止めが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONT をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



■急速に霜を取りたいとき

1. FRONT を押す。
2. を押す。

≫前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

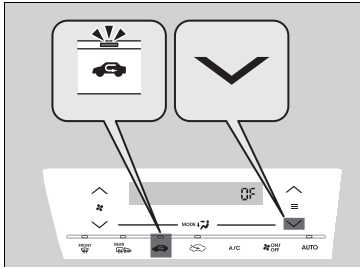
側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

アイドリングストップ中にFRONTを押すと、エンジンが自動的に再始動します。

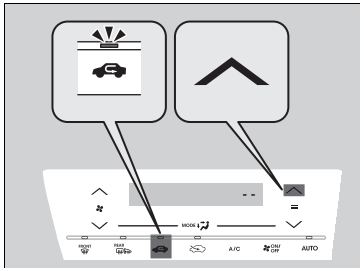
■タッチパネル操作音の ON と OFF

エアコンのタッチパネルを操作すると、確認のため音が鳴ります。この音を OFF にしたい場合は、下記の手順で設定してください。



1. エンジンスイッチを II ※1 にする。
2. を押したまま、温度下方調節アイコン（∨）部分を 5 回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「- -」が 5 回点滅した後、「OF」が表示されたことを確認してから を離す。

OFF から ON に戻す場合は、下記の手順で設定してください。



1. エンジンスイッチを II ※1 にする。
2. を押したまま、温度上方調節アイコン（∧）部分を 5 回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「OF」が 5 回点滅した後、「- -」が表示されたことを確認してから を離す。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

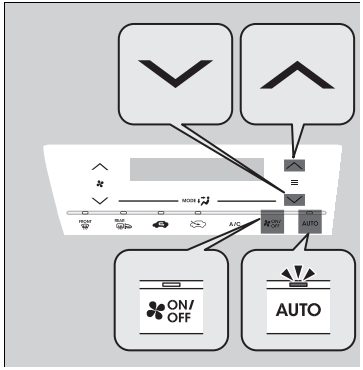
次ページに続く

タッチパネル操作音の ON と OFF

設定変更中に、手順と関係のないボタンを押すと設定がうまくいかないことがあります。
設定がうまくいかないときは、一度エンジンスイッチを 0 ※1 にし、最初からやりなおしてください。

■タッチパネル感度の設定

エアコンのタッチパネルの感度を、高め、普通、低めに設定することができます。



1. エンジンスイッチを II ※1 にする。

2. AUTO アイコンを押したまま、変更したい設定のアイコンを 5 回連続で押す。

- 温度上方調節アイコン（∧）：高め※2 にしたいとき

▶ 表示部分が点滅し、設定が変更されると「**Hi**」が表示されます。

- ON/OFF：普通にしたいとき

▶ 表示部分が点滅し、設定が変更されると「**- -**」が表示されます。

- 温度下方調節アイコン（∨）：低めにしたいとき

▶ 表示部分が点滅し、設定が変更されると「**Lo**」が表示されます。

3. AUTO アイコンを離す。

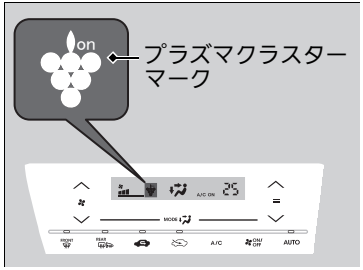
※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

※2：工場出荷時の設定

タッチパネル感度の設定

設定変更中に、手順と関係のないボタンを押すと設定がうまくいかないことがあります。設定がうまくいかないときは、一度エンジンスイッチを 0 ※1 にし、最初からやりなおしてください。

■プラズマクラスター✤



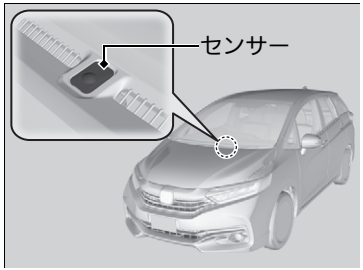
エアコンもしくは送風に連動してプラズマクラスターも作動し、マークが点灯します。

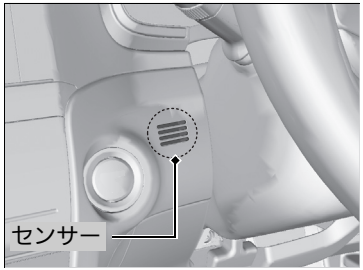
プラズマクラスター✤

プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスター、Plasmaclusterはシャープ株式会社の登録商標です。

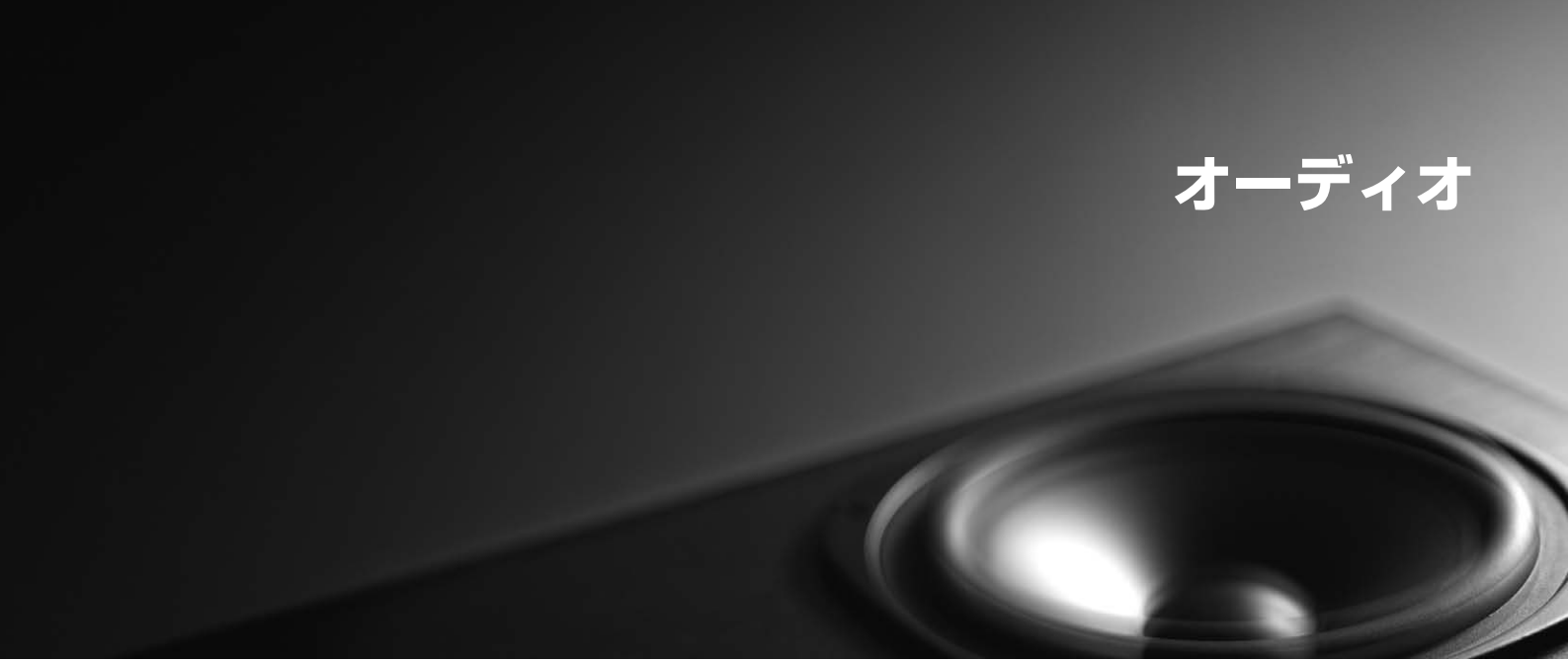
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

オートエアコンのセンサー





オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



オーディオ

運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に 196

運転操作

エンジンの始動 198
走行時の注意点 201
無段変速オートマチックについて..... 204
シフト操作..... 205
アイドリングストップシステム 207
ECON スイッチ..... 211
VSA（ビークルスタビリティアシスト）...212
4WD（四輪駆動機構）✤ 213

ホンダセンシング✤ 214

衝突軽減ブレーキ（CMBS）.....215
誤発進抑制機能 222
歩行者事故低減ステアリング.....224
ACC（アダプティブクルーズコントロール）..... 229
LKAS（車線維持支援システム）.....242
路外逸脱抑制機能.....253
先行車発進お知らせ機能.....260
標識認識機能.....264
フロントセンサーカメラ.....271
レーダーセンサー.....273

ブレーキ操作

ブレーキシステム 274
ABS（アンチロックブレーキシステム）..276
電子制御ブレーキアシスト..... 277
エマージェンシーストップシグナル....278

駐停車操作

駐車する 279

給油

指定燃料について 281
給油のしかた 281

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  ➡ **タイヤの点検と整備** P.302
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？

≫車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

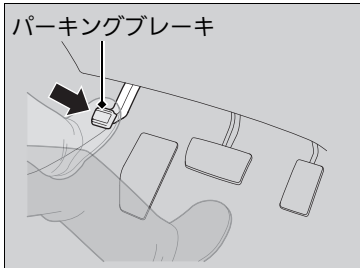
≫車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

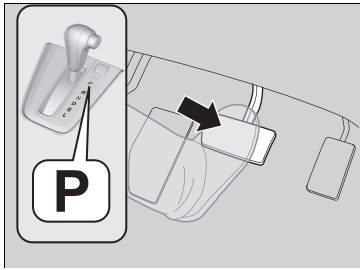
車にあったフロアマットをお使いください。

- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.164
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.161
  ➔ **ハンドルの調節** P.160
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.31
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.137
- エンジンをかけたとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.62

エンジンの始動



1. パーキングブレーキをかける。



2. シフトポジションが P であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。

▶ N でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される P で行ってください。

エンジンの始動

⚠警告

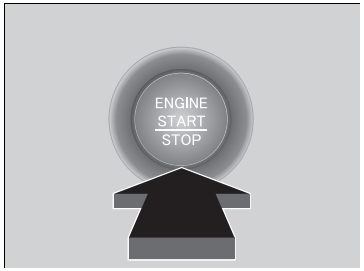
バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

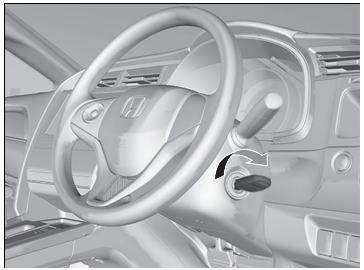
寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。
そのため、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができません。
➔ **イモビライザーシステム** P.141



Honda スマートキーシステム装備車

3. アクセルペダルを踏まずに、
ENGINE START/STOP を押す。



Honda スマートキーシステム非装備車

3. アクセルペダルを踏まずに、エンジンスイッチを III に回す。

■エンジンの停止

車が完全に停止しているとき、エンジンを切ることができます。

1. シフトポジションを P にする。

Honda スマートキーシステム装備車

2. ENGINE START/STOP を押す。

Honda スマートキーシステム非装備車

2. エンジンスイッチを、ゆっくりと 0 まで回す。

▶ エンジンスイッチを 0 にすると、ハンドルがロックされます。

次ページに続く

エンジンの始動

エンジンがかからない場合は、30秒以上待ってから操作してください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーシステム装備車

ENGINE START/STOP はエンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで ENGINE START/STOP に触れてください。
➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.335

Honda スマートキーシステム非装備車

エンジンスイッチを 10 秒以上 III にしないでください。
エンジンスイッチを III にしたらすぐに、手を離してください。自動的に II に戻ります。
エンジンスイッチはエンジンが始動するまで回し続ける必要はありません。

■発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを D にする。
▶ 後退する場合は R にします。

2. パーキングブレーキを解除する。
▶ ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。
➡ **パーキングブレーキ** P.274

3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

次ページに続く

走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーをNにしないでください。
エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

≫雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

≫その他の注意点

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

アドバイス

下記のような場合には、アンダースポイラーを損傷するおそれがあります。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過

無段変速オートマチックについて

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトポジションがP N以外に入っていると動力がつながった状態になり、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

クリープ現象

エンジン回転が上がるとクリープ現象が強くなります。
エンジン回転が上がったときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

■キックダウン

セレクトレバーがD Sで走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

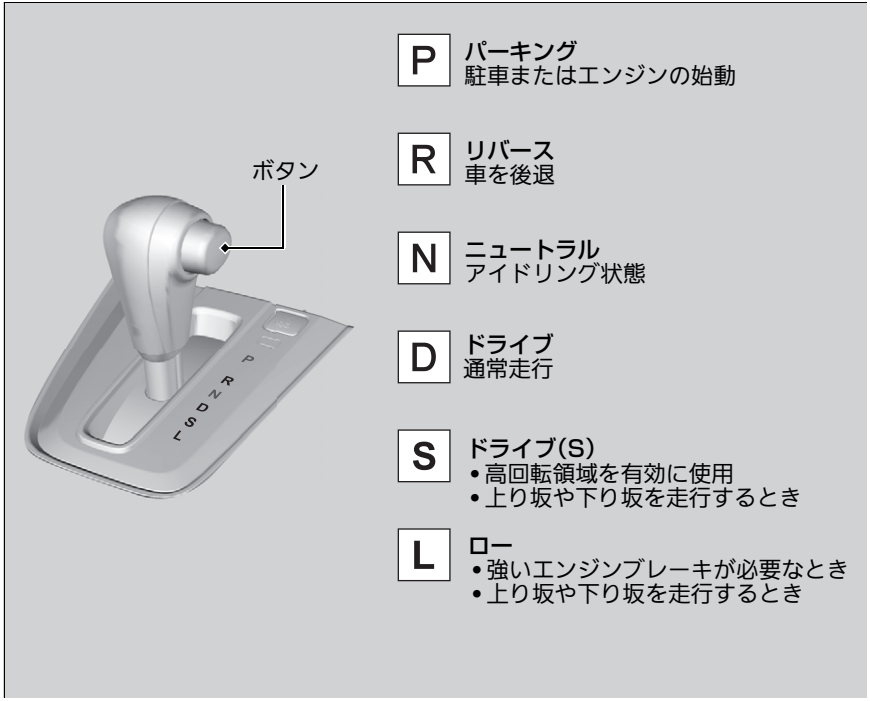
キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき



シフト操作

R のときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。

N のときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。
ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

Honda スマートキーシステム装備車

セレクトレバーが P 以外のときは、パワーモードが OFF モードになりません。

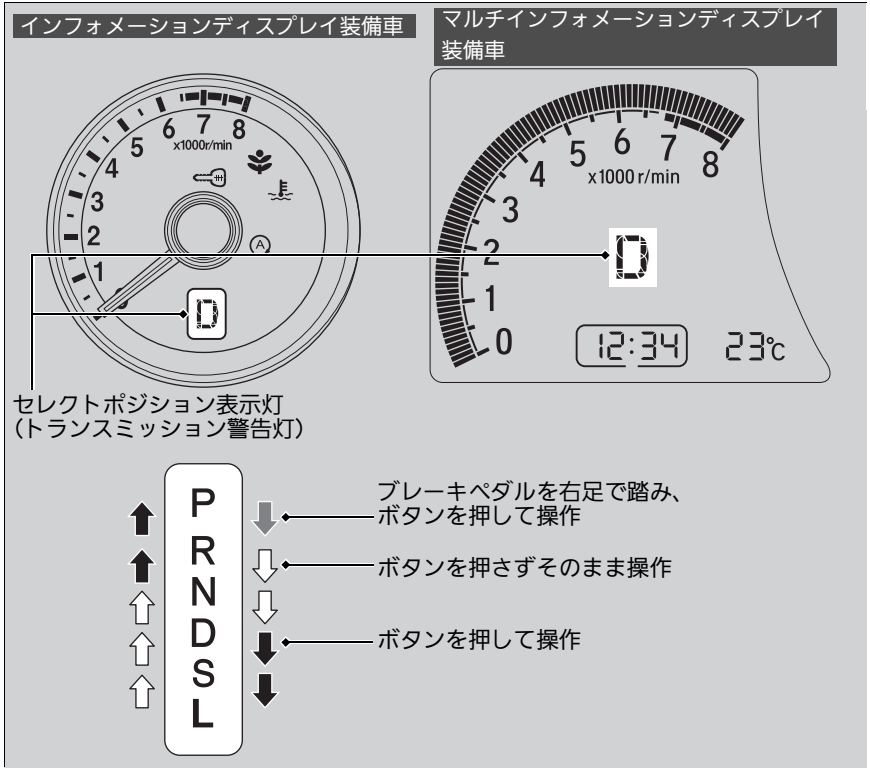
Honda スマートキーシステム非装備車

セレクトレバーが P 以外のときは、エンジンスイッチが 0 まで回らないため、キーを抜くことはできません。

次ページに続く

■セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



≫セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にトランスミッション警告灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

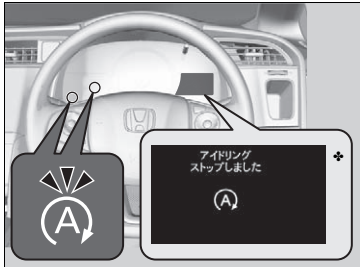
セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

外気温が非常に低い(マイナス 30 度以下)とき、セレクトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずセレクトポジションを確認してください。

アイドリングストップシステム

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯(グリーン)が点灯します。



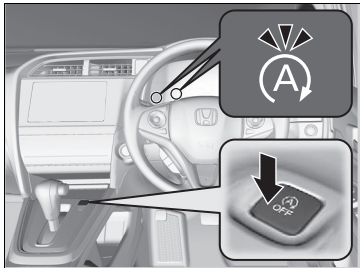
表示灯(グリーン)が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

マルチインフォメーションディスプレイにアイドリングストップ状態のメッセージが表示されます。

➡ **警告灯** P.62
➡ **表示灯** P.76
➡ **カスタマイズ機能** P.107

■アイドリングストップシステムの ON/OFF



アイドリングストップシステムの作動を停止にするには、Ⓐ OFFを押してください。
メーター内のアイドリングストップシステム OFF 表示灯(オレンジ)が点灯し、アイドリングストップシステムの作動が停止します。

前回の走行時に作動を停止した場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に作動可能状態になります。

アイドリングストップシステム

アイドリングストップシステム装備車に適合した専用バッテリーを使用しています。
専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。交換時は専用バッテリーを使用してください。
詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

➡ **仕様** P.362

ECON スイッチを ON にしていると、エアコン使用中のアイドリングストップ時間が長くなります。

➡ **ECON スイッチ** P.211

アイドリングストップシステムの ON/OFF

アイドリングストップ中にⒶ OFFを押すと、エンジンが再始動します。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■アイドリングストップをする

停車時にブレーキペダルを踏んでいるとアイドリングストップします。

■アイドリングストップしない条件

- 運転者がシートベルトを着用していないとき
- エンジン冷却水の水温が低いとき、または高いとき
- トランスミッションフルードの油温が低いとき、または高いとき
- エンジン始動後、5km/h に達しないまま停車したとき
- 急な坂道で停車したとき
- シフトポジションを D 以外にしているとき
- アイドリングストップシステム OFF スイッチを押してアイドリングストップ機能を OFF したとき
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したとき
  ▶ ボンネットを閉めてからエンジンを再始動してください。
- バッテリーの充電量が少ないとき
- バッテリーの内部温度が 5 ℃以下のとき
- 外気温がー 20 ℃以下または 40 ℃以上で、エアコンを使用しているとき
- エアコンの設定温度が Hi または Lo で、エアコンを使用しているとき
- FRONT が ON のとき

キャパシタ電源システム装備車

- キャパシタ（短時間に大容量の電力の充放電ができる蓄電器）の状態が良好でないとき

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

アイドリングストップをする

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。
ボンネットを開けると、エンジンが自動で再始動しません。
ボンネットを開けたときは、セレクトレバーを P にして、エンジンスイッチ※1 でエンジンを再始動させてください。
➔ **エンジンの始動** P.198

Honda スマートキーシステム装備車

アイドリングストップ中に、ENGINE START/STOP を押すとアクセサリーモードになり自動で再始動しません。
通常のエンジンの始動操作をしてください。
➔ **エンジンの始動** P.198

Honda スマートキーシステム非装備車

アイドリングストップ中に、エンジンスイッチを III にしてもエンジンは始動しません。

■アイドリングストップしないことがある条件

- 急ブレーキをかけて停止したとき
- ハンドルを動かしているとき
- エアコン風量が多いとき
- 標高が高いとき
- 低車速で、加減速が繰り返されるとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きいとき
- エアコンを使用中で車内の湿度が高いとき

次ページに続く

■エンジンが自動的に再始動する

ブレーキペダルを離すとエンジンが自動的に再始動します。

■ブレーキペダルを離さずに、エンジンが自動的に再始動する条件

- アイドリングストップシステム OFF スイッチを押してアイドリングストップ機能を OFF したとき
- ハンドルを動かしたとき
- セレクトレバーを R、L、S にしたとき、または N から D に操作したとき
- 坂道で停車中に、ブレーキをゆるめて車が動いたとき
- ブレーキを繰り返し踏み込んだりゆるめたりしたとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- 運転者がシートベルトを外したとき
- FRONT を押したとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きくなったとき
- エアコンを使用中で車内の湿度が高くなったとき

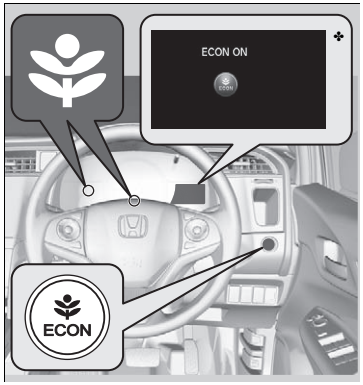
■発進補助ブレーキ機能

アイドリングストップからの発進はブレーキペダルから足を離しても一時的にブレーキ力を保持し、坂道で車を下がりにくくします。

エンジンが自動的に再始動する

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、使用している電子機器によっては、電源が一時的にオフになることがあります。

ECON スイッチ



スイッチを押すとエンジン、トランスミッション、エアコンの作動を制御して、省燃費運転をしやすくするように制御します。

エンジンスイッチが II ※1 のときに ECON スイッチを押して、ECON モードの ON と OFF を切り替えてください。

▶ ECON モードが ON の時は、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ECON スイッチ

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 ➡ P.276

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

➡ **電子制御ブレーキアシスト** P.277

■ VSA の作動と警告灯

TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、エンジンスイッチを II ※1 にしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

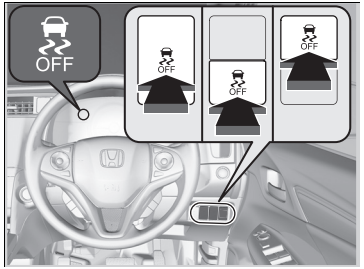
VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、OFF で VSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

■ VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止（OFF）状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。
再度使用（ON）するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

4WD（四輪駆動機構）✤

4WD（四輪駆動機構）は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車（二輪駆動車）に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、後輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

VSA（ビークルスタビリティアシスト）

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

4WD（四輪駆動機構）✤

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、4WD が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

4WD の状態で走行中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上がると、システム保護のため 4WD から 2WD に切り換わることがあります。
しばらくして油温が下がると、4WD に復帰します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ホンダセンシング✤

フロントグリル内に設置されたレーダーセンサーと、フロントウィンドー内上部に設置されたフロントセンサーカメラの、特性の異なる2種類のセンサーで構成された運転支援システムです。

ホンダセンシングには、次の機能があります。

- 衝突軽減ブレーキ（CMBS） ➔ P.215
- 誤発進抑制機能 ➔ P.222
- 歩行者事故低減ステアリング ➔ P.224
- ACC（アダプティブクルーズコントロール） ➔ P.229
- LKAS（車線維持支援システム） ➔ P.242
- 路外逸脱抑制機能 ➔ P.253
- 先行車発進お知らせ機能 ➔ P.260
- 標識認識機能 ➔ P.264

ホンダセンシング✤

⚠警告

ホンダセンシングは、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
各機能の能力（認識能力・制御能力）には限界があります。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

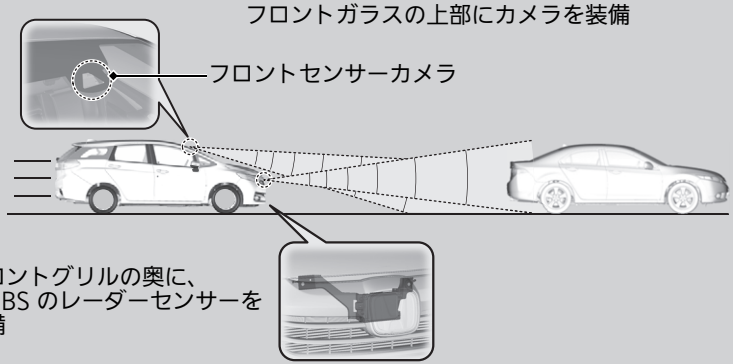
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

■システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両や歩行者の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両および歩行者に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
対向車および歩行者に対しては、自車が約 80km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
さらに、約 30 ～ 80km/h で走行中に対向車に対して CMBS が検知する状況では、ステアリング振動による警告も作動します。
CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、自動ブレーキは解除されます。

次ページに続く

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

⚠警告

衝突軽減ブレーキ（CMBS）は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

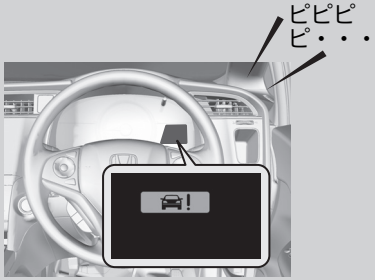
周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **レーダーセンサー** P.273

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **フロントセンサーカメラ** P.271

■CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。
- マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告ブザーに加え、ステアリング振動による警告が発生します



CMBS の警報距離を Far・Normal・Near の 3 段階から選択することができます。
➡ **カスタマイズ機能** P.107

Far は Normal に対して遠くで警告します。Near は Normal に対して近くで警告します。

■ステアリング振動による警告について

対向車に対して衝突のおそれがあるときは、視覚への警告に加え、ハンドルに短時間の弱い振動を発生させて運転者に注意を喚起します。

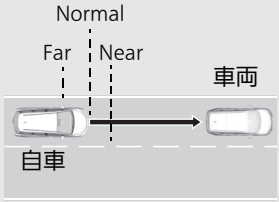
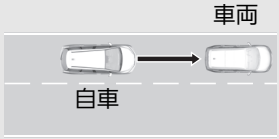
▶ ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

EPS 警告灯が点灯しているときは、ステアリング振動による警告は作動しません。
➡ **警告灯** P.62

■ CMBS 作動の流れ

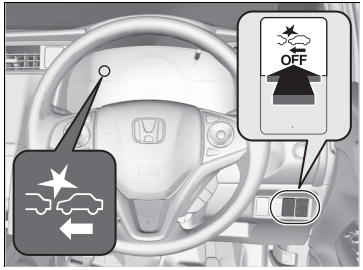
CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ステアリング	ブレーキ
第 1 段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が 2 回点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ➡ **カスタマイズ機能** P.107	対向車の場合、ハンドルに短時間の弱い振動が発生	—
第 2 段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	—	軽い ブレーキ
第 3 段階		回避が困難な状況			強い ブレーキ

※：CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

次ページに続く

■ CMBS の ON と OFF



CMBS OFF スイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムのONとOFFを切り換えます。

CMBS がOFFに切り換わったときCMBS警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CMBS OFF」とメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でエンジンスイッチを 0 ※1 にした場合でも、再度エンジンスイッチを II ※1 にすると自動的に ON になります。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- カメラの温度が高温になっているとき
- フロントグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者や路面状況を検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントグリルが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シールなどでカメラ前方が覆われているとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水溜りや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両や歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■前方の車両や対向車、歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 自車の前方に対向車や歩行者が飛び出したとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 暗がりで前方の車両が無灯火のとき

■その他、作動できない事例

- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両や対向車、歩行者に接近したとき
- 前方の車両や対向車、歩行者が自車の正面にいないとき
- 前方の車両や歩行者との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき
- 交差点などで自車の前方に車両が飛び出したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

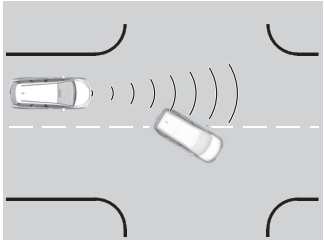
サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

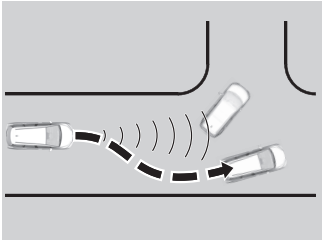
■衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

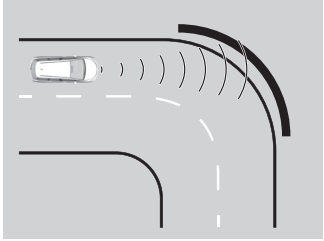
- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき



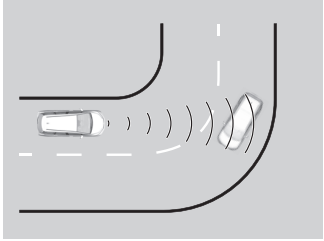
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 交差点などで車両に接近して走行する場合



- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき



- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき

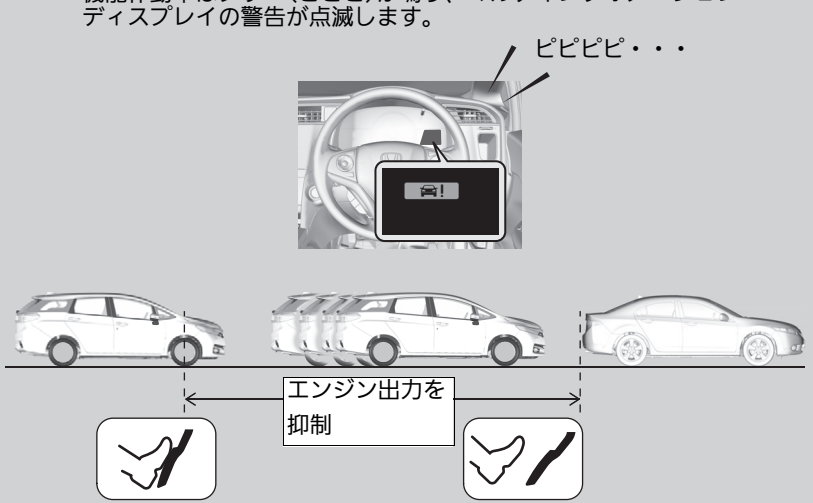


- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

誤発進抑制機能

フロントグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラによって、停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面の近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。
なお、急な坂道やシフトポジションが P、R、N のときは、作動しません。

作動状態



誤発進抑制機能

⚠警告

誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者がセレクトレバーやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.273

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.271

■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- CMBS を OFF にしたとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき

誤発進抑制機能

誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合には CMBS を OFF にしてください。

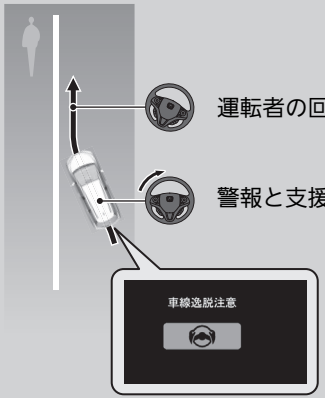
踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

歩行者事故低減ステアリング

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

■システムの作動

カメラが車線を認識し、レーダーとカメラにより歩行者を検出します



路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。車両と歩行者の位置関係によってはCMBS の作動が優先される場合があります。

⇒歩行者事故低減ステアリング

⚠警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.273

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.271

■システムの作動条件

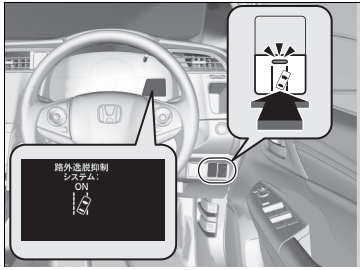
歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

- 歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- 実線の白線（黄線）が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ワイパーを連続で作動させているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出しているとき

■システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。
路外逸脱抑制スイッチを押して、歩行者事故低減ステアリングの ON と OFF を切り替えてください。

▶ ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムの作動条件

運転者による操作が行われているときには支援が感じられないことがあります。

システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用し、路外逸脱抑制機能の設定をカスタマイズすることができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

➡ **カスタマイズ機能** P.107

次ページに続く

■歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線（黄線）のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線（黄線）が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線（黄線）や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

次ページに続く

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- カーゴスペースや、リヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- フロントグリルが汚れているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

■歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

- 急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

ACC(アダプティブクルーズコントロール)

ACCは、フロントグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。
ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

ACC を作動させるには：

ACC システムは、セレクトレバーがD、Sのときに使用することができます。

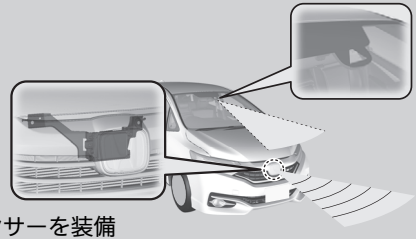
次ページに続く

ACC(アダプティブクルーズコントロール)

⚠警告

ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

■使用できるシフトポジション
D S のとき



ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、ACC は作動しません。
悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

ACC（アダプティブクルーズコントロール）

⚠警告

ACC は、補助システムとして使用してください。ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

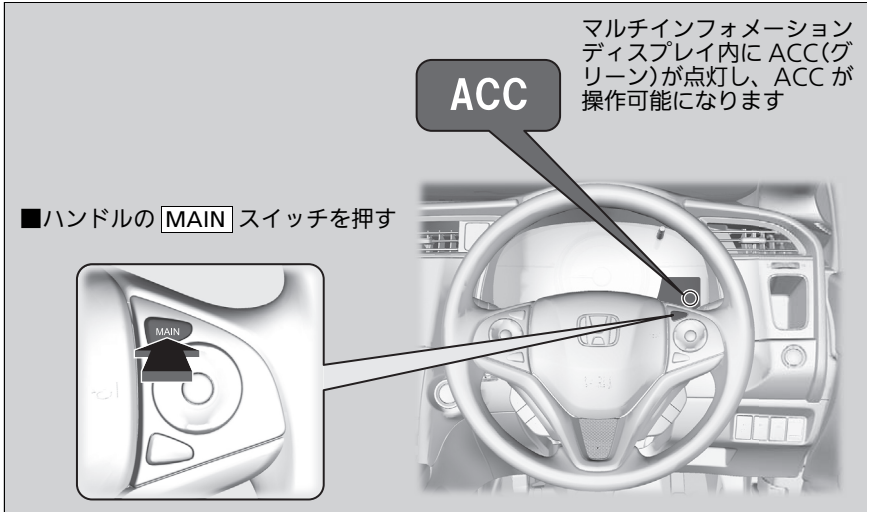
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.271

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.273

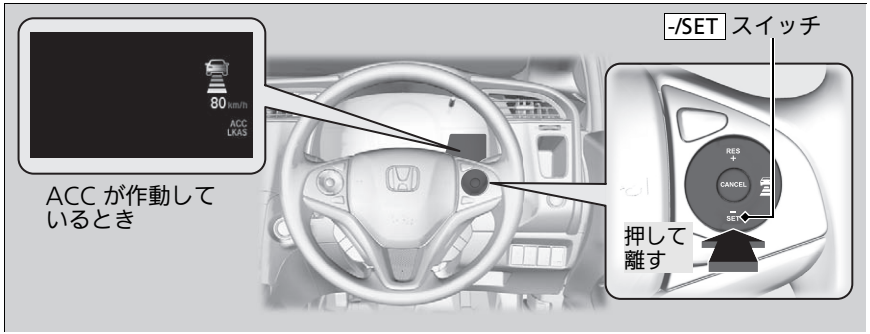
使用上の注意：
ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

■システムを作動させるには



次ページに続く

■車速をセットするには



車速が 30km/h 以上でブレーキペダルを操作していないときに -/SET スイッチを押して離すと現在の車速が設定車速とされ、ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。

車速をセットするには

MAIN スイッチを押すと、ACC と LKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

下記の状況のときは、ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

■ ACC の作動

■先行車がいるとき

ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。

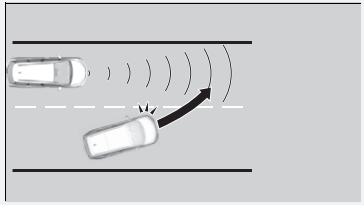
マルチインフォメーションディスプレイに車のアイコンが表示されます

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

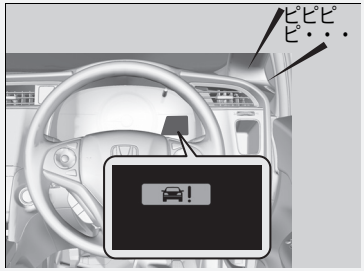
次ページに続く

ACC の作動

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

マルチインフォメーションディスプレイを使って先行車検知音の有り / 無しを設定できます。
➡ **カスタマイズ機能** P.107

■先行車がいないとき

マルチインフォメーションディスプレイに車のアイコンが点線で表示されます。

先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速したあと定速走行します。

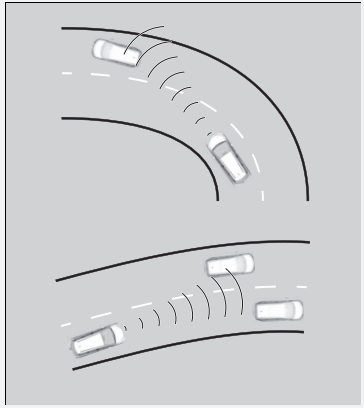
■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

ACC の作動

制限：
安全な車間距離を保つために、ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などによりACC が適切に作動しないことがあります。
ACC の条件と制限 P.235
車間距離を設定するには P.239

- 道路状況（カーブなど）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置）によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■ ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、ACC 警告灯が点灯する場合があります。
以下の条件では ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.271

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- フロントグリルが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

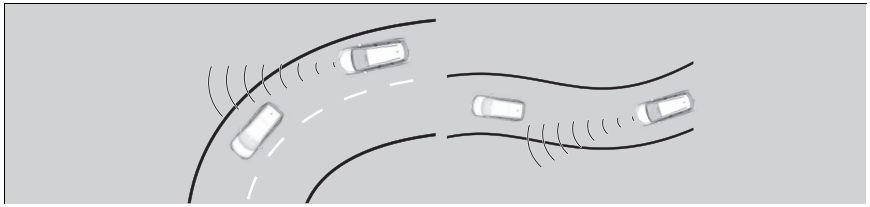
■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

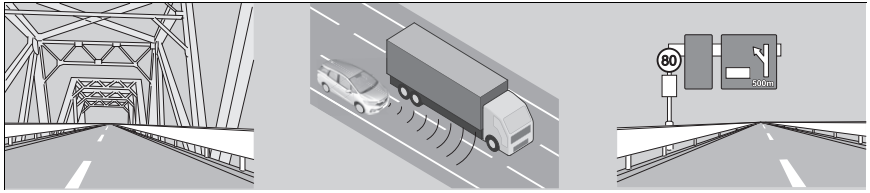
次ページに続く

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

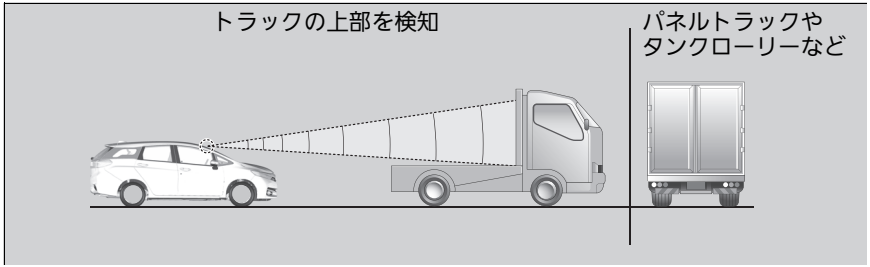


■前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

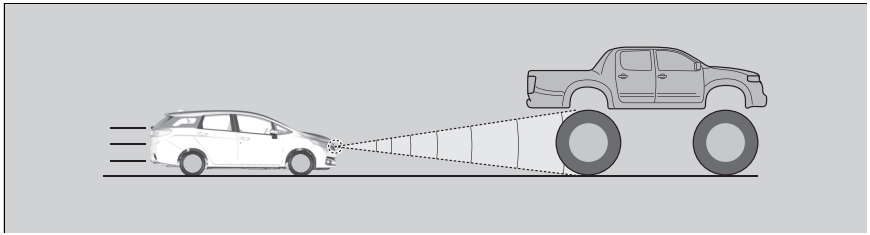
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき



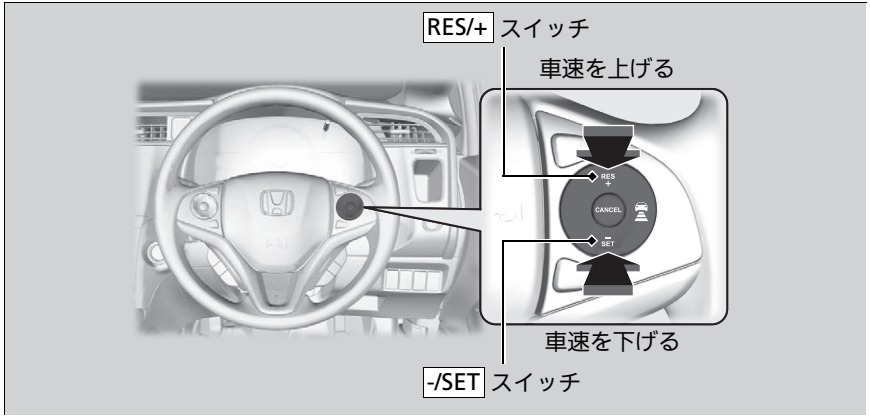
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



次ページに続く

■設定車速を調整するには

手元の RES/+ スイッチと -/SET スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げることができます。



RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

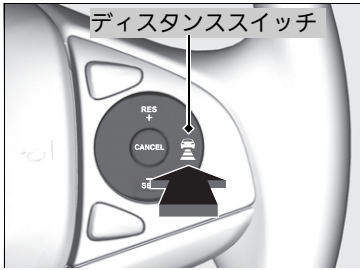
-/SET スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

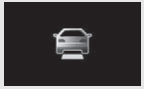
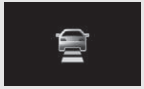
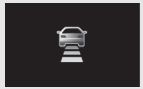
■車間距離を設定するには



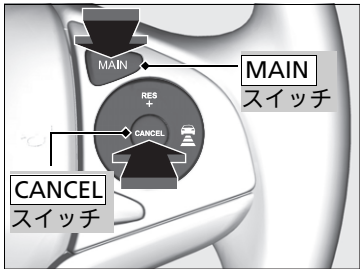
ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

次ページに続く

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 33m	約 40m
長		約 47m	約 59m
最長		約 65m	約 83m

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、ACC が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
- MAIN スイッチを押す
  ▶ マルチインフォメーションディスプレイ内の ACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む

■ACC の自動解除

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC OFF」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、ACC が自動解除されます。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- フロントグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 車速が 25km/h 未満になったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- エンジンスイッチを 0 ※1 にしたとき

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

ACC を解除したあとでも、 RES/+ スイッチを押すと解除前の設定で作動を開始することができます。
ただし、以下の場合は復帰しません。

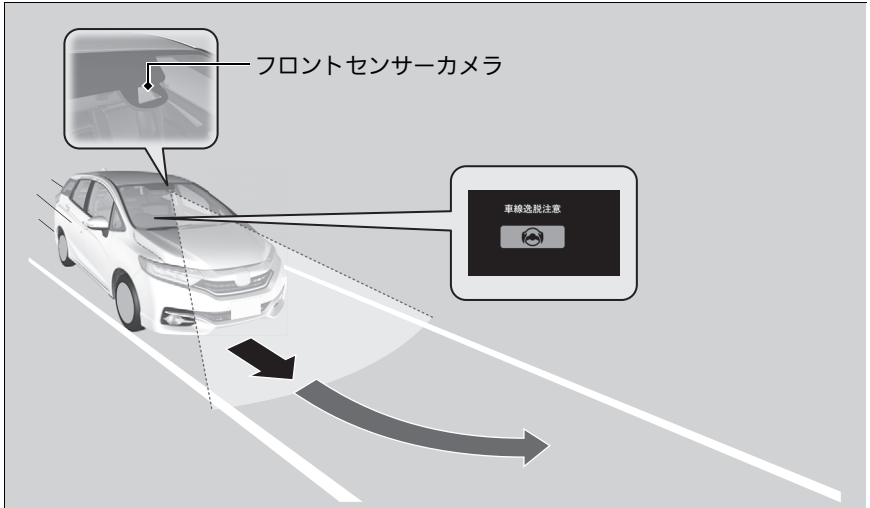
- MAIN スイッチを押して ACC を OFF した後
- 30km/h 未満のとき

設定速度の設定や復帰は、 MAIN スイッチがオフの状態ではできません。

LKAS（車線維持支援システム）

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線（黄線）をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



車線変更する場合は、方向指示器（ウィンカー）を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線（黄線）を検知すると、LKAS が復帰します。ウィンカーを出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

LKAS（車線維持支援システム）

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

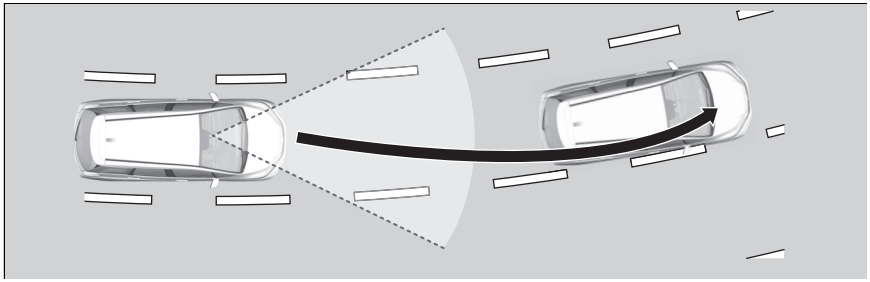
インストルメントパネル上部に物を置かないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

LKAS は方向指示器（ウィンカー）を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

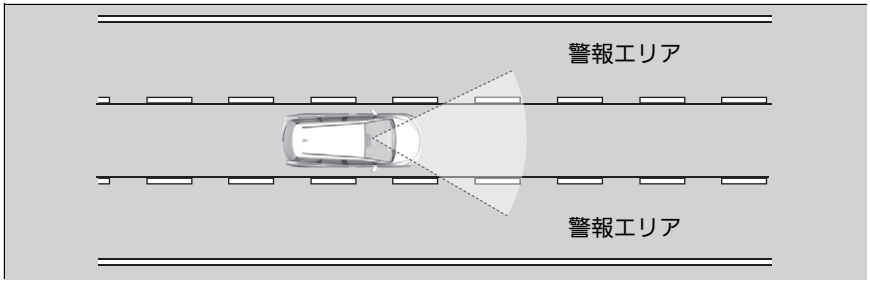
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動とディスプレイ表示で行います。



次ページに続く

LKAS(車線維持支援システム)

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントセンサーカメラ** P.271

LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

➡ **LKAS の条件と制限** P.249

車線の検知に失敗すると一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■ LKAS を作動させるには

LKAS システムは、以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 100km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを連続で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

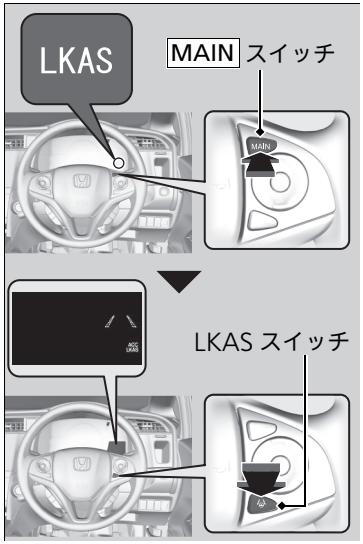
LKAS を作動させるには

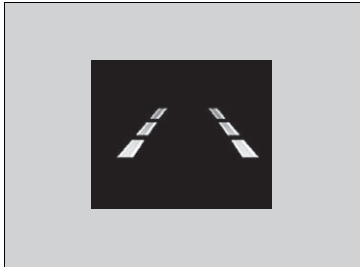
システムが作動しているときに、左右の白線（黄線）に偏る場合は、システムを停止し指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

白線（黄線）を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

LKAS の条件と制限 P.249

■システムの作動方法





1. MAIN スイッチを押す

▶ LKAS システムが ON になり、マルチインフォメーションディスプレイ内に LKAS 表示灯（グリーン）が点灯します。

2. LKAS スイッチを押す

▶ LKAS システムが待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイに車線表示（点線）が点灯します。

3. 車線の中央付近を走行する

▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知すると、LKAS が制御を開始します。

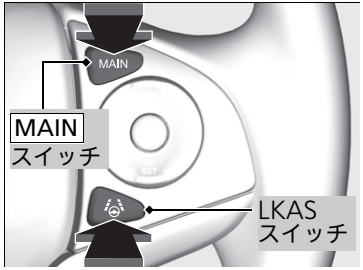
LKAS を作動させるには

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

次ページに続く

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。

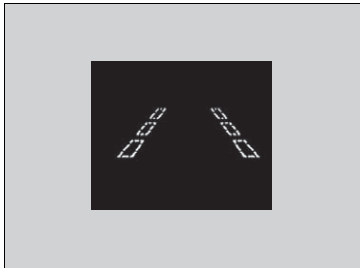
- MAIN スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時に LKAS が ON 状態でも、エンジンスイッチを 0 ※1 にする度に LKAS は OFF になります。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

解除するには

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に ACC も解除されます。



■LKAS の一時解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKAS が自動解除されます。

- ワイパーを連続作動したとき
  ▶ ワイパーを OFF にすると、LKAS は復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
  ▶ 減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知すると LKAS が自動で復帰します。
- 車速が 60km/h 以下になったとき
  ▶ 車速が60km/h以下になると、LKASは自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

次ページに続く

■LKAS が自動的に一時解除されるとき

- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき

これらの条件が長く続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

LKAS の一時解除

マルチインフォメーションディスプレイを使って自動解除ブザーの有り / 無しを設定できます。

カスタマイズ機能 P.107

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）

次ページに続く

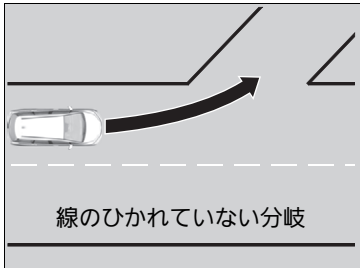
■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線（黄線）のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線（黄線）が道路にあるとき

- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき

- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

- 分岐・合流路などを走行するとき



次ページに続く

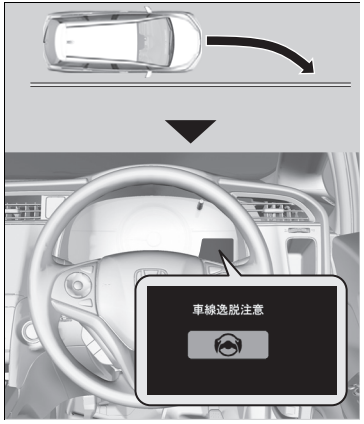
■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

■システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄線を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。
マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。
また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。
ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。

次ページに続く

≫路外逸脱抑制機能

⚠警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱を検知したときに警告します。
車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また、天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **フロントセンサーカメラ** P.271

システムの支援中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。
支援中に運転者が操作しなかった場合は左記の警告を表示します。

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。

路外逸脱抑制機能の条件と制限 P.257

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

繰り返し左記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り支援を中断します。

カスタマイズ機能で「アシストタイミング早め」を選択し、LKAS（車線維持支援システム）を作動させていない場合、車線逸脱の可能性を検知すると以下のメッセージが表示されます。

カスタマイズ機能 P.107

■システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 100km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を使用していないとき
- ワイパーが連続で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、路外逸脱抑制機能警告灯が点灯する場合があります。

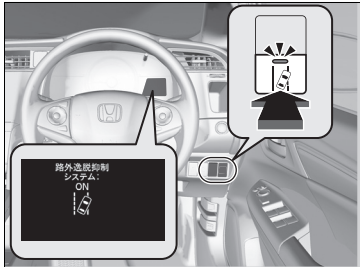
➔ **警告灯** P.62

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

次ページに続く

■システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り替えてください。

▶ システムが ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用してシステムの設定をカスタマイズすることができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、システムはハンドルおよびブレーキ制御を行いません。

➡ **カスタマイズ機能** P.107

■路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)

次ページに続く

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

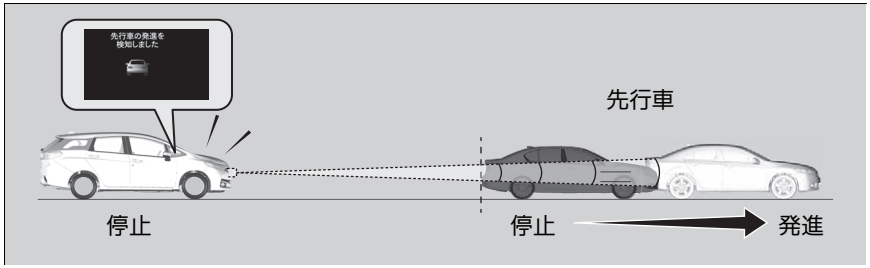
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線（黄線）のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線（黄線）が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- カメラ温度が高温のとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



■システムの作動条件

先行車に続いて停車（停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止）すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■セレクトレバーがD、S、Lの場合

ブレーキペダルを踏んでいる。

運転

≫先行車発進お知らせ機能

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.273

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.271

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

■セレクトレバーがNの場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動している。

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。

➡ **カスタマイズ機能** P.107

標準は先行車が停止状態から約 3m 以上進んだときに作動します。
早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能をOFFにすることができます。

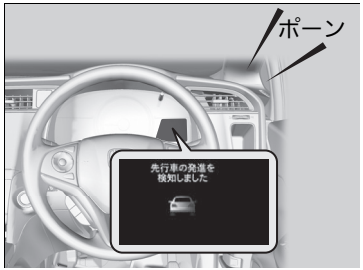
➡ **カスタマイズ機能** P.107

ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

➡ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.229

次ページに続く

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントグリルが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

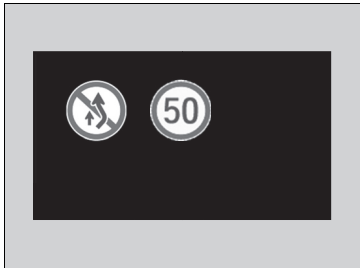
標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の 4 つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

■作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに道路標識情報を表示します。



標識認識機能

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **フロントセンサーカメラ** P.271

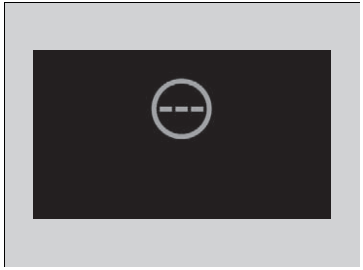
標識認識機能は以下の条件で作動します。
- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り替わります。
- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。
- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離（数百～千数百 m）を走行したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器（ウィンカー）を出しながら右左折したとき

次ページに続く

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



標識認識機能

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラが高温です」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。窓ガラスが曇った場合、必要に応じて、デフロスターを使用してください
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　フロントウインドウが汚れています」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。
安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

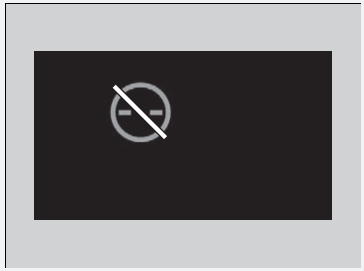
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

標識認識機能

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。
のメッセージが消えないときは、Honda販売店で点検を受けてください。



次ページに続く

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
（最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い値を表示したりすることがあります。）

- 標識の上や下に、規制の地点（始まり、終りなど）や条件（曜日、時間帯など）を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識（電光式標識、数字がかすれた標識など）
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合（側道が本線に合流する地点の一時停止標識など）
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）

次ページに続く

■マルチインフォメーションディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。ディスプレイの右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例

常駐表示モードのときの表示例

左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

マルチインフォメーションディスプレイの表示

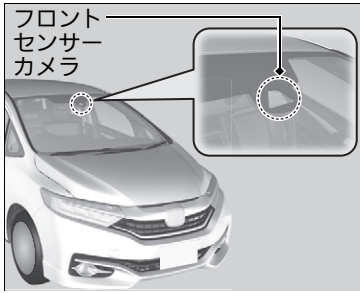
車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

マルチインフォメーションディスプレイは、選択表示モードのほかに、常駐表示モードの選択ができます。
➔ **カスタマイズ機能** P.107

常駐表示モードの道路標識表示

常駐表示モード状態のときは、マルチインフォメーションディスプレイに縮小サイズの道路標識のアイコンを表示し続けることができます。
➔ **カスタマイズ機能** P.107

フロントセンサーカメラ



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。

フロントセンサーカメラ

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合はHonda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。
➡ **車内の清掃** P.313

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。
物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合は Honda 販売店にご相談ください。
- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターモードを使用してください。

次ページに続く

フロントセンサーカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

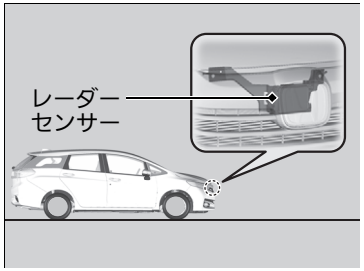
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラが高温です」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターモードを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　フロントウインドウが汚れています」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

レーダーセンサー



レーダーセンサーはフロントグリル内に設置されています。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

レーダーセンサー

フロントグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントグリルは常にきれいにしておく
- フロントグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントグリルを塗装したりステッカーを貼らない
- フロントグリルを交換しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントグリル周辺の修理を行うとき

以下のときは、レーダーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

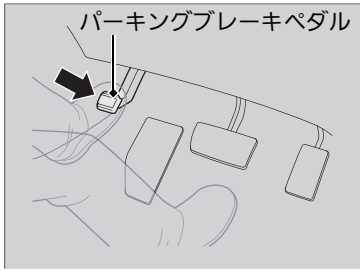
- フロントグリルが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

エンジンスイッチを II ※1 にするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにエンジンスイッチを II ※1 にすると、各機能が作動しない場合があります。

ブレーキシステム

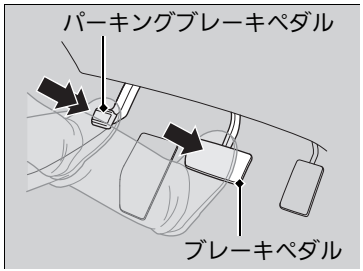
■パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキペダルにより操作します。



■パーキングブレーキをかける

左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込む。



■パーキングブレーキを解除する

1. 右足でブレーキペダルを踏む。
2. 左足でパーキングブレーキペダルを踏み、ゆっくりと戻す。

パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイ✤ に「パーキングブレーキを解除して下さい」と表示が出ます。

完全に解除すると、ブザーは止まります。
停車したときも、ブザーは止まります。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。
緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

➡ **電子制御ブレーキアシスト** P.277

また、ブレーキのロックを防止する ABS（アンチロックブレーキシステム）で、安全性の向上を図っています。

➡ **ABS（アンチロックブレーキシステム）** P.276

フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。
アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

■ ABS とは

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
なお、低速（車速約 10km/h 以下）では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。

ABS 警告灯
エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。
通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。
ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。
- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

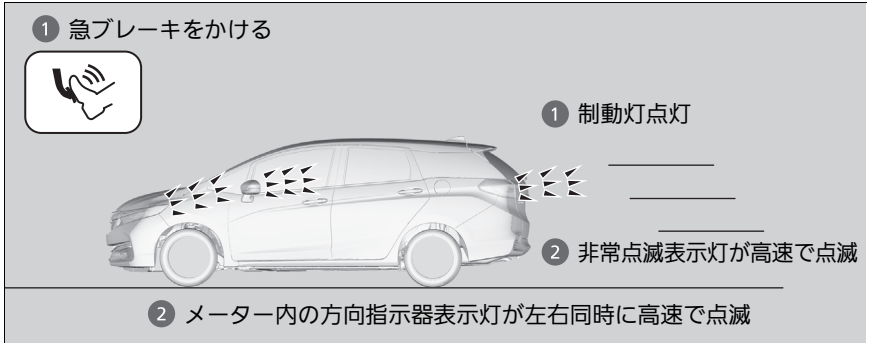
ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➡ VSA（ビークルスタビリティアシスト） P.212

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動の仕組み



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
3. シフトポジションをPにする。
4. エンジンを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

次ページに続く

駐停車操作

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、セレクトレバーがP N以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂でP N以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

仮眠するときは、エンジンを停止してください。
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

≫駐車する

⚠注意

駐車時はエンジンを止める。
万一、セレクトレバーがP N以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

指定燃料について

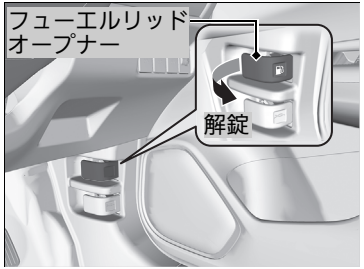
■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

40 リットル

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席足元にあるフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。

次ページに続く

指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。
- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

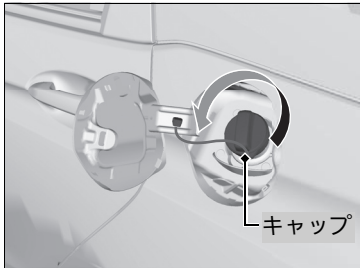
プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

給油のしかた

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。
- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

給油のしかた

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

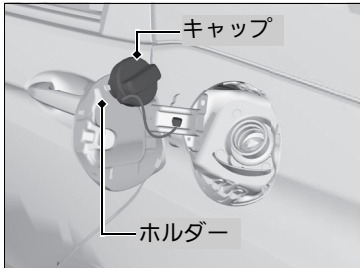
⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。



5. キャップをホルダーにかける。

6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。

▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

7. 給油後、「カチッ」という音が１回以上するまでキャップを締め付ける。

▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

メンテナンスの前に
点検整備について 285
メンテナンスを安全に行うために 286
メンテナンスに関する注意事項..... 287
エンジンルーム内のメンテナンス
エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 288
ボンネットを開ける..... 289
推奨エンジンオイル..... 290
ウィンドウォッシャー液の補給..... 291
電球の交換..... 292
ワイパーブレードラバーの点検と整備 298
タイヤの点検と整備
タイヤの点検 302
タイヤとホイールの交換 306
タイヤのローテーション 307
冬期のタイヤ 308
キーレスエントリー✤/Honda スマートキー✤
キーレスエントリー一体キー/Honda スマートキーの取り扱いと電池交換 309
エアコンのお手入れ
エアクリーンフィルター 311
清掃
車内の清掃 313
車外の清掃 315
アクセサリーと改造 318

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
  ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指示されたとき以外は、エンジンをかけないでください。
  ▶ アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

メンテナンスを安全に行うために

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

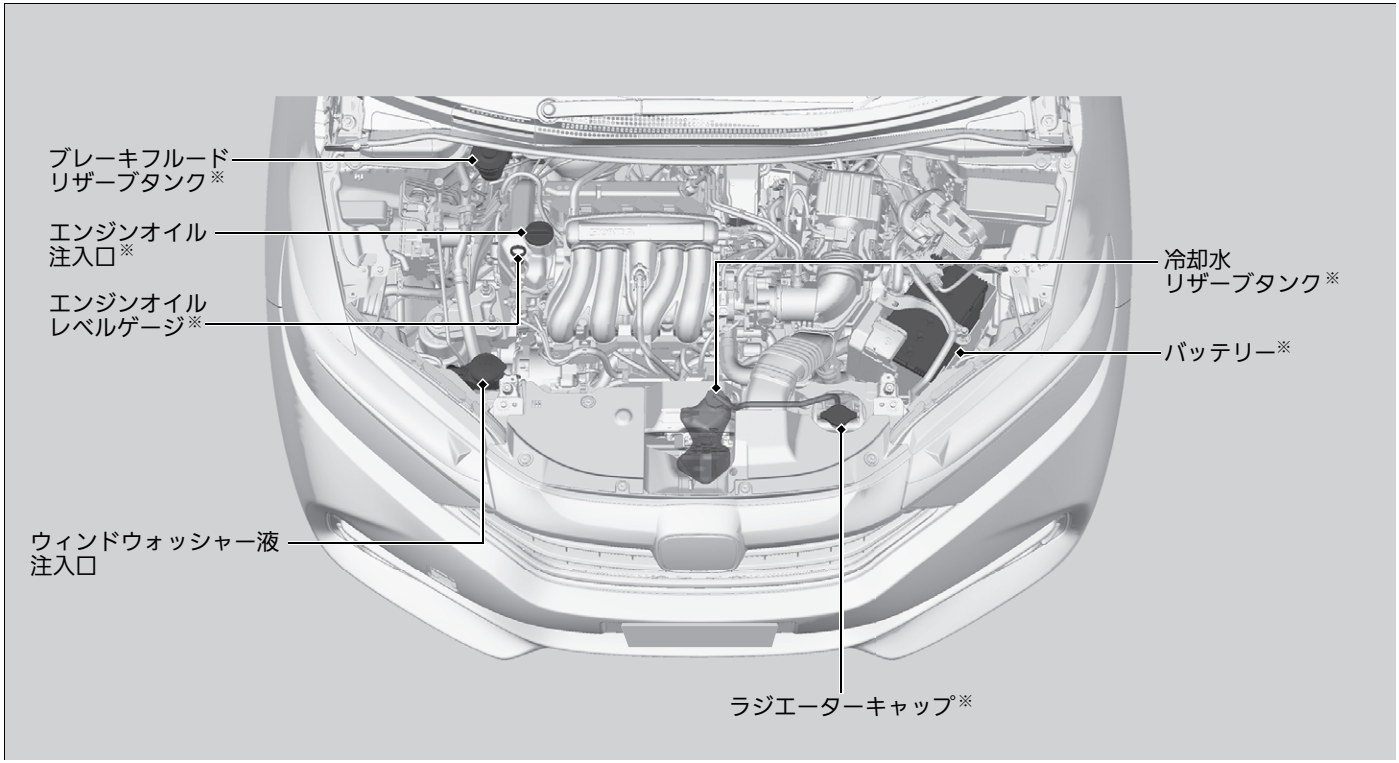
メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

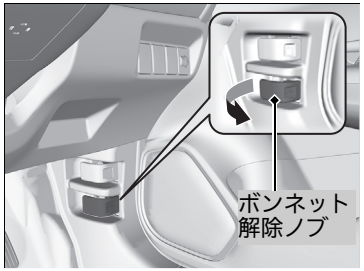
メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

エンジンルーム内のメンテナンス項目



※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

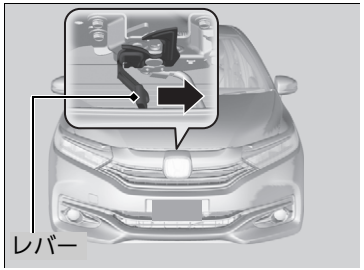
ボンネットを開ける



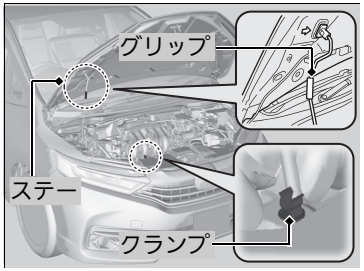
1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。

2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。

▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cm の高さから手を離します。

≫ボンネットを開ける

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

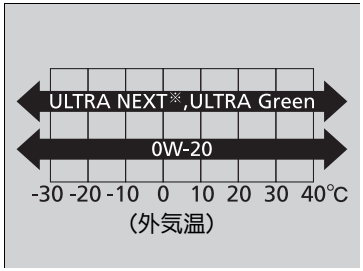
ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

推奨エンジンオイル

推奨エンジンオイル：
Honda 純正エンジンオイル
➡ Honda 純正エンジンオイル P.362
API SM もしくは SN 以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。



市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

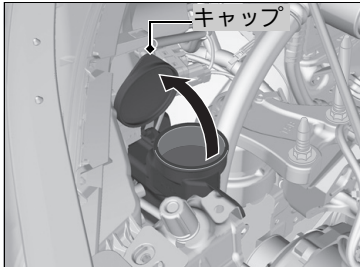
※：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください。

推奨エンジンオイル

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。
ウォッシャー液は必要に応じて水(軟水)で薄めてください。

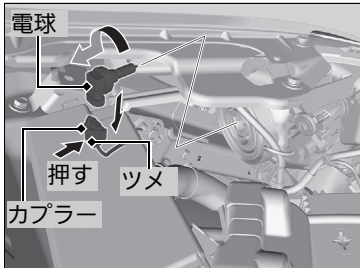
冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

■ハロゲンヘッドライト✤

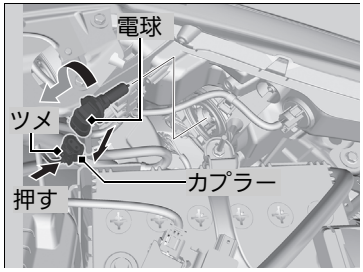
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ロービームハロゲンヘッドライト	：12V－55W
ハイビームハロゲンヘッドライト	：12V－60W



■ロービームヘッドライト

1. カプラーを外す。
   ▶ カプラーはツメを押しながら外します。
2. 古い電球を左に回して抜き取る。
3. 新しい電球を右に回して固定する。
4. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。



■ハイビームヘッドライト

1. カプラーを外す。
   ▶ カプラーはツメを押しながら外します。
2. 古い電球を左に回して抜き取る。
3. 新しい電球を右に回して固定する。
4. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

■ LED ヘッドライト✤

ヘッドライトの点検、交換は、必ず Honda 販売店に依頼してください。

ハロゲンヘッドライト✤

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

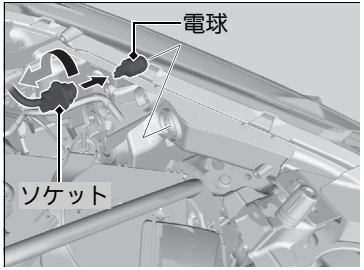
扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V－21W（橙色）



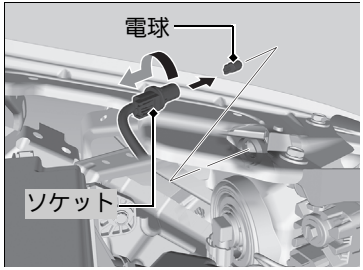
1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

車幅灯電球

電球タイプ

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

車幅灯：12V－5W



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

LED タイプ

車幅灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

フォグライト電球✤

フォグライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

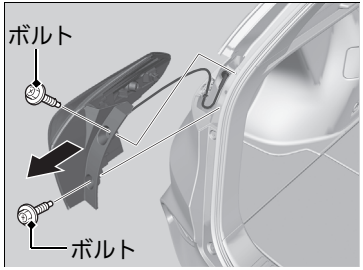
制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

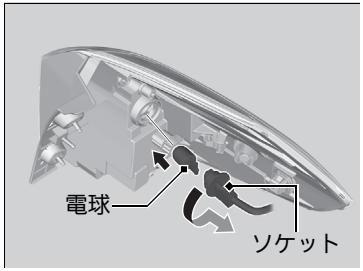
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	：12V－21W（橙色）



1. ボルトを外す。
2. ランプ本体を矢印の方向に引き抜いて取り外す。

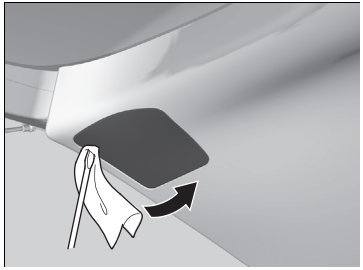


3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

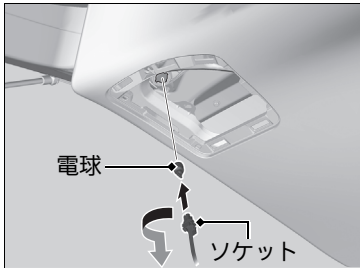
後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後退灯	：12V－16W



1. カバーの切り欠き部にマイナスドライバーの先端を差し込み、カバーを取り外す。
▶ カバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

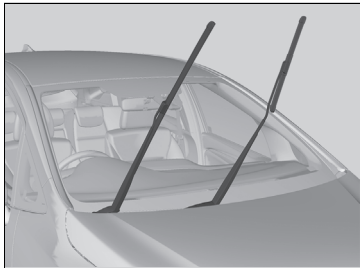
ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

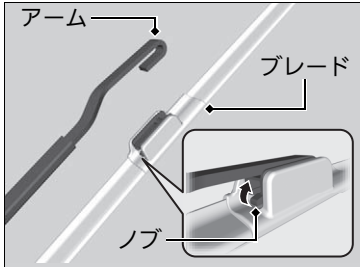
ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーブレードラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。



2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。

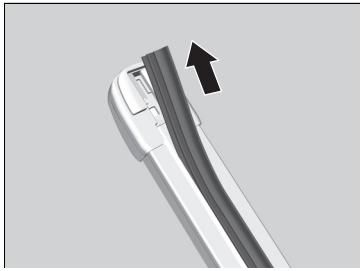
フロントワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

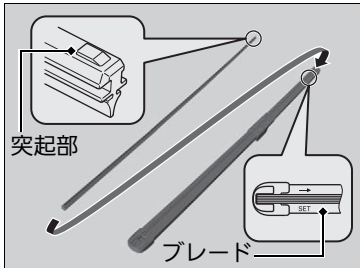
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

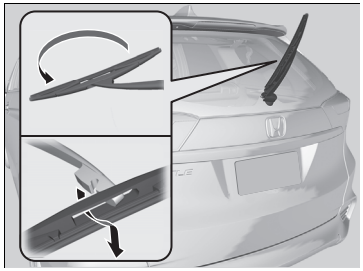


4. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
▶ ラバーの突起部がブレード先端のツメに挿入されるよう、確実に固定します。

5. ブレードをアームに取り付ける。
▶ 正しく固定されているか確認してください。

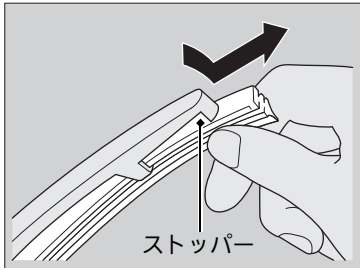
6. ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

リヤワイパーブレードラバーの交換

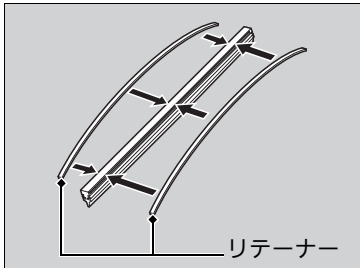


1. ワイパーアームを起こす。

2. ブレードを回転させ、アームのホルダー部からブレードを引き抜いて取り外す。



3. ラバーの先端部をブレードのストッパーから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

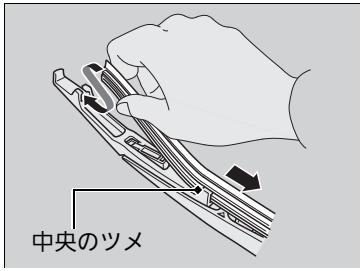


4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。

▶ リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。

リヤワイパーブレードラバーの交換

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



5. ブレード中央部のツメからラバーを挿入し、ブレード両端のツメにラバーを通す。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

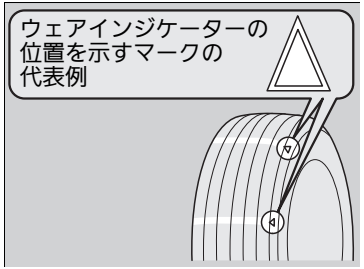
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➡ **資料** P.362

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

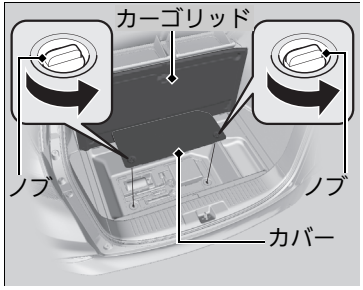
タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

次ページに続く

■ホイールカバー✤ の脱着方法



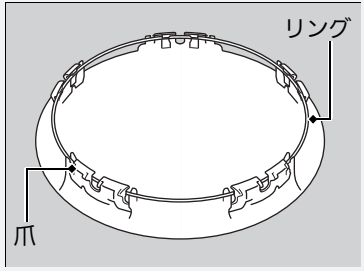
1. カーゴリッドを開け、ノブを左に回してカバーをあける。
2. カーゴボックスから工具を取り出す。

≫ホイールカバー✤ の脱着方法

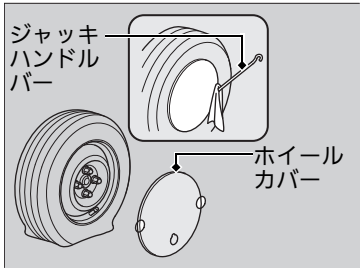
⚠注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

ホイールカバーを取り付ける前に、裏面の爪がリングに正しく組み付いていることを確認してください。
正しく組み付いていないとホイールカバーが外れる原因となります。また、爪が折れているときはホイールカバーを取り付けないでください。



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

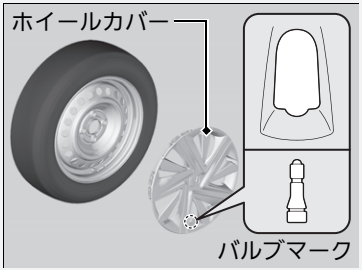


3. ジャッキハンドルバーの先を切り欠き溝に差し込み、タイヤ側にこじってホイールカバーを外す。

▶ ホイールカバーが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーに布などを巻き付けてください。

▶ 場所を変えて 2、3 カ所繰り返すと楽に外れます。

ホイールカバー✤ の脱着方法



ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールにあるタイヤバルブの位置にホイールカバーのバルブマークを合わせてから取り付けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4 つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

タイヤとホイールの交換

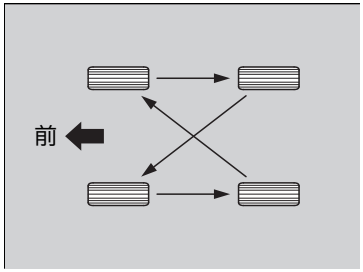
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

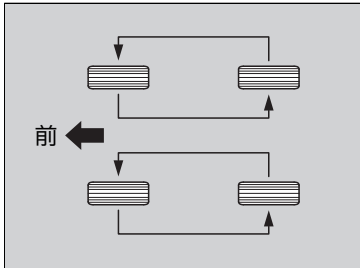
5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

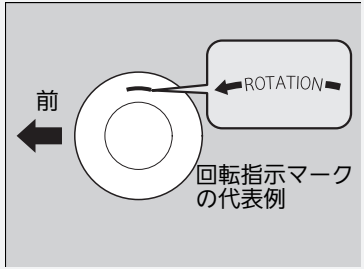
■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク
108 N・m（11 kgf・m）

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：
- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：
- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。
なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

キーレスエントリー一体キー/Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■取り扱いについて

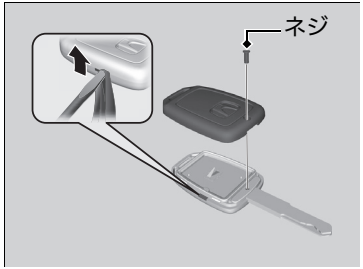
キーレスエントリー一体キー/Hondaスマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信機を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

■キーレスエントリー一体キー✤



ボタン電池 CR1620

1. 発信機下部のネジを外し、カバーを開く。
▶ カバーに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いてカバーを取り外します。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

取り扱いについて

キーレスエントリー一体キー/Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

電池交換のしかた

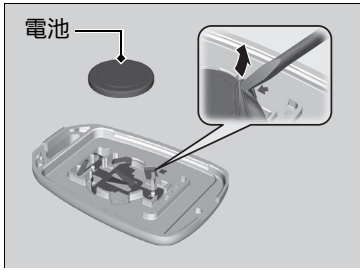
⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

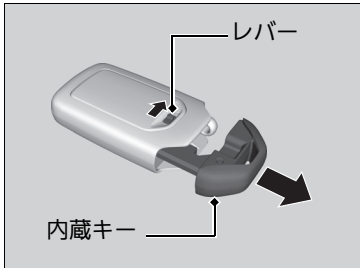
電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。



2. 電池を取り外す。
▶ ケースに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いて電池を取り外します。

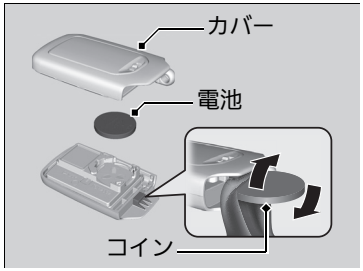
3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。
▶ 交換後、もとのように組み立て、ネジをしっかり締めてください。

■Honda スマートキー*



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。



2. カバーを外す。
▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エアクリーンフィルター

■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。
粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

エアクリーンフィルター

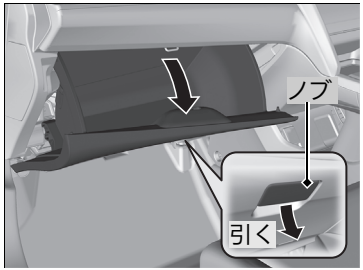
芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

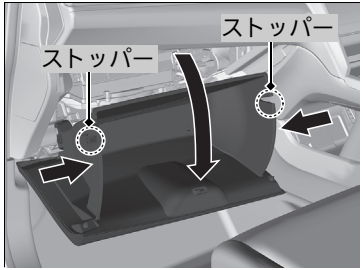
アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。

次ページに続く

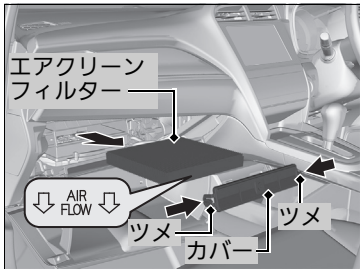
■エアクリーンフィルターの交換



1. グローブボックスを開ける。



2. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。



3. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。

4. エアクリーンフィルターを引き出す。

5. 新品と交換する。

▶「AIR　FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。
ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

次ページに続く

≫車内の清掃

室内に水をかけないでください。
オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■スーパーUV カット✤/IR カット✤ ドアガラスのお手入れ

前席ウィンドー（ドアガラス）の車内側に UV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。

傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

スーパーUV カット /IR カットドアガラス装備車

UVカット膜やIRカット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉（コンパウンド）入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

ACC（アダプティブクルーズコントロール）装備車

フロントセンサーカメラのカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

➡ **フロントセンサーカメラ** P.271

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■自動洗車機を使うとき

- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する
- ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わない

■高圧洗浄機を使うとき

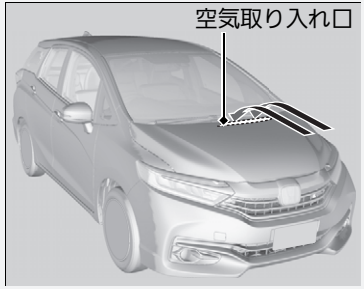
- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
  ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- エンジンルームには水をかけない

次ページに続く

車外の清掃

故意に空気取り入れ口に水をかけないでください。

故障の原因になります。



■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■はっ水ガラス✤ について

前席ウィンドー(ドアガラス)にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

ガラスのお手入れ

はっ水ガラス装備車

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霜取り等を行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■アルミホイール✤ のお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■親水ミラー✤ のお手入れ

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗浄後、十分な水で洗い流してください。
3. 5 ～ 9 時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

アルミホイール✤ のお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。
変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

親水ミラー✤ のお手入れ

アドバイス
ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。
- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグ✤の作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。
Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。
故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA
GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

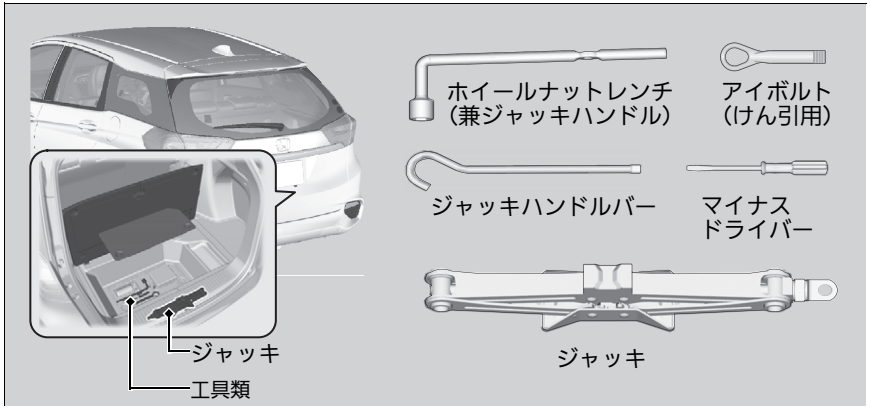
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒.....320
パンクしたとき
パンクしたタイヤの応急修理.....321
ジャッキの取り扱い
ジャッキのかけかた 332
エンジンが始動しない
エンジンの状態の確認.....334
Honda スマートキーの電池が切れたとき...335
緊急時のエンジン停止方法 336
ジャンプスタート..... 337
セレクトレバーが動かない 339
オーバーヒート 340
警告灯の点灯 / 点滅 342
ヒューズ
ヒューズの設置場所 346
ヒューズの点検と交換..... 355
けん引..... 356
テールゲートが開かないとき..... 359

工具の種類



発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➔ **発炎筒** P.2

工具の種類

工具はカーゴスペース内に収納されています。

発炎筒

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

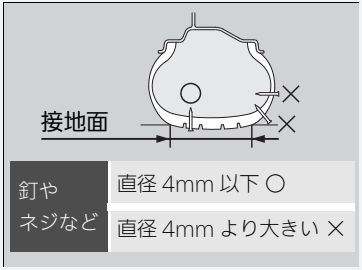
1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを P に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、エンジンスイッチを 0 ※1 にする。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

次ページに続く

パンクしたタイヤの応急修理

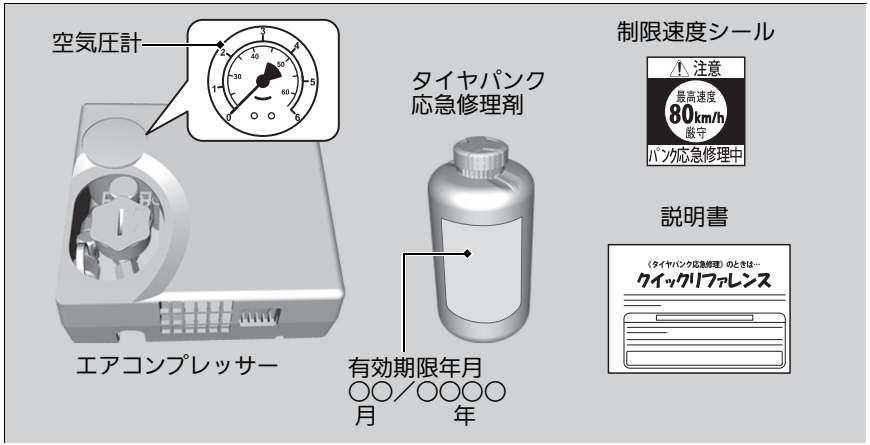
以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。
- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

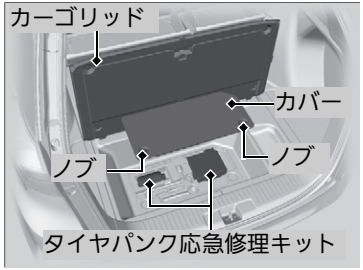


- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■タイヤ応急修理の準備



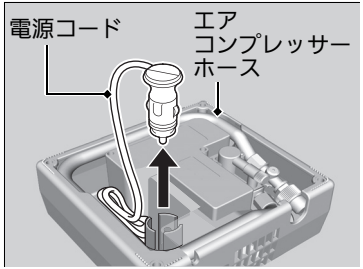


1. カーゴリッドをあけ、ノブを左に回してカバーを外す。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

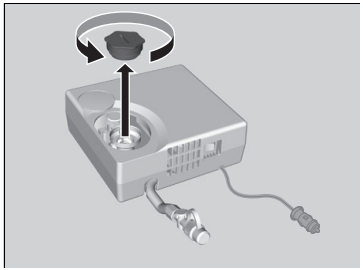
タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

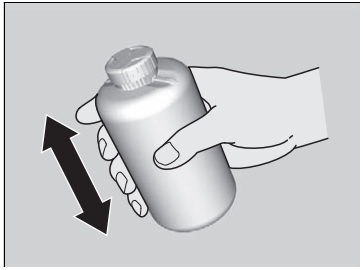
■応急修理剤とエアの注入



1. エアコンプレッサーからエアコンプレッサーホースと電源コードを取り出す。



2. エアコンプレッサーキャップを外す。



3. 応急修理剤のボトルをよく振る。

次ページに続く

≫応急修理剤とエアの注入

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

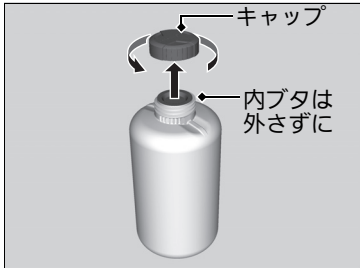
目に入ったり皮膚に付いた場合

- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

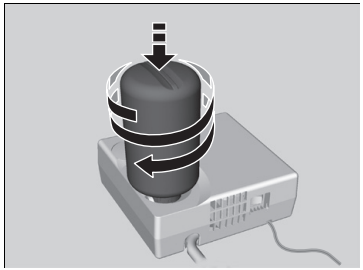
お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

外気温が氷点下以下のときは応急修理剤は容易に流れないかもしれません。車内で温めると流れやすくなります。

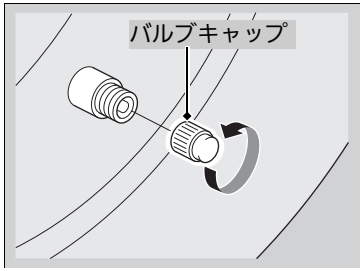
応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。



4. 応急修理剤のキャップを外す。
▶ 内ブタは取り外さないでください。



5. 応急修理剤の内ブタを付けたままの状態で、ボトルをエアコンプレッサーにねじ込む。
▶ ボトルがゆるまないようしっかりねじ込んでください。

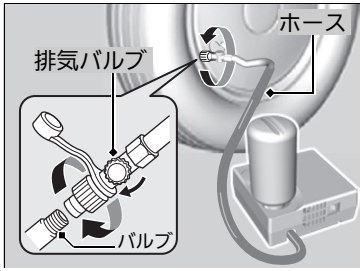


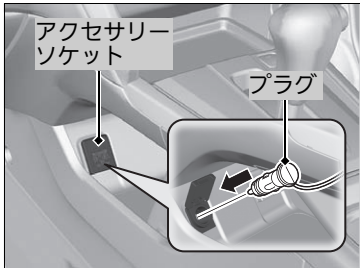
6. バルブからバルブキャップを取り外す。

応急修理剤とエアの注入

注入が終わった空ボトルはエアコンプレッサーから取り外さないでください。

ボトルは取り外さずに、Honda 販売店か専門修理工場までお持ちください。





7. エアコンプレッサーホースをバルブにねじ込む。

▶ 排気バルブが閉まっていること、エアコンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認してください。

8. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

➡ **アクセサリーソケット** P.181

9. エンジンを始動する。

➡ **一酸化炭素について** P.60

応急修理剤とエアの注入

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

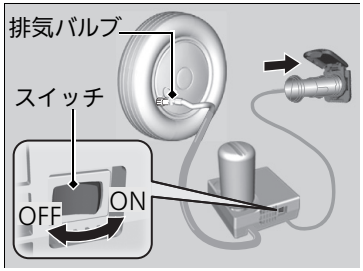
降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

次ページに続く



10. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。
指定空気圧：

2WD 車

前輪：230kPa（2.3kgf/cm²）
後輪：220kPa（2.2kgf/cm²）

4WD 車

前輪：220kPa（2.2kgf/cm²）
後輪：220kPa（2.2kgf/cm²）

11. エアコンプレッサーの電源をOFFにする。
▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。応急修理剤のふきこぼれに注意してください。

12. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。

13. エアコンプレッサーホースを取り外し、ホースキャップを取り付ける。
▶ エアコンプレッサーホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。
ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。

14. タイヤパンク応急修理キットをカーゴスペースに格納する。
▶ ボトルはエアコンプレッサーから外さないでください。

応急修理剤とエアの注入

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。
Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

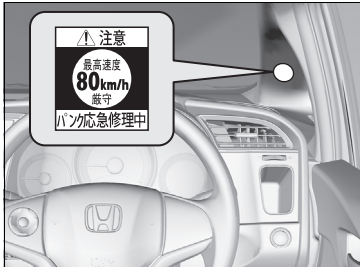
タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

■点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
   ▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80 km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5 km走行したあと安全な場所に車を停める。

次ページに続く

点検走行

⚠警告

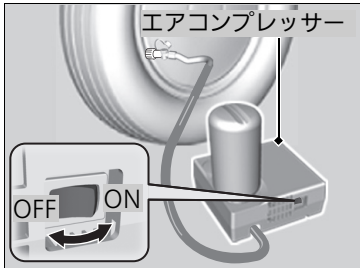
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。



4. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。

▶ エアコンプレッサーの電源をONにしないでください。

- 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)未満の場合：
  応急修理剤では修理はできません。
  運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
- 空気圧が指定空気圧の場合、応急修理は完了です。
  指定空気圧：
  2WD 車
  前輪：230 kPa (2.3 kgf/cm²)
  後輪：220 kPa (2.2 kgf/cm²)
  4WD 車
  前輪：220 kPa(2.2 kgf/cm²)
  後輪：220 kPa (2.2 kgf/cm²)

点検走行

走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

- 空気圧が 130 kPa（1.3 kgf/cm²）以上、指定空気圧以下の場合はエアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高めてください。
  指定空気圧：
  2WD 車
  前輪：230 kPa（2.3 kgf/cm²）
  後輪：220 kPa（2.2 kgf/cm²）
  4WD 車
  前輪：220 kPa（2.2 kgf/cm²）
  後輪：220 kPa（2.2 kgf/cm²）
  Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 4 までを繰り返す。

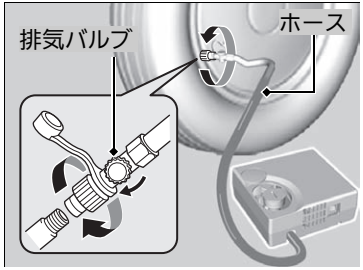
▶ 高速道路では 80 km/h 以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

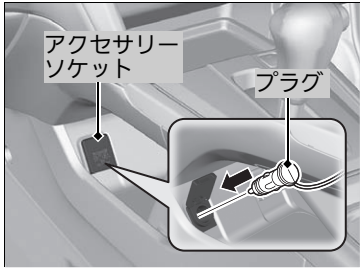
5. エアコンプレッサーなどをカーゴスペースに収納する。

次ページに続く

■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。





1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付ける。
   ▶ 排気バルブが閉まっていることを確認してください。
5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
   ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
   ➡ **アクセサリーソケット** P.181
6. エンジンを始動する。
   ➡ **一酸化炭素について** P.60

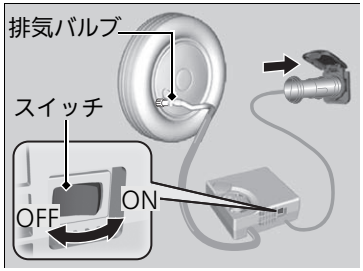
タイヤ空気圧の補充

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。



7. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。
指定空気圧：

2WD 車

前輪：230 kPa（2.3 kgf/cm²）
後輪：220 kPa（2.2 kgf/cm²）

4WD 車

前輪：220 kPa（2.2 kgf/cm²）
後輪：220 kPa（2.2 kgf/cm²）

8. エアコンプレッサーの電源をOFFにする。
▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。

9. エンジンを止め、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。

10. エアコンプレッサーホースを外す。

11. エアコンプレッサーをカーゴスペースに収納する。

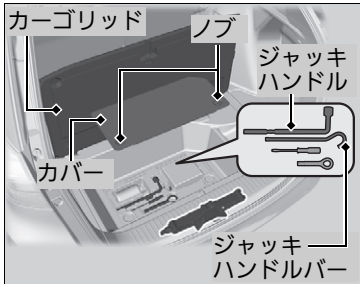
タイヤ空気圧の補充

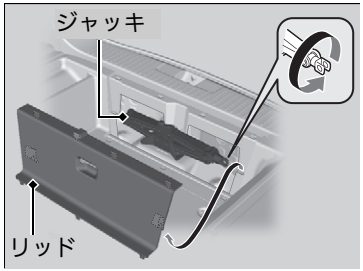
備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

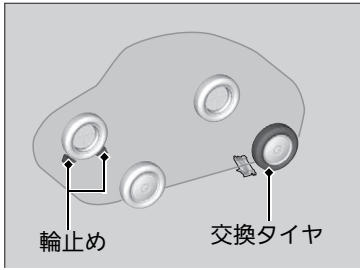
- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

ジャッキのかけかた







1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを P に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. エンジンスイッチを 0 ※1 にする。
5. カーゴリッドを開ける。
6. ノブを左に回して、カバーを外し、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。
7. リッドを引いて外す。
8. ジャッキをゆるめて外す。
9. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。
10. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

ジャッキのかけかた

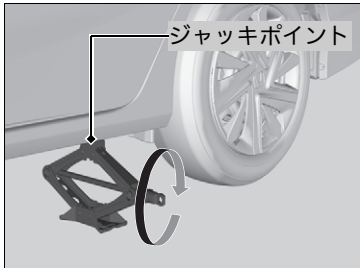
⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

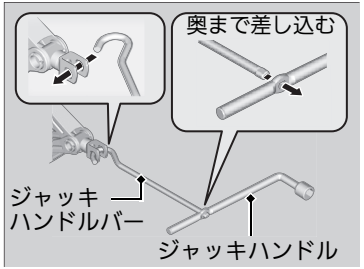
⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。
- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。
他のジャッキでは支えられる重量（呼荷重）が不足したり、形状が合わないことがあります。



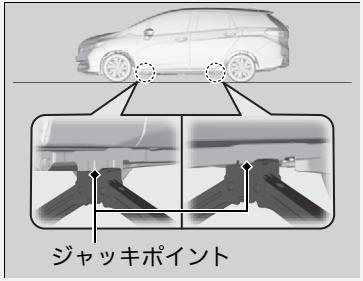
11. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



12. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

ジャッキのかけかた

ジャッキポイントは、下記の通りです。



エンジンの状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

エンジンの状態の確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。
➡ **ジャンプスタートの方法** P.337

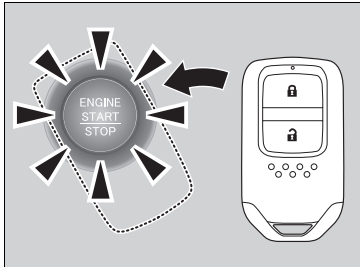
スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ **スターターの回転が非常に遅い！** バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**室内灯などの明るさを確認する** 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 • 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 • 室内灯などの明るさに問題がない場合 ➡**ヒューズの点検と交換** P.355 Honda スマートキーシステム装備車 • エンジン始動の作動範囲を確認します。 ➡ **ENGINE START/STOP スイッチ** P.146 • ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.335
スターターは正常に回るが … ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**エンジン始動の手順を実行する** もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ➡**エンジンの始動** P.198 **イモビライザーシステム表示灯を確認する** イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 ➡ **イモビライザーシステム** P.141 **燃料の量を点検する** 燃料が入っているか確認してください。 ➡**燃料計** P.100 **ヒューズを点検する** 全てのヒューズを確認してください。 ➡**ヒューズの点検と交換** P.355

以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

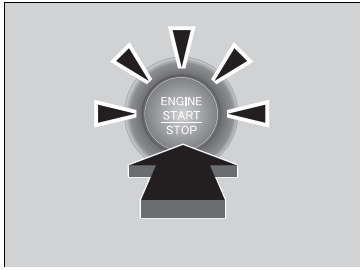
Honda スマートキーシステム装備車

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。



1. ENGINE START/STOP を押す。
   ▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、ENGINE START/STOP が約 30 秒間点滅します。
2. ENGINE START/STOP が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
   ▶「ピッ」とブザーが鳴り、ENGINE START/STOP が約 10 秒間点灯します。



3. ENGINE START/STOP が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、ENGINE START/STOP を押す。
   ▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

Honda スマートキーシステム装備車

緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP スイッチは走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止するために使用することができます。
エンジンを停止しなければならない場合は、次のいずれかを行ってください：

- ENGINE START/STOP を約 2 秒間押す
- ENGINE START/STOP を連続して 3 回押す

このときハンドルはロックしません。

エンジンが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
パワーモードを OFF にするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください：

1. シフトレバーを P に入れる
2. ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回連続して押す

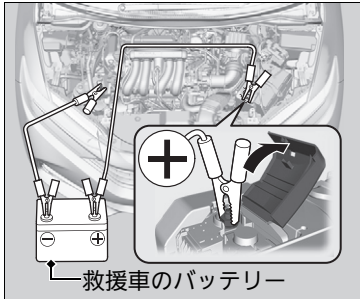
緊急時のエンジン停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に ENGINE START/STOP を押さないでください。

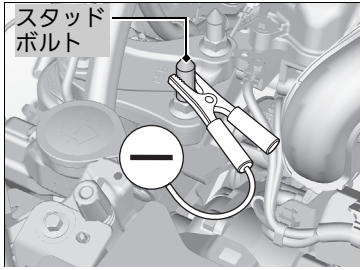
ジャンプスタートの方法

■処置のしかた

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



1. 自車と救援車のエンジンスイッチを 0 ※1 にする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
   ▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
   ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。



4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

次ページに続く

≫ジャンプスタートの方法

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車のバッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

エンジン始動後の作業

⚠警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

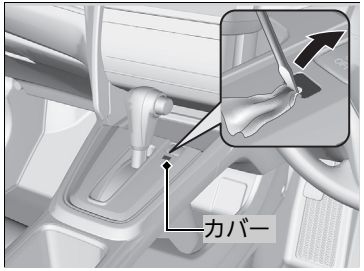
応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

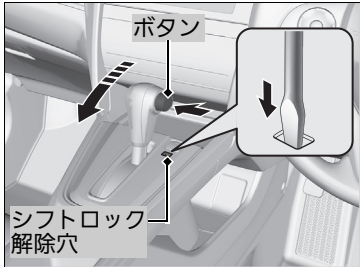
ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

セレクトレバーが、P の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ロックを解除する





1. パーキングブレーキをかける。

Honda スマートキーシステム装備車

2. パワーモードを OFF モードにする。

Honda スマートキーシステム非装備車

2. エンジンスイッチを 0 にする。

共通

3. 細いマイナスドライバーの先端に布を巻き、シフトロック解除穴のカバーを外す。

▶ マイナスドライバーの先端を、図のように切り欠きに入れて外します。

4. シフトロック解除穴にマイナスドライバーを差し込む。

5. マイナスドライバーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを N に入れる。

▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。
- 高水温警告灯（レッド）が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- マルチインフォメーションディスプレイ✤ に「エンジン冷却水高温：安全な場所に車両を停車してください」とメッセージが表示される
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
▶ セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけます。

2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
▶ **蒸気が出ていない場合：**エンジンをかけたままボンネットを開ける。
▶ **蒸気が出ている場合：**エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

≫オーバーヒートしたときの対処方法

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

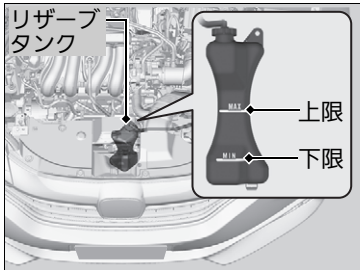
エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス
高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからエンジンを停止する。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し高水温警告灯を確認する。警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

油圧警告灯が点灯した

■点灯の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
▶ **消灯した：**運転を再開してください。
▶ **10 秒以内に消灯しない：**エンジンを停止して、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

充電警告灯が点灯した

■点灯の理由

バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

≫油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

≫充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。
エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

■点灯 / 点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

点灯したときは

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。
ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。
ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。
ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。

EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した

■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります。

■点灯したらすること

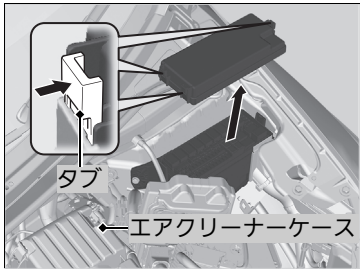
- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、エンジンスイッチを 0 ※1 にして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス



■ヒューズボックス A

エンジンルーム内の助手席側に付いているエアクリーナーケースの隣にあります。タブを押して開けてください。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

≫エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズボックス A

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

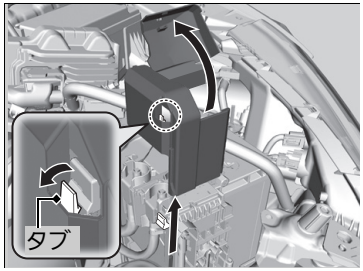
	表示	装備	容量
1		ヘッドライト	20A
2		キャパシタ✤	(30A)
3		非常点滅表示灯	10A
4		ドライブバイワイヤ	15A
5		ワイパー	(30A)
6		制動灯	10A
7		PGM-FI	15A
8		イグニッションコイル	15A
9		キャパシタ✤	(10A)
10		インジェクション	(20A)
11	―※1	―	―
	※2	DCDC コンバーター2	(30A)
12		冷却ファン	30A
13		オートスターター	(30A)
14		MG クラッチ	7.5A
15		バッテリーセンサー	(7.5A)
16	―	―	―
17	―	―	―
18		ホーン	10A
19		フォグライト✤	(7.5A)
20	―	―	―

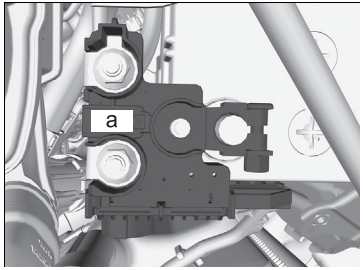
	表示	装備	容量
21		バックアップ(メイン)	15A※1
			10A※2
22		室内灯	7.5A
23		サブファン	(30A)
24	―※1	―	―
	※2	DCDC コンバーター1	(30A)
25		オートスターター	(7.5A)
26		ECU	(7.5A)
27	―	―	―
28	―	―	―
29		バックアップ	(10A)※1
			(30A)※2
30		LAF センサー	(10A)
31		PGM-FI サブ	(7.5A)
32		右側ヘッドライト ロービーム	10A
33		左側ヘッドライト ロービーム	10A

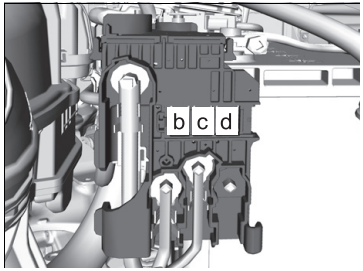
※1 ：2WD 車
※2 ：4WD 車

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く







■ヒューズボックス B

エンジンルーム内の助手席側に付いている、バッテリーの ⊕ 端子の隣にあります。

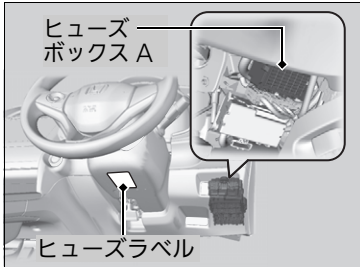
1. ⊕ 端子部分のフタを開ける。

2. タブを引いてカバーを取り外す。

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
a		バッテリーメイン	100A
b		RB メイン 1	70A
c		RB メイン 2	80A
d		BBC	80A

■室内運転席側のヒューズボックス



■ヒューズボックス A

ハンドル右側のインストルメントパネルの奥にあります。

▶ 下から確認できます。

≫室内運転席側のヒューズボックス

ヒューズボックス A

コラムカバーの下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

次ページに続く

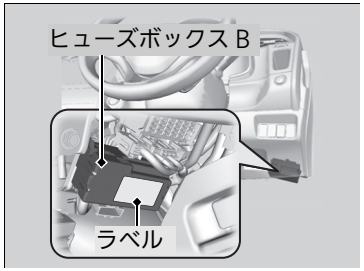
■各ヒューズの装備と容量

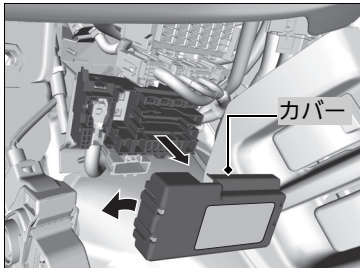
容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		ドアロック	20A
2	—	—	—
3		Honda スマートキーシステム✤	(10A)
4		左側ドアアンロック	15A
5		右側ドアアンロック	15A
6	—	—	—
7	—	—	—
8	DR	運転席パワーウィンドー	20A
9	AS	助手席パワーウィンドー	20A
10	RR L	助手席側リヤパワーウィンドー	20A
11	RR R	運転席側リヤパワーウィンドー	20A
12		左側ドアロック	15A
13		右側ドアロック	15A
14	—	—	—
15	R	右側ヘッドライトハイビーム	10A
16		STS✤	(7.5A)
17	—	—	—
18	—	—	—
19		—	(20A)
20	—	—	—

	表示	装備	容量
21	—	—	—
22		ウォッシャー	15A
23		リヤワイパー	(10A)
24		エアコン	7.5A
25	—	—	—
26		スターター	(7.5A)
27		ABS/VSA	7.5A
28		SRS エアバッグシステム	10A
29	L	左側ヘッドライトハイビーム	10A
30		オルタネータ	10A
31		パワーウィンドー	10A
32		フューエルポンプ	15A
33	—	—	—
34		メーター	7.5A
35		ミッションソレノイド	7.5A
36		アクセサリーソケット	20A
37		ACC✤	(7.5A)
38		ACC✤	(7.5A)
39		オプション	10A
40		リヤワイパー	10A
41	—	—	—
42	—	—	—

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。





■ヒューズボックス B

室内のヒューズボックスAの下にあります。
カバーを開けてください。

≫室内運転席側のヒューズボックス

ヒューズボックス B

ヒューズボックスのカバーに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とカバーの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

次ページに続く

■各ヒューズの装備と容量

容量に(　)がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

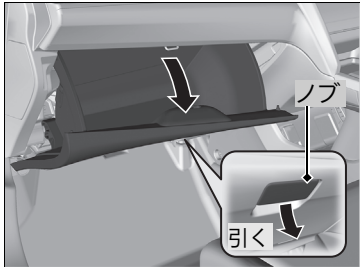
	表示	装備	容量
1		EPS	70A
		イグニッション(メイン)	50A※1
			30A※2
		ヒューズボックス(メイン2)	50A
		ABS/VSA	40A
		ヒューズボックス(メイン)	30A
	—	—	40A
2	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—

	表示	装備	容量
3		ヒーターモーター	40A
4	— ※1	—	—
	※2	イグニッション(メイン)	30A
5		ABS/VSA	30A
6		フロントデフロスター	(10A)
7		オートリトラミラー	(7.5A)
8		フロントセンサーカメラ✤	(7.5A)
9		スモールライト	10A
10		—	(20A)
11		リヤデフロスター	30A
12	※1	キーロック	(7.5A)
	— ※2	—	—
13		ヒーテッドドアミラー✤	(10A)
14	—	—	—
15	※1	フロントワイパー	30A
	— ※2	—	—

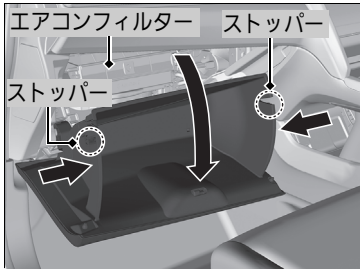
※1 ：Honda スマートキー非装備車
※2 ：Honda スマートキー装備車

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■室内助手席側のヒューズボックス✤



1. グローブボックスを開ける。



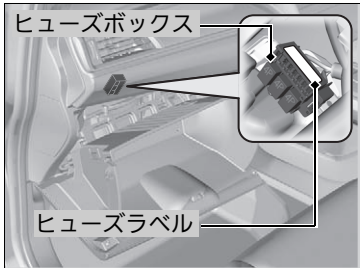
2. グローブボックスの両端に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。
▶ エアコンフィルターの上にあります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

≫室内助手席側のヒューズボックス✤

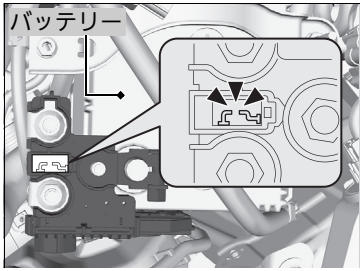
ヒューズボックス側面に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

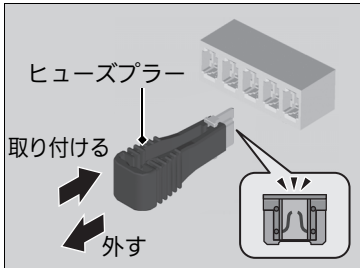


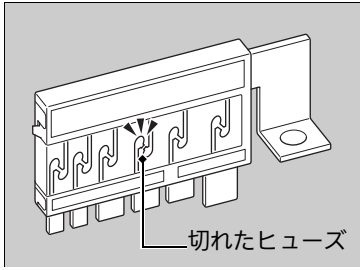
■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1	ー	ー	ー
2	📖	IG1-2	7.5A
3	📖	電動オイルポンプ	(10A)
4	ー	ー	ー
5	📖	アクセサリー	7.5A
6	📖	IG1-1	7.5A
7	📖	バックアップ	15A

ヒューズの点検と交換







1. エンジンスイッチを 0 ※1 にし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。

2. バッテリーの ⊕ 端子の隣にあるカバーを開ける。

3. 内部のヒューズを点検する。

▶ 切れているヒューズがあったら、Honda 販売店に修理を依頼してください。

4. エンジンルーム内のヒューズボックスAのフタを取り外す。

5. 内部のヒューズを点検する。

▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

6. 室内の大きいヒューズを点検する。

▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。

7. 室内の小さいヒューズを点検する。

▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

➡ **各ヒューズの装備と容量** P.347、348、350、352、354

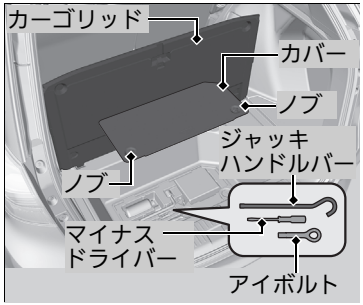
エンジンルーム内のヒューズボックスAには、フタの裏にヒューズプラーがついています。
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

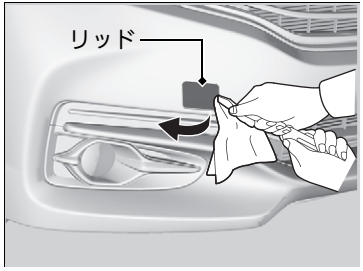
非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。
けん引は専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

■やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。





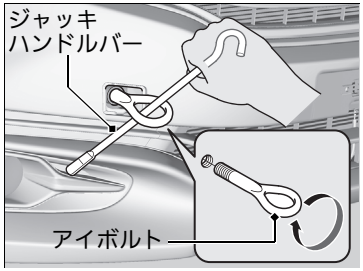
1. エンジンルームの下からトランスミッションフルード（オイル）などが漏れていないことを確認する。
   ▶ 異常がある場合は、四輪または前輪を接地させてのけん引は行わないでください。
2. カーゴリッドを開ける。ノブを左に回して、カバーを外し、マイナスドライバー、ジャッキハンドルバー、アイボルトを取り出す。
3. マイナスドライバーの先でリッドを開ける。
   ▶ バンパーが傷つかないよう、マイナスドライバーの先に布などを巻き付けてください。

≫非常時のけん引

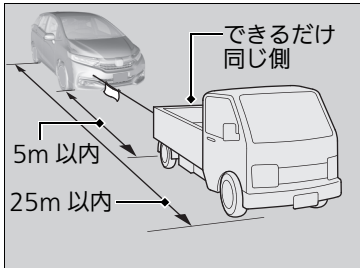
車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げてけん引してください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。



4. アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。



5. ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m 平方以上)を付ける。

6. エンジンをかけてセレクトレバーを D にし、約 5 秒間保持する。

▶ エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを I または II ※1 にします。

7. セレクトレバーを N にする。

8. パーキングブレーキを解除する。

9. 速度 30km/h 以下、走行距離 80km 以内でけん引する。

▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

※1 ：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

次ページに続く

非常時のけん引

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

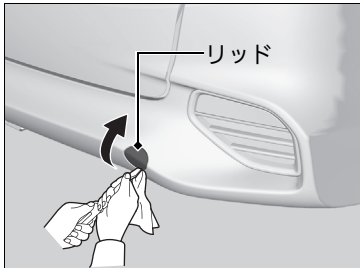
アドバイス

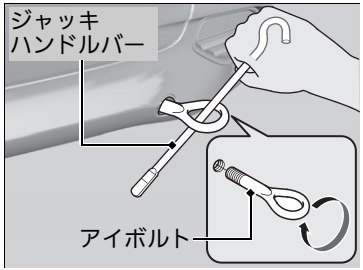
エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

- ハンドルがロックしていないか確認する
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- 無段変速オートマチック車は、トランスミッションが破損するおそれがある

■やむをえず他車をけん引する場合

やむをえず他車のけん引を行う場合、次の方法で行ってください。





1. マイナスドライバー、ジャッキハンドルバー、アイボルトを取り出す。
   ➡ **非常時のけん引** P.356
2. マイナスドライバーの先でリッドを開ける。
   ▶ バンパーが傷付かないよう、マイナスドライバーの先に布などを巻き付けてください。
3. アイボルトがガタつかない程度まで手で締め付けてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。

やむをえず他車をけん引する場合

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

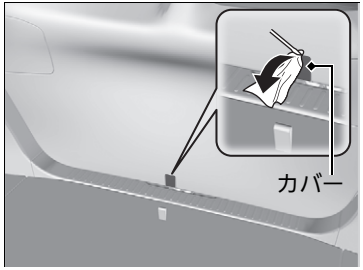
自車より重い車のけん引は避けてください。

アイドリングストップシステムを OFF にしてください。

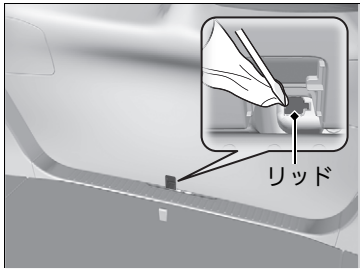
➡ **アイドリングストップシステムの ON/OFF** P.207

■開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. カバーの切り欠き部にマイナスドライバーの先端を差し込み、カバーを取り外す。
▶ カバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. テールゲートのロック部分のリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを開く。
▶ リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

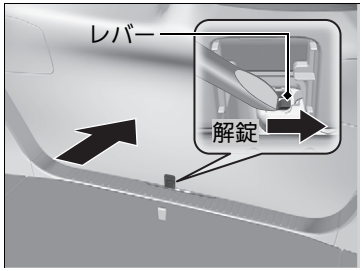
次ページに続く

≫開かないときの対処方法

⚠注意

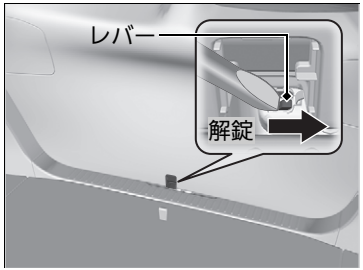
テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。



Honda スマートキーシステム装備車

3. マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。



Honda スマートキーシステム非装備車

3. マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かし、テールゲートを解錠する。

4. テールゲートを開ける。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様 362

■仕様

名称	SHUTTLE
排気量	1,496 cm³
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	5 名

■調節

点火プラグ	NGK	DILZKAR7C11S
	DENSO	DXE22HCR11S

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-5mm
	床板とのすき間	95mm 以上 [約 196N (20kgf) の力]
	カーペットとのすき間 (参考値)	85mm 以上 [約 196N (20kgf) の力] (ペダル踏面右端)
パーキングブレーキ	踏みしろ	6～7 ノッチ [約 294N (30kgf) の力]

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン
	レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	40L

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量 / タイプ	36AH (5)/N-55※1

※1 ： アイドリングストップシステム専用バッテリー

■ウォッシャー液

タンク容量	2.0L

■電球

ヘッドライト※1	ロービーム	12V-55W
	ハイビーム	12V-60W
ヘッドライト※2		LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯		12V-21W (橙色)
車幅灯		12V-5W※1
		LED※2
フォグライト✤		LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯		LED
制動灯 / 尾灯		LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯		12V-21W (橙色)
後退灯		12V-16W
ハイマウントストップランプ		LED
番号灯		LED
マップランプ		LED
室内灯		LED
カーゴスペース照明灯		LED

※1 ： ハロゲンヘッドライト装備車
※2 ： LED ヘッドライト装備車

■デファレンシャルオイル 4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.34L (交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ HCF-2	2WD 車	3.4L (交換時)
		4WD 車	3.9L (交換時)

■推奨エンジンオイル

Honda 純正 エンジンオイル	ULTRA NEXT※1	
	ULTRA Green	
	ULTRA LEO	API SN SAE 0W-20
規定量	オイル交換時	3.1L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	3.3L

※1 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	3.78L (交換時 : リザーブタンク 0.42L 含む)

■タイヤ

サイズ	185/60R15 84H
空気圧 (kPa[kgf/cm²])	前輪 230[2.3]/ 後輪 220[2.2]※1
	前輪 220[2.2]/ 後輪 220[2.2]※2
リムサイズ	15×6J

※1 ： 2WD 車
※2 ： 4WD 車

✤ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

数字

4WD(四輪駆動機構) 213

A

A/C(エアコン) 185, 311
ABS(アンチロックブレーキシステム) 276
ABS警告灯 65, 276
ACC
(アダプティブクルーズコントロール) 229
ACC警告灯 71
ACC表示灯 80
AVG(平均燃費表示) 99

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 215
CMBS警告灯 72
CVT(無段変速オートマチック) 204

E

ECONスイッチ 211
ECON表示灯 78
ENGINE START/STOPスイッチ 146
エンジンスイッチとの比較 149
パワーモードの切り換えかた 146
EPS(電動パワーステアリング)システム
警告灯 67, 345

H

Hondaスマートキー 126, 127, 128
Hondaスマートキーシステム警告灯 65
Hondaスマートキー電池消耗警告灯 69
Hondaスマートキー持ち去り警告灯 70
緊急時のエンジン停止方法 336
電池交換のしかた 309
Hondaスマートキー持ち去り警告灯 70

I

IRカットドアガラス 314
ISOFIX/i-Size チャイルドシート 54

L

LKAS(車線維持支援システム) 242
LKAS警告灯 71
LKAS表示灯 80

M

MIST 155

P

PGM-FI警告灯 63, 343

R

RANGE(航続可能距離表示) 99

S

SEL/RESETスイッチ 103
SRSエアバッグ 38
エアバッグシステム警告灯 45, 66

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 212
VSA OFF警告灯 66
VSA警告灯 66, 212

W

W(ワット)数 362

ア

アームレスト 176
アイドリングストップシステム 207
アイドリングストップシステム警告灯 70
アイドリングストップ表示灯 79
アイボルト 320, 357
アクセサリー 318
アクセサリーソケット 181

アダプティブクルーズコントロール（ACC）..... 229
ACC警告灯 71
ACC表示灯 80
安全なドライブのために 27
安全に関する表示 22
安全のための確認事項 27
アンチロックブレーキシステム（ABS） 276
ABS警告灯..... 65, 276
アンビエントメーター 5, 6

イ

一酸化炭素の危険性..... 60
イモビライザーシステム 141
イモビライザーシステム表示灯 77
イルミネーションコントロール..... 158
インフォメーションスイッチ 102
インフォメーション表示灯..... 81
インフォメーションディスプレイ 98

ウ

ウィンカースイッチ（方向指示器） 150
ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の補給 291
ウィンドウォッシャースイッチ 155
ウィンドーの開閉 143
ウェアインジケーター 303
運転
エンジンの始動..... 198
シフト操作..... 205
ブレーキ操作 274

エ

エアクリーナーエレメント 362
エアコン..... 185, 311
エアクリーンフィルター 311
オートエアコンの使いかた..... 186
窓の曇りや霜の取りかた 188
エアバッグ 38
SRSエアバッグ 38
エアバッグシステム警告灯..... 45
エアバッグシステム故障診断記録装置 23
エアバッグのお手入れ 46
サイドエアバッグ 41
サイドカーテンエアバッグ..... 43
エコアシストシステム 5
エマージェンシーストップシグナル..... 278
エンジンオイル
推奨エンジンオイル..... 290, 362
油圧警告灯..... 63, 342
エンジンスイッチ 145
パワーモードとの比較 149
エンジンの始動 198
エンジンが始動しない 334
ジャンプスタート 337
エンジンルーム内のメンテナンス..... 288
ウィンドウォッシャー液の補給 291
エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 288
推奨エンジンオイル..... 290
ボンネットを開ける..... 289
冷却水の点検と補給..... 340, 341
エンジン冷却水..... 362

オ

追越合図（パッシング）..... 151
応急修理剤（タイヤパンク）..... 321
オートエアコン 186
オートライトコントロール警告灯..... 67
オートリトラミラー 163
オーバーヒート 340
オドメーター 99, 104
温度センサー 97

カ

カーゴスペース照明灯..... 178
外気温表示..... 97, 100
鍵（かぎ） 126
カスタマイズ機能..... 107
ガソリン 281, 362

キ

キー
Hondaスマートキー..... 126, 127, 128
キーが 0 から I に回らない..... 20
キーが I から 0 に回らない..... 20
キー閉じ込み防止装置..... 136
キーナンバータグ..... 127
キーの種類と機能..... 126
キーレスエントリー..... 134
キーレスエントリー一体キー..... 126
キーレスエントリーでドアが開かない..... 21
後席ドアが開かない..... 20
電池交換のしかた..... 309
内蔵キー..... 126
Hondaスマートキーの電池が切れたとき..... 335
キー閉じ込み防止装置..... 136
キーナンバータグ..... 127
キーレスエントリー..... 134
キーレスエントリー一体キー
電池交換のしかた..... 309
キックダウン..... 204
給油..... 281
給油のしかた..... 281
指定燃料..... 281, 362
燃料計..... 104
燃料残量警告灯..... 65

ク

空気圧..... 362
空気圧測定器による点検..... 303
グラブレール..... 3
クリープ現象..... 204
車の改造..... 318
グローブボックス..... 179

ケ

経過時間表示..... 102, 105
計器..... 61
警告灯..... 62
ABS警告灯..... 65, 276
ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯(オレンジ)..... 71
CMBS(衝突軽減ブレーキ)警告灯..... 72, 73
EPSシステム警告灯..... 67, 345
Hondaスマートキーシステム警告灯..... 65
Hondaスマートキー電池消耗警告灯..... 69
Hondaスマートキー持ち去り警告灯..... 70
LKAS(車線維持支援システム)警告灯(オレンジ)..... 71
PGM-FI警告灯..... 63, 343
VSA OFF警告灯..... 66
VSA警告灯..... 66
アイドリングストップシステム警告灯..... 70
エアバッグシステム警告灯..... 66
オートライトコントロール警告灯..... 67
高水温警告灯..... 68
シートベルト非着用警告灯..... 64
充電警告灯..... 63, 342
スターターシステム警告灯..... 69
セレクトポジション P 移動警告灯..... 70
ドア/テールゲート開閉警告灯..... 67
トランスミッション警告灯..... 64
燃料残量警告灯..... 65
ブレーキ警告灯(レッド)..... 62, 344
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)..... 62
油圧警告灯..... 63, 342
路外逸脱抑制機能警告灯..... 74
警告灯の点灯/点滅..... 342
けん引..... 356

コ

交換
後退灯電球..... 296
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球..... 295
車幅灯電球..... 294
制動灯/尾灯電球..... 295
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球..... 293
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球..... 294
ハイマウントストップランプ電球..... 297
番号灯電球..... 297
フォグライト電球..... 294

ヘッドライト電球 292
ワイパーブレードラバー 298, 300
工具 320
高水温警告灯 68
航続可能距離表示 99, 102, 105
後面方向指示器/
後面非常点滅表示灯電球 295
コートフック 182
誤発進抑制機能 222
コンソールボックス
センターコンソールボックス 179

サ

サービス診断記録装置について 23
サイドエアバッグ 41
サイドカーテンエアバッグ 43
サンバイザー 3

シ

シートの調節 164
アームレスト 176
フロントシート 164
ヘッドレスト 173
リヤシート 166
シートベルト 28
アンカーポイント 37
シートベルトの着用 31
シートベルトの点検 37
シートベルト非着用警告灯 64
シートベルトプリテンショナー 30
シートベルトリマインダー 29
妊娠中のかたのシートベルト
着用のしかた 36
時刻の設定 122
室内装備品 179
室内灯 177
指定燃料 281, 362
シフト操作 205
車外の清掃 315
車線維持支援システム(LKAS) 242
LKAS警告灯 71
LKAS表示灯 80
ジャッキ 320
ジャッキハンドルバー 320
ジャッキハンドル
(ホイールナットレンチ) 320
車内の清掃 313
車幅灯 294
ジャンプスタート 337
充電警告灯 63, 342
瞬間燃費表示 99, 102, 105
仕様 362
衝撃感知ドアロック解除システム 138
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 215
ショルダーアンカー 33
親水ミラー 317

ス

スイッチ
ECONスイッチ 211
イルミネーションコントロール 158
セレクト/リセットノブ 98, 103, 122, 158
ヒーテッドドアミラー 157
フォグライトスイッチ 153
フロントガラス熱線スイッチ 157
ヘッドライトレベリングダイヤル 154
方向指示器(ウィンカースイッチ) 150
ライトスイッチ 151
リヤデフロスター 157
ワイパー/ウォッシャー 155
スターターシステム警告灯 69
ステアリング 160
スノータイヤ 308
スパークプラグ 362
スピードメーター 96

セ

清掃 313
制動灯 295
セキュリティシステム 141
イモビライザーシステム 141
セキュリティアラームシステム 141
セレクトポジション 205
セレクトポジション表示灯 79, 206

セレクトポジションP移動警告灯 70
セレクトレバー
セレクトレバーが動かない..... 339
セレクトレバーの操作 206
先行車発進お知らせ機能..... 260
センターコンソールボックス..... 179
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯..... 293

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯..... 294

タ

タイダウンフック..... 182
タイヤ..... 302
ウェアインジケーター 303
指定空気圧..... 362
タイヤの点検 302
タイヤのローテーション 307
タイヤパンク応急修理キット 321
冬期のタイヤ 308
パンク 321
タイヤチェーン 308
タコメーター..... 96

チ

チェーン 308
チャイルドシート..... 47
ジュニアシート 58
乳児のチャイルドシート 48
幼児のチャイルドシート 49
チャイルドプルーフ 138
駐停車操作..... 279

テ

低水温表示灯 76
データの開示について..... 23
テールゲートの開閉 139
テールゲートが開かないとき 359
ドア/テールゲート開閉警告灯 27, 67
デフロスター 188
リヤデフロスター 157
点火プラグ..... 362
電子制御ブレーキアシスト..... 277
電池交換 309

ト

ドアの施錠と解錠 126
Hondaスマートキー 126
キー閉じ込み防止装置..... 136
キーナンバータグ..... 127
キーの種類と機能..... 126
キーレスエントリー 134
キーレスエントリー一体キー..... 126
キーレスエントリーでドアが開かない..... 21
後席ドアが開かない 20
車外でのドアの施錠/解錠..... 129
車内での施錠/解錠..... 137
衝撃感知ドアロック解除システム..... 138
チャイルドプルーフ 138
ドア/テールゲート開閉警告灯..... 27, 67
ドアミラー..... 162
冬期のタイヤ 308
スノータイヤ 308
タイヤチェーン 308
時計..... 122
時計の表示..... 97
トップテザーアンカレッジ..... 55
トップテザーアンカレッジシンボル..... 55
トップテザーストラップ..... 55
ドライバー..... 320
トラブルシューティング
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 21
エンジンが始動しない..... 334
オーバーヒートした 340

キーが 0 から I に回らない 20
キーが I から 0 に回らない 20
キーレスエントリーでドアが開かない..... 21
警告灯が点灯/点滅した 342
けん引してもらいたい..... 356
後席ドアが開かない 20
ジャンプスタートしたい 337
セレクトレバーが動かない 339
走行するとブザーが鳴る 21
ハイオクガソリンは使える？..... 21
パンクした 321
ヒューズが切れた..... 346
ブレーキを踏むと音がする 21
ブレーキを踏むと振動する 20
トランスミッション警告灯..... 64
トランスミッションフルード 362
トリップメーター 99, 104
ドリンクホルダー 180

ナ

内蔵キー..... 126

ネ

燃料..... 281, 362
燃料計..... 104
燃料残量警告灯 65

ハ

パーキングブレーキ 274
排気ガスの危険性..... 60
ハイビーム 151
電球の交換..... 292
ハイビーム表示灯 76
ハイマウントストップランプ..... 4, 297
ハザードスイッチ..... **表紙ウラ**
発炎筒 320
バッシング 151
発進補助ブレーキ機能 210
バッテリー
ジャンプスタート 337
充電警告灯..... 63, 342
容量..... 362
バニティミラー 3
パワーウィンドーの開閉..... 143
パワーモード
エンジンスイッチとの比較..... 149
パワーモードオートオフ機能 147
パワーモード警告ブザー 147
パワーモードの切り換えかた 146
パンク 321
番号灯 297
ハンドル..... 160
ハンドル位置調節レバー..... 160
ハンドル操作表示灯 80
ハンドルロック 145

ヒ

ヒーテッドドアミラー..... 157
非常点滅表示灯スイッチ ..... **表紙ウラ**
尾灯 295
ヒューズ 346
ヒューズの設置場所..... 346
ヒューズの点検と交換 355
標識認識機能 264
表示灯..... 76
ACC（アダプティブクルーズコントロール）表示灯（グリーン） 80
ECON表示灯..... 78
LKAS（車線維持支援システム）表示灯（グリーン） 80
アイドリングストップ表示灯..... 79
イモビライザーシステム表示灯 77
インフォメーション表示灯 81
セキュリティアラームシステム作動表示灯 78
セレクトポジション表示灯 79, 206
低水温表示灯..... 76
ハイビーム表示灯 76
ハンドル操作表示灯..... 80
フォグライト点灯表示灯..... 76
ブレーキ踏み込み不足表示灯..... 79
方向指示器/非常点滅表示灯..... 76
ライト点灯表示灯 76

フ

ブースターケーブル 337
フォグライト 294
フォグライトスイッチ 153
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 21
走行するとブザーが鳴る 21
フューエルリッドの開けかた 281
プラズマクラスター 191
ブレーキ警告灯 344
ブレーキ警告灯(レッド) 62
ブレーキシステム 274
ABS(アンチロックブレーキシステム) ... 276
エマージェンシーストップシグナル 278
電子制御ブレーキアシスト 277
パーキングブレーキ 274
フットブレーキ 275
ブレーキ警告灯(レッド) 62, 344
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 62
ブレーキを踏むと音がする 21
ブレーキを踏むと振動する 20
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 62
ブレーキ踏み込み不足表示灯 79
ブレーキフルード 362
ブレーキ警告灯(レッド) 62, 344
フロントガラス熱線スイッチ 157
フロントシート 164
アームレスト 176
ヘッドレスト 173
フロントセンサーカメラ 271

ヘ

平均車速表示 102, 105
平均燃費表示 99, 102, 105
ヘッドライト 151, 317
追越合図(パッシング) 151
電球の交換 292
ハイビーム 151
ハイビーム表示灯 76
ライト点灯表示灯 76
ロービーム 151
ヘッドライトレベリングダイヤル 154
ヘッドレスト 173
フロントシート 173
リヤシート 174

ホ

ホイールカバー 304
ホイールサイズ 362
ホイールナットレンチ
(ジャッキハンドル) 320
方向指示器(ウィンカースイッチ) 150
方向指示器/非常点滅表示灯 76
ホーンスイッチ 1
歩行者事故低減ステアリング 224
ホンダセンシング 214

マ

マイナスドライバー 320
マップランプ 178
マルチインフォメーションディスプレイ 101
警告メッセージ 82

ミ

ミラー 161
ドアミラー 162
バニティミラー 3
ルームミラー 161

メ

メーター 9, 10, 96
インフォメーションディスプレイ 98
スピードメーター 96
タコメーター 96
燃料計 104
マルチインフォメーション
ディスプレイ 101
メンテナンス 284
エンジンルーム内のメンテナンス 288
キーレスエントリー一体キー/
Hondaスマートキー 309
清掃 313
タイヤの点検と整備 302
メンテナンスに関する注意事項 287

メンテナンスを安全に行うために..... 286
ライト類の点検と整備..... 292
ワイパーブレードラバーの点検と整備.... 298

ユ

油圧警告灯 63, 342

ヨ

四輪駆動機構（4WD） 213

ラ

ライトスイッチ..... 151
追越合図（パッシング）..... 151
ハイビーム..... 151
ハイビーム表示灯..... 76
フォグライト点灯表示灯 76
ライト点灯表示灯..... 76
ロービーム..... 151
ライト類の点検と整備 292
後退灯電球..... 296
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯
電球 295
車幅灯電球..... 294
制動灯/尾灯電球 295
前面方向指示器/
前面非常点滅表示灯電球..... 293
側面方向指示器/
側面非常点滅表示灯電球 294
ハイマウントストップランプ電球 297
番号灯電球..... 297
フォグライト電球 294
ヘッドライト電球 292
ラゲッジアンダーボックス 183
ラジエーター..... 340, 341

リ

リザーブタンク 340, 341
リムサイズ 362
リヤシート 166
ヘッドレスト 174
リヤデフロスター..... 157

ル

ルームミラー..... 161

レ

レーダーセンサー..... 273
冷却水..... 340, 341, 362
オーバーヒート..... 340
高水温警告灯 68
低水温表示灯 76
補給..... 340, 341

ロ

ロアアンカレッジ..... 54
ロービーム..... 151
電球の交換 292
路外逸脱抑制機能..... 253
路外逸脱抑制機能警告灯..... 74

ワ

ワイパー/ウォッシャー..... 155
ワイパーブレードラバー 298

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新のHonda販売店を検索することが可能です。
Hondaホームページ　http://www.honda.co.jp/
（Hondaホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用Hondaホームページをご覧ください。
http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/

※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名